佐久市立国保浅間総合病院

年 報

ANNUAL REPORT

2021

巻 頭 言



佐久市立国保浅間総合病院 名誉院長(前院長兼病院事業管理者) 村島 隆太郎

新型コロナ感染症の流行により、全世界の人々が不便な生活を強いられ、また医療従事者は、最前線で感染リスクと戦いながら業務を遂行しなければならないということで、日々の診療業務・感染予防・新型コロナワクチン接種にご尽力頂き、心より感謝申し上げます。

2020年12月22日からの院内集団感染時は、各部署のご協力により、2021年1月18日に集団感染前の業務体制に戻ることができました。感染に対する恐怖や責任感で多くの職員が不安やストレスを感じられたことと思います。

新型コロナ感染症パンデミック以降、公立病院に求められている病院機能として、救急医療・災害医療・へき地医療・周産期医療に、新興感染症対応も加えられてきました。どれも労力のか

かる分野ですが、地域医療構想調整会議では、データによって評価されます。救急車受入数・不応需率・コロナ患者さんの受け入れ数などは、病院機能の評価に直結しますので、受け入れをよろしくお願いいたします。

2022 年は病院機能評価 (3rdG:Ver. 2.0) の受審の年です。病院機能評価は財団法人日本病院機能評価機構が機能の充実度によって評価するもので、その結果は、診療報酬や施設基準等にも反映されるものです。2021 年 12 月 1 日には、病院機能評価キックオフ宣言もおこなわれました。当院の基本理念は「患者さん中心の、患者さんのための、良質な医療の実践です。」 医療の質を向上させ、患者さんに選ばれる病院となれるよう、全職員が協力することをお願いいたします。

2011年3月11日の東日本大震災、津波による福島原子力発電所非常電源の喪失から生じた炉心融解・広域での放射能汚染などで、多くの住民が避難生活を強いられました。それから10年経過しないうちに、今度は新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが世界を襲いました。疾病・天災・戦争など、世界では様々な災厄が生じ、それぞれの人生が、不条理で理不尽な出来事に巻き込まれます。そんな時は、課された役割をこなすとともに心身の健康を保つ行動をとることが大切であると思います。職員皆様とそのご家族の健康を祈念して、巻頭のご挨拶といたします。

巻頭言 活動報告 診療部 内科-----呼吸器科····· 救急医療部 手術部

チーム	
栄養サポートチーム(NST)······	51
糖尿病サポートチーム(DST)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
呼吸サポートチーム(RST)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
排尿ケアチーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	58
コードブルーチーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	60
医療技術部	
医療技術部理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
薬剤科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62
臨床検査科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
臨床工学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	70
診療放射線科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
歯科口腔衛生技工科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	75
リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	78
栄養科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	80
看護部	
看護部の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	83
看護部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
西 3 階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	86
西 4 階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88
西 5 階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	90
西 6 階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
東 3 階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	94
南 3 階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
外来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
透析室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	103
東2階病棟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	105
事務部	
事務部の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	109
総務課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	110
医事政策課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	112
地域医療部	
地域医療部の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	113
地域医療室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	114
在宅支援室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	116

医療安全管理室の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
医療安全管理室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	128
感染制御室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132
病院概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	138

病院の理念

患者さん中心の、患者さんのための、 良質な医療の実践

基本方針

- 時代に応じた地域のニーズの把握に努め、保健・ 医療・福祉の向上に寄与します
- 医療に従事する者として、常に医学・医療の研鑽に 励み、患者さんに満足いただけるよう努力します
- 最適な医療を提供するために、ソフト・ハード両面に おける医療環境を整備します
- 患者さんの権利を尊重し、インフォームド・コンセント (説明と同意)に基づいた医療を提供します

診療の基本方針

私たちは、病院の基本理念、基本方針に基づき、患者さんのための診療を行います。

- 患者さん中心の医療の追及
- 地域に根ざした医療の実践
- 保健、福祉との連携
- 医療事故の防止
- 個人情報の適切な取り扱い

診療部の指針

1. 患者さん中心の医療の追及

: 急性期から終末期まで

2. 地域に根ざした医療の実践

:病診、病病連携をふまえて

3. 保健・福祉との連携

:行政との協力

内科

★ 概要

全身がみれる内科医の集まりです

内科の病気は多岐にわたるため、はじめて受診された患者さんは、まず一般内科医が診察をし、必要があれば専門外来、専門医への紹介が可能です。初診患者さんは原則として紹介状が必要で、再来患者さんはすべて予約となります。病診連携を積極的に勧めていますので、開業医からの紹介があれば優先的に専門医の診察を受けられますし、希望があれば近所の開業医をご紹介いたします。

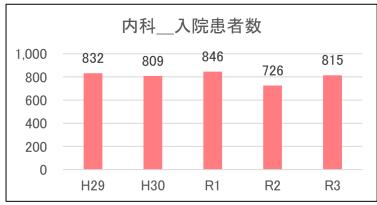
市民病院という立場から、地域での病気の啓発、検診、診療所、救急外来、急性期および療養病棟入院患者の管理から往診まで、日本内科学会教育関連病院という立場から専門医の育成、学会への参加と幅広い活動を行っています。

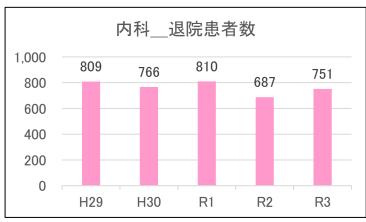
★ スタッフ

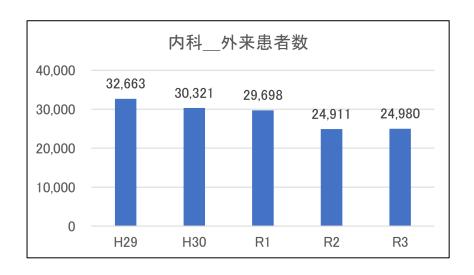
内科専門医 8名

嘱託医師 2名

非常勤医師 9名







2019 年		2020 年		2021年	
疾患名	件数	疾患名	件数	疾患名	件数
肺炎等	155	肺炎等	100	誤嚥性肺炎	84
心不全	77	心不全	76	心不全	76
誤嚥性肺炎	65	誤嚥性肺炎	72	腎臓又は尿路の感染症	64
睡眠時無呼吸	52	睡眠時無呼吸	47	肺炎等	60
腎臓又は尿路の感染症	45	腎臓又は尿路の感染症	40	その他の感染症	59
脳梗塞	30	脳梗塞	35	肺の悪性腫瘍	29
肺の悪性腫瘍	18	慢性腎不全	16	睡眠時無呼吸	26
徐脈性不整脈	13	肺の悪性腫瘍	14	慢性腎不全	19
胃十二指腸潰瘍	13	ウイルス性腸炎	13	敗血症	15
胆嚢炎等	11	その他の感染症	12	ウイルス性腸炎	15

糖尿病内科

★ 概要

佐久平地域から糖尿病で苦しむ患者さんを出さないために

原則糖尿病の方だけの専門外来ですが合併されている高血圧・脂質異常症・メタボリックシンドローム・循環器疾患・内分泌疾患などの診療も行っています。

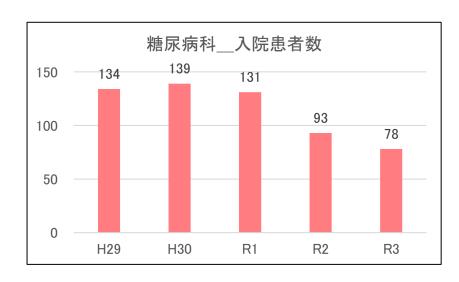
初代院長(名誉院長)故吉澤國雄先生が昭和35年(1960年)に糖尿病外来を創設されて以来実に60年の歴史があり、その間おもに信州大学内分泌・代謝グループの協力で発展してきました。

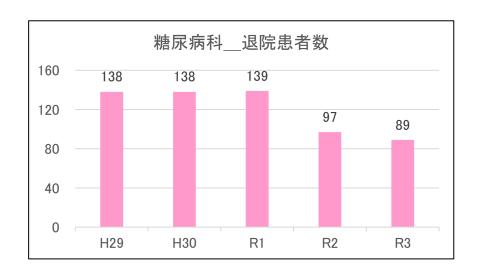
当院は東信地区で最初の日本糖尿病学会認定教育施設として病院内の仕事のみならず、つねに東信地区の糖尿病予防・診療の先頭に立って医師・医療スタッフ・患者様のネットワークの中心であり続けています。

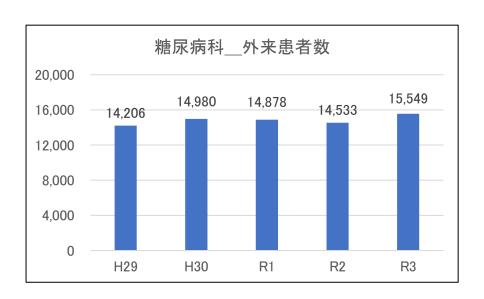
外来は月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日予約制。看護師をはじめ医療スタッフによる療養指導も行っています。

★ スタッフ

日本糖尿病学会専門医・研修指導医2名日本糖尿病学会専門医2名非常勤医師1名







2019 年		2020年		2021年	
疾患名	件数	疾患名	件数	疾患名	件数
2型糖尿病	67	2型糖尿病	60	2型糖尿病	35
心不全	11	1型糖尿病	11	心不全	7
糖尿病性ケトアシドーシス	7	心不全	9	糖尿病性ケトアシドーシス	7
1型糖尿病	6	糖尿病性ケトアシドーシス	5	1型糖尿病	3
肥満症	5	体液量減少症	4	腎臓又は尿路の感染症	2
肺炎等	4	アルコール性肝障害	3	肺炎等	2
体液量減少症	3	肺・縦隔の感染、膿瘍	2	ウイルス性腸炎	2
腎臓又は尿路の感染症	3	貧血	2	肝硬変	1
体温異常	3	体温異常	2	股関節・大腿近位の骨折	1
慢性腎不全	3	肺炎等	2	脳梗塞	1

循環器内科

★ 概要

カテーテル治療を中心に循環器疾患全般の診療を行います

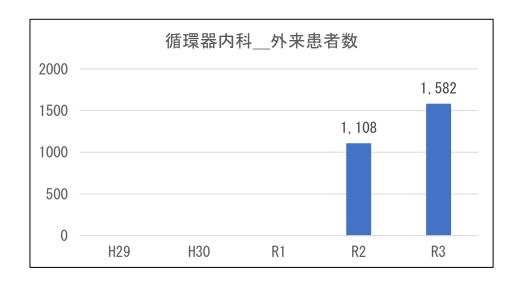
2020年4月より、循環器内科診療が本格的に開始となりました。部長の篠崎は、浅間総合病院で生まれ、高校を卒業まで佐久市で育ちました。医師となって内科研修後は、心臓の冠動脈をはじめ、下肢動脈、頸動脈、鎖骨下動脈、腎動脈などの末梢動脈をカテーテルという細い管で拡張するカテーテル治療(インターベーション治療)を専門に、大勢の患者さんの治療を行うとともに、多くの学会発表や論文発表を行ってきました。

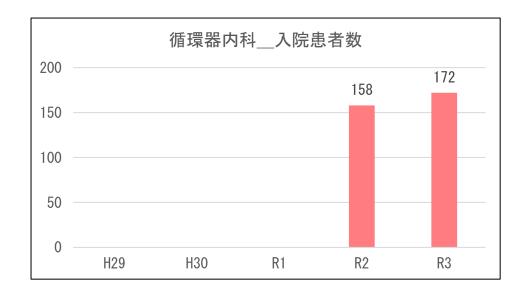
特に、下肢動脈に対するカテーテル治療を、手首の橈骨動脈から行う低侵襲治療においては、世界に先駆けて行い、臨床研究を進めるとともに、それにかかわる医療器具の開発を行ってきました。

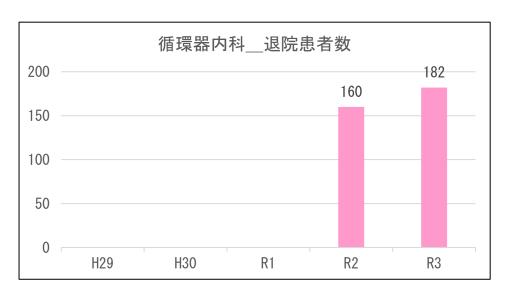
★ スタッフ

•循環器内科部長 1名

治療内容	実施件数
冠動脈カテーテル治療	77件 (うち24件は緊急症例)
末梢動脈へのカテーテル治療	25 件
ペースメーカー留置術	10 件







	2020年	2021年
疾患名	件数	件数
PCI		80
急性心筋梗塞	12	12
不安定狭心症	6	14
労作性狭心症	35	54
EVT		
下肢閉塞性動脈硬化症	23	24
ペースメーカー移植術	7	4
ペースメーカー交換術	1	1
下大静脈フィルター留置術	5	1
下大静脈フィルター除去術	3	3

特殊外来

★ 概要

禁煙外来

やめられないのは意志が弱いからではありません

自力では禁煙困難なニコチン依存症の患者様に対し、禁煙補助薬を用いて無理なく禁煙実現をサポートします。見事禁煙達成時には修了証を発行いたします。

★ スタッフ

日本内科学会総合内科専門医 1名

睡眠時無呼吸外来

診断から治療まで充実したサポートをします

睡眠中の呼吸停止や大きないびき、昼間の強い眠気などを主症状とする睡眠時無呼吸症候群は、近年、糖尿病・高血圧・心臓病・うつ病などと強い関連性が指摘され、睡眠時無呼吸症候群を治療することで、それらの心配が軽減することが分かってきました。

この外来では、精密検査である終夜睡眠ポリグラフ (入院検査) を実施し、日本睡眠学会の認定 技師が睡眠時無呼吸症候群を正しく診断します。

また、内科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・臨床検査科が連携して、内科的治療である CPAP (シーパップ) 治療や外科的治療、口腔内装置の作成など、患者様に最も適した治療法を選択していただき、よりよい睡眠と健康を得るためのサポートをいたします。

★ スタッフ

耳鼻咽喉科指導[<u>E</u>	1名
歯科医師臨床指導		2名
日本内科学会総合	合内科専門医	2名
日本睡眠学会	睡眠医療認定検査技師	1名

呼吸器科

★ 概要

体の上半身を占める胸郭、その中で呼吸器は、肺・縦隔・胸壁と多くの部分を占める領域で す

さらに肺を中心とする呼吸器疾患は感染症、癌、閉塞性肺疾患(COPD)、瀰漫性肺疾患、アレルギー・免疫・炎症疾患、肺循環・肺損傷、肺機能、呼吸管理、縦隔腫瘍、胸膜炎・膿胸等、極めて 多岐に分かれており、現在ではそれぞれの分野にハイレベルな専門医がいる状況です。

浅間病院呼吸器科ではそれらのスクリーニングを中等度レベルまでの治療を行えるよう診療体制を整えており、必要であれば佐久医療センター、信大病院、相沢病院、長野赤十字病院、東大病院、国立病院機構東京病院等へ患者さんを紹介しています。また近隣の医師との病診、病病連携も整っています。

★ スタッフ

呼吸器科•呼吸器外科専門医 1名

	2019年	2020年	2021年
手術疾患名	件数	件数	件数
肺がん	18	15	6
自然気胸	1	6	6

スマート外来

★ 概要

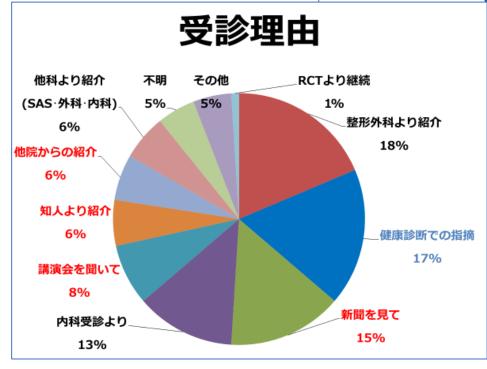
食事の力で生活習慣病の予防・治療を行います

スマート外来では、肥満が原因の脂肪肝や(境界型)糖尿病などを有する方を対象に、科学的根拠に基づく食事療法及び生活指導で減量をサポートして健康障害の予防・改善を行っています。通院中に体重管理の知識を得ていただき、将来的にはご自身で体重コントロールができるようになってもらうことを目的としています。また、より効果的な体重管理サポートを探るための臨床研究も積極的に行い、診療に活かしています。

★ スタッフ

医師 2名 栄養科 管理栄養士





心療内科

★ 概要

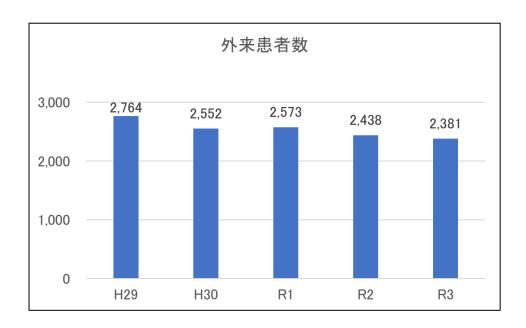
心の不調や心理的要因による体の不調の治療を行っています

総合病院の中にあるので、内科や外科などの身体科の医師と連携して治療を進めることも可能です。必要に応じて心理カウンセリングも実施しています。

★ スタッフ

 精神薬理学
 非常勤医師
 1名

 精神科一般
 非常勤医師
 1名



外科

★ 概要

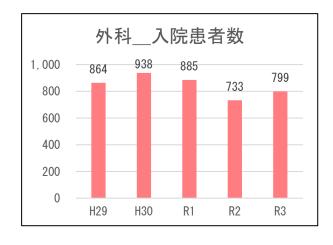
検診から外科治療まで幅広く働いています

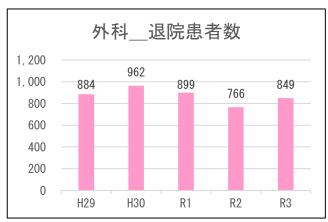
当院の外科は1年365日、1日24時間、佐久の地域医療を担っていると自負しております 胃がん・大腸がん・肝・胆・膵臓がんなどの消化器がんや乳がん、肺がんなどの悪性腫瘍の外科治療、抗がん剤治療、緩和医療が診療の中心ですが、腸閉塞、虫垂炎、そけいヘルニア、自然気胸、下肢静脈瘤などの良性疾患の外科治療も行っています。

昭和 38 年、県内初の心臓手術を手がけた先取の精神を忘れず、中堅スタッフは、標準的な医療 を確実に実践しながら、若いスタッフと共に最新医療技術の導入にも研鑽しています。また、研修 医にも指導医クラスが直接指導して明日の日本の医療を担う人材の育成に努めています。

★ スタッフ

・外科部長(消化管)
・外科部長(肝・胆・膵)
・手術部副部長(兼)外科部長
・外科医長
・外科医師
・嘱託医師
1名
1名
3名







総手術件数	297 件
緊急	70 件
待機	227 件
うち全身麻酔	267 件

	2019年	2020年	2021年
手術疾患名	件数	件数	件数
乳がん	35	31	29
胃がん	9	12	9
胆管がん	10	7	5
胆石・総胆管結石	33	39	26
肝がん	3	4	3
膵臓がん	9	9	1
大腸がん	34 (25)	18 (15)	8(5)
盲腸	4(2)	2(2)	2(1)
結腸	15 (13)	10(7)	5(3)
直腸	15 (10)	6(6)	1(1)
人工肛門	7	5(1)	6(2)
腹膜炎	2	1	6
腸閉塞	15	16	5
虫垂炎	30 (22)	21 (18)	35 (28)
鼡径ヘルニア	49 (23)	50 (18)	51 (23)
痔核	18	16	25
仙骨神経刺激療法	4	2	
その他	9	18	46

血管外科

★ 概要

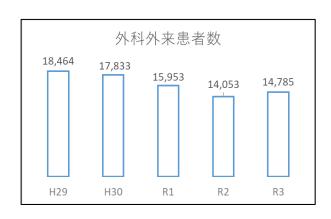
血管外科では動脈・静脈の手術治療・術後管理を行います

令和3年度も下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、閉塞性動脈硬化症(ASO)、下肢のリンパ浮腫を中心に 診療しました。手術は下肢静脈瘤に対する伏在静脈選択部分抜去術を中心に行いました。ASO は診 断と術後薬物療法が中心で、治療は循環器内科のカテーテル治療を優先しています。

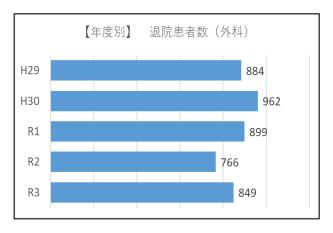
★ スタッフ

血管外科部長:箕輪 隆 日本外科学会専門医、日本脈管学会専門医

★ 今年度の取り組みと成果







手術件数

	2019年	2020年	2021年
手術疾患名	件数	件数	件数
下肢静脈瘤	53	60	28
閉塞性動脈硬化症	5	2	2

整形外科

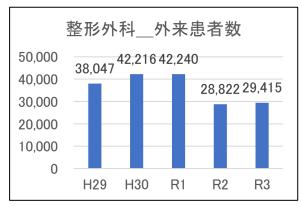
★ 概要

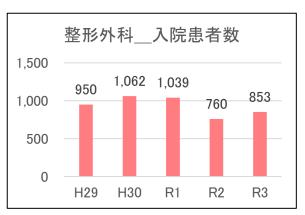
加齢による疾患(骨粗鬆症、変形性関節症、脊椎疾患など)と外傷治療(骨折・脱臼など)に力を入れています

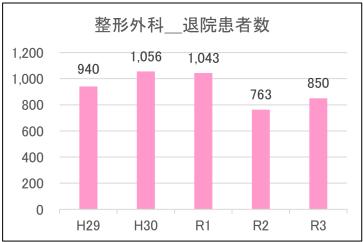
当科では骨・関節・筋腱・靭帯・脊椎・脊髄・末梢神経など、主に運動器の疾患と外傷を扱っています。

★ スタッフ

末梢神経疾患手の外科スポーツ外傷・障害専門医1名股関節外科専門医1名脊椎外科専門医2名整形外科一般4名看護師5名







	2019年	2020年	2021年
手術	件数	件数	件数
人工関節 内訳↓	171	186	125
股	89	87	77
膝	75	97	48
肩	7	1	0
肘	0	1	0
脊椎	255 (112)	298 (135)	295 (98)
手外科	109	93	88
関節鏡 内訳↓	189	29	1
肩	174	13	0
下肢	15	16	1
大腿骨近位部骨折	131	103	98
その他	211	173	167

脳神経外科

★ 概要

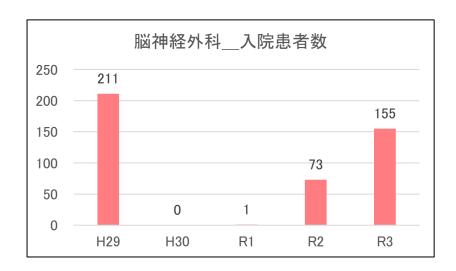
幅広い診療をこころがけます。開頭手術と血管内治療(カテーテル治療)の両方をおこなっています

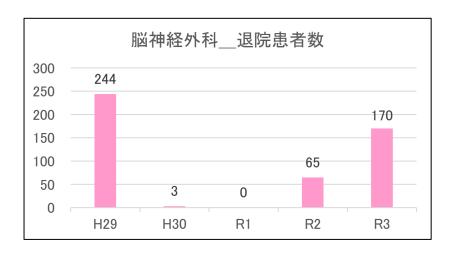
片頭痛などの一次性頭痛や認知症にも対応いたします。

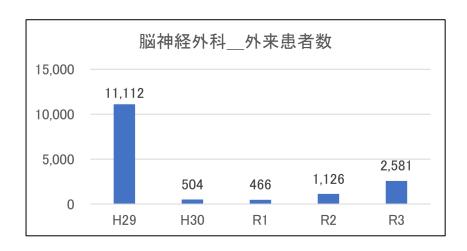
★ スタッフ

·日本脳神経学会専門医 1名 (脳神経外科部長)

嘱託医師 1名







		2020年	2021年
疾患名	手術	件数	件数
未破裂脳動脈瘤	開頭動脈瘤ネッククリッピング術	2	7
	脳動脈瘤コイル塞栓術(血管内治療)		
脳腫瘍	開頭腫瘍摘出術	1	3
脳腫瘍	血管塞栓術		2
急性期脳梗塞 主幹動脈閉塞症	血栓回収術(血管内治療)	1	3
脳梗塞 頸動脈狭窄症	頸動脈ステント留置術 CAS (血管内治		2
	療)		
脳梗塞 椎骨動脈閉塞症	経皮的血管形成術 PTA(血管内治療)	1	0
脳梗塞 減圧開頭術	後頭下減圧開頭術		0
脳出血	開頭血腫除去術		0
脳動静脈奇形	脳動静脈奇形摘出術		1
外傷性脳出血	開頭血腫除去術	1	0
正常圧水頭症	脳室・腹腔短絡術 (VP シャント)		14
	脳室・心房短絡術(VA シャント)		
	腰椎・腹腔短絡術(LP シャント)		
慢性硬膜下血腫	穿頭血腫ドレナージ術	2	21
急性水頭症	脳室ドレナージ術	1	0
顔面痙攣 三叉神経痛	後頭下開頭微小血管減圧術		1
硬膜動静脈瘻	硬膜動静脈塞栓術 (血管内治療)		0

泌尿器科

★ 概要

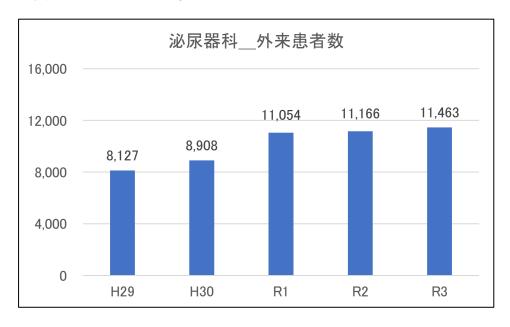
泌尿器科は、古代ギリシャ時代の膀胱結石の手術に始まり、現代のロボット手術前大変歴史が長く、かつ技術の進歩がはやい科です

当院では、前立腺肥大症、前立腺がん、腎がん、膀胱腫瘍、尿管結石、男性更年期などの診察を 行っておりますので、「尿が赤い、尿が出にくい、尿をすると痛い、健康診断で精密検査と言われ た」等でお困りの方は、ご相談ください。

地域の皆様の信頼に応える安心と安全の医療を提供していきたいと思います。

★ スタッフ

非常勤医師 4名



産婦人科

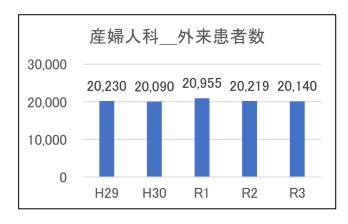
★ 概要

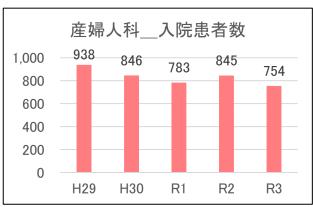
専門分野に限らず、他の診療科への受診の必要性も含め、総合的に診療します 産婦人科診療全般に対応します。

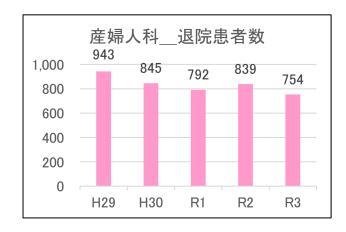
小児科の協力のもと、安心して分娩していただけるように心がけています。

★ スタッフ

婦人科腫瘍専門医1名不妊・内分泌専門医1名周産期専門医3名非常勤医師4名看護師・助産師6名







	2019年	2020年	2021 年	
手術疾患名	件数	件数	件数	
帝王切開術	55	50	66	
卵巣良性腫瘍	60	64	39	
子宮筋腫	67	45	43	
卵巣癌	6	6	6	
子宮体癌	4	7	5	
子宮頚癌	4	3	2	
子宮頚部上皮内癌	12	8	11	
子宮頚部異形成	14	13	16	
子宮内膜増殖症	4	4	1	
子宮腺筋症	8	5	7	
子宮内膜ポリープ	1	4	14	
子宮脱症	6	10	9	
子宮外妊娠	4	3	5	
流産	6	3	4	
その他	141	153	148	

小児科

★ 概要

佐久地域小児科医療連携の一翼を担い、主に2次救急患者を中心に診療を行っています

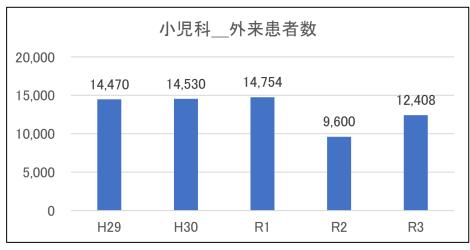
当科では感染症などの急性疾患から神経疾患、腎疾患、内分泌疾患などの慢性疾患や専門的な診療 が必要な疾患まで小児疾患全般に対応しています。

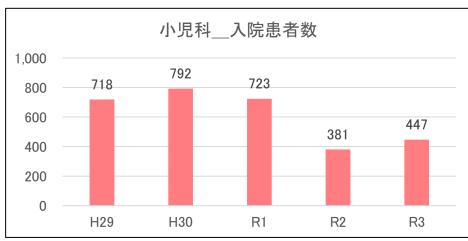
高度な治療を必要とする疾患に対しては、信州大学医学部付属病院小児科、県立こども病院および佐久医療センター小児科と緊密に連絡を取り合いながら診療を行っています。

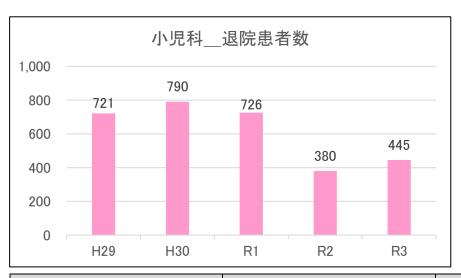
★ スタッフ

 日本小児科学会専門医
 3名

 非常勤医師
 3名







2019 年		2020年		2021年	
疾患名	件数	疾患名	件数	疾患名	件数
新生児疾患	233	新生児疾患	241	新生児疾患	258
(内訳)		(内訳)		(内訳)	
新生児黄疸	62	新生児黄疸	83	新生児黄疸	73
帝切症候群	24	帝切症候群	24	帝切症候群	36
低出生体重児	46	低出生体重児	35	低出生体重児	43
新生児感染症	23	新生児感染症	20	新生児感染症	19
新生児嘔吐・哺乳不全	8	新生児嘔吐・哺乳不全	10	新生児嘔吐・哺乳不全	22
妊娠糖尿母体児	13	妊娠糖尿母体児	17	妊娠糖尿母体児	10
その他	57		52		55
急性気管支炎	91	急性気管支炎	26	急性気管支炎	40
ウイルス性腸炎	67	ウイルス性腸炎	21	呼吸不全	23
ウイルス性肺炎	66	肺炎等	15	肺炎等	13
肺炎等	58	細菌性腸炎	14	体液量減少症	12
細菌性腸炎	53	その他の感染症	14	その他の感染症	11
上気道炎	26	上気道炎	13	上気道炎	11
喘息	24	扁桃周囲膿瘍、扁桃炎	10	ウイルス性腸炎	10
扁桃周囲膿瘍、扁桃炎	21	ウイルス性肺炎	10	川崎病	9
その他の感染症	16	喘息	7	扁桃周囲膿瘍、扁桃炎	9

新生児科

★ 概要

良好な母子関係の確立に重点を置きながら異常の早期発見、早期介入に努めています

当科では当院で出生した 35 週以上、1800 g 以上の新生児を対象に診療を行っています。病的な新生児に対して点滴や呼吸補助療法など、当院で可能な治療を積極的に行う一方、高度医療が必要な重症児の治療介入が遅れないよう、県立こども病院 NICU や信州大学付属病院 NICU と緊密に連絡を取り合いながら必要に応じて介入しています。

また、外来にて退院後の予防接種や発達フォローを行っています。発達に遅れがみられる児には、 リハビリテーション科と連携して発達促進訓練をとり入れています。里帰り分娩など他院で出生さ れた早産時などの外来フォローも行っています。

★ スタッフ

日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	1名
日本アレルギー学会専門医	1名
日本小児科学会専門医	1名
非常勤医師	1 名

眼科

★ 概要

佐久市眼科診療の中心に立ち続けます

「天道に則り、自然の摂理に順う」という精神で、人間としての尊厳を守ることが私たちの理念です。浅間総合病院の眼科では基本方針として、安全で根拠に基づく良質な医療を提供するよう心がけております。

一般的な病気(赤い、かゆい、しぶい、かわく、なみだ目・・・)やメガネ処方、コンタクトレンズはもちろんのこと、子どもの病気(斜視、弱視・・・)生涯治療が必要な病気(緑内障・・・)、レーザー治療をする病気(糖尿病の眼底出血、動脈硬化の眼底出血・・・)、手術をする病気(白内障、網膜はくり・・・)など、地域の中核病院としてできるだけ多くの病気に対応できるように研鑽を重ねています。

★ スタッフ

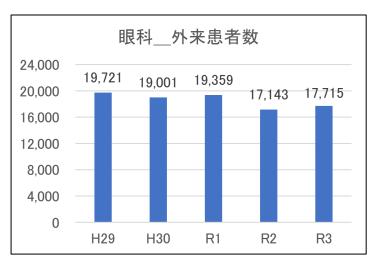
眼科専門医2名眼科医2名視能訓練士6名看護師2名

★ 今年度の取り組みと成果

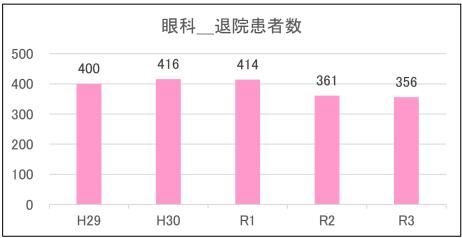
めやに・流涙・涙目の原因となる涙道閉塞症に対して内視鏡的治療をおこなっております。生まれてすぐのお子さんで、涙目や眼脂が続いている方も受診をお勧めしています。

さらに、ドライアイや結膜弛緩症といった涙にかかわる病気全般についても積極的に治療を行っています。特に結膜弛緩症は流涙症状を起こす原因となるため、手術によって症状を改善できる可能性がありあます。

手術件数の推移







手術疾患名	2019 年	2020 年	2021 年
白内障	380	336	318
眼内レンズ挿入	376	332	317
眼内レンズ挿入(逢着術)	3	2	0
眼内レンズ挿入しない	1	2	1
緑内障	10	5	10
涙道閉塞症	4	10	5
その他	4	3	6

★ 論文・投稿

- 1. 眼所見より診断にいたった頸動脈海綿静脈洞瘻(Carotid Cavernous Fistula: CCF)の4症例 94-99:8;2015 眼科臨床紀要
- A case of Alkali burns with 2% Rebamipide ophthalmic solution
 380–385: 5;2014 Case report in ophthalmology
- 3. Direct endoscopic probing for congenital lacrimal duct obstruction 729–734:41;2013 Clinical and Experimental Ophthalmology

★ 学会·研究発表

Questionnaires about pediatric eye diseases and children's glasses to guardians at the preschool vision screening.

2018年ARVO

アルカリ外傷に対しレバミピド点眼薬を使用した1症例 2013年臨牀眼科学会

耳鼻咽喉科

★ 概要

耳鼻咽喉科疾患一般について幅広く対応し、救急患者の対応をはじめとして、外来診療から入院 診療まで行っています

入院では、手術(鼓膜形成術、副鼻腔・鼻中隔・下甲介などの鼻科手術、声帯、頸部、耳下腺、顎下腺、甲状腺手術)をはじめ、めまい全般、突発性難聴、顔面神経麻痺、急性期感染症などを中心に患者中心の医療を行っています。また、新生児難聴の二次スクリーニング、嚥下障害の VE での評価、睡眠時無呼吸外来、神経耳科的検査(電気眼振図、重心動揺検査、カロリックテストなど)、補聴器外来なども行っています。近隣からの紹介もトリアージを行いながら、適切に対応しています。

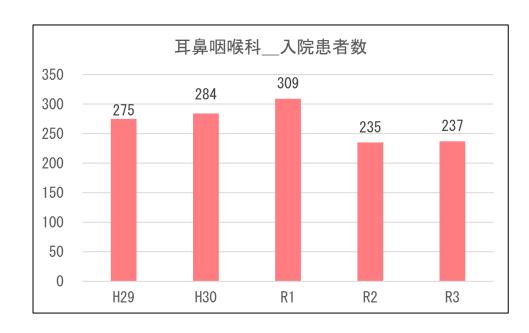
★ スタッフ

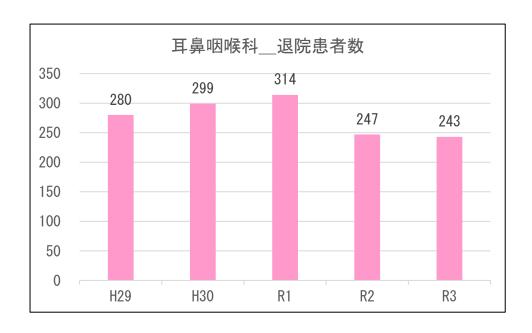
耳鼻科専門医 2名(内 耳鼻咽喉科指導医 1名)

聴覚技師 2名看護師 2名

★ 今年度の取り組みと成果

アレルギー性鼻炎による肥厚性鼻炎に対して、下甲介粘膜レーザー焼灼術(コブレーターによる)を行い、2019年28件、2020年44件、2021年61件と年々増加傾向となっています。 鼓膜穿孔に対する鼓膜閉鎖術(2020年承認: リティンパによる)を局所麻酔を用いた外来手術で行っています。





	2019年		2020年		2021年
術式	件数	術式	件数	術式	件数
粘膜下下鼻甲介骨切除術	36	下甲介粘膜レーザー焼灼 術	44	下甲介粘膜レーザー 焼灼術	61
両側口蓋扁桃摘出術	31	内視鏡下鼻腔手術 I 型	39	内視鏡下鼻腔手術 I 型	39
鼓膜切開術	29	両側口蓋扁桃摘出術	32	鼻中隔矯正術	36
下甲介粘膜レーザー焼灼 術	28	内視鏡下鼻副鼻腔手術	29	内視鏡下鼻副鼻腔手 術	32
鼻中隔矯正術	28	鼓膜切開術	26	両側口蓋扁桃摘出術	25
内視鏡下鼻副鼻腔手術	27	鼻中隔矯正術	26	鼓膜切開術	17
アデノイド切除術	25	アデノイド切除術	20	アデノイド切除術	11
扁桃周囲膿瘍切開排膿術	17	扁桃周囲膿瘍切開排膿術	14	鼓室内チューブ留置 術	10
鼓室内チューブ留置術	14	鼓室内チューブ留置術	11	後鼻神経切断術	9
鼻骨骨折整復固定術	13	鼻骨骨折整復固定術	6	声帯ポリープ切除術	7

活動報告

					#J) +IX I
経鼻的翼突管神経切断術	5	直達喉頭鏡下手術(ポリープ・腫瘍)	4	鼻骨骨折整復固定術	5
頚部リンパ節摘出術	5	唾石摘出術 (浅在性)	4	扁桃周囲膿瘍切開排 膿術	5
気管切開術	4	耳下腺腫瘍手術	4	鼓膜穿孔閉鎖術	3
鼻茸切除術	3	頚部リンパ節摘出術	4	口蓋腫瘍摘出術	3
ラリンゴ	3	後鼻神経切断術	3	頚のう摘出術	3
深頚部膿瘍切開排膿術	3	深頚部膿瘍切開排膿術	3	気管切開孔閉鎖術	2
両側口蓋扁桃摘出術+軟 口蓋形成術	2	気管切開術	3	深頚部膿瘍切開排膿 術	2
耳下腺浅葉切除術	2	甲状腺腫瘍手術	3	唾 石摘出術	2
耳瘻孔摘出術	1	先天性耳瘻管摘出術	2	耳下腺腫瘍手術	2
鼓膜形成術 (湯浅法)	1	顎下腺摘出術	2	頚部リンパ節摘出術	2
唾石摘出術	1	外耳道腫瘍摘出術	1	耳茸摘出術	1
口腔底膿瘍切開術	1	上咽頭腫瘍摘出術(経鼻的)	1	副鼻腔腫瘍摘出術	1
顎下腺摘出術	1			甲状腺腫瘍手術	1
頚のう摘出術	1				

★ 論文・投稿

月刊 新医療 2018/7月号

形成外科

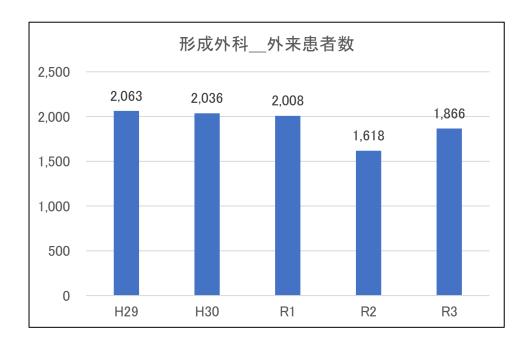
★ 概要

手術を中心とした治療で、主に体表の整容的・機能的な改善を行い、社会生活の質 (QOL: Quality of life) を向上させることを目的とした科です 巻爪治療も行っています。

★ スタッフ

非常勤医師 2名

★ 今年度の取り組みと成果



皮膚科

★ 概要

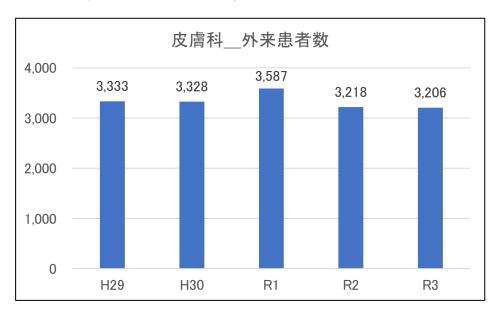
皮膚科は、体の表面の存在するあらゆる皮膚トラブルについて対処します

皮膚だけでなく、髪の毛、くちびる、口の中の粘膜、手足の爪、陰部粘膜などに問題がある場合も、 治療を行います。他の科と重複する部位も多いですが、担当科の先生とも相談しながら診療を行い ます。

★ スタッフ

・非常勤医師 日本医大皮膚科より

★ 今年度の取り組みと成果



歯科口腔外科

★ 概要

当科では地域病院歯科としての役割を果たすべく、顎顔面・口腔領域疾患について診断・治療や 一般開業医での治療が困難な患者の歯科治療を行っています

- ① 口腔外科疾患の治療(外来治療・静脈内鎮静法・全身麻酔・入院管理)
 - 1. 顎顔面外傷(顎骨骨折・歯槽骨骨折・歯の脱臼脱落・口唇や舌の裂傷など)
 - 2. 主に歯性感染症による顎顔面の炎症
 - 3. 口腔粘膜疾患
 - 4. 顎顔面領域の良性腫瘍・悪性腫瘍、嚢胞性疾患
 - 5. 親知らず (智歯)、過剰歯などの埋伏歯の抜歯
 - 6. 顎関節疾患
 - 7. 唾液腺疾患(耳下腺を除く)
 - 8. 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置の作製装着
- ② 有病高齢者への歯科治療
- ③ 障がい者への歯科治療

当科は長野県下4つの障がい者歯科基幹病院の一つに指定され、東信地区を担当しています。 近隣の障がい者施設の入所者や自宅でご家族と同居されている通常歯科治療が困難な方の定期 的な歯科検診と必要に応じて積極的に全身麻酔下にて歯科治療を行っています。

- ④ 訪問歯科診療
- ⑤ 通常外来での一般歯科治療・入院患者の応急的歯科治療
- ⑥ 周術期口腔機能管理・口腔ケア
- ⑦ 摂食嚥下障害の診断リハビリテーション (耳鼻科・ST等とのチームによる)

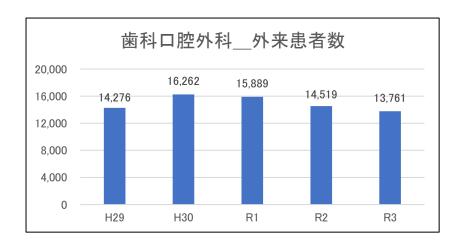
★ スタッフ

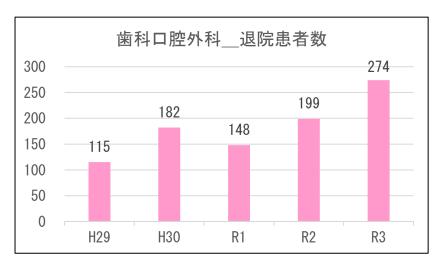
歯科医師 4 名 歯科衛生士 6 名 歯科技工士 3 名 医療事務 1 名

★ 今年度の取り組みと成果



活動報告





★ 学会·研究発表

今井哲郎:

「小児に発生した巨大な上顎嚢胞の1例 2021年11月27日 長野県口腔外科協議会(松本市)

病理科

★ 概要

病理科は1名の常勤病理医、4名の非常勤病理医が病理組織診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖を行っています

臨床検査技師は4名、うち3名が細胞検査士有資格者です。

検体数は年間組織検査 2000 件、細胞診検査約 5500 件、解剖 2~5 件です。

★ スタッフ

常勤病理医 1名

北川 諭 (病理診断科 医長)

非常勤病理医 4名

北川 知行 (がん研究所 名誉所長)

本山 悌一 (山形大学 名誉教授)

菅野 佑幸 (信州大学病理学教室 教授)

松本 有機 (信州大学病理学教室)

臨床検査技師 4名

井出 景子 (細胞検査士)

林 和樹 (細胞検査士)

飯塚 洋之

井上 博之 (細胞検査士)

検査実績

2021年1月~12月 検査件数

	組織診(件)					解剖(件)	
入院	外来	合計	入院		外来	合計	
601	1253	1854		214	5339	5553	2
迅速組織診	沙断	59件					
迅速細胞診	>	29件					
免疫染色		181件					
腫瘍遺伝子	产検査	40件					

★ 今年度の取り組みと成果

2021年4月より、常勤病理医として北川諭医師が着任し、これまでより更に臨床からの要望に対するキメの細かい対応が可能となりました。治療に直結する免疫染色、腫瘍遺伝子検査を積極的に行い、患者様の診断・治療に貢献できるよう努めています。

★ 取得資格

(北川諭医師)

日本病理学会病理専門医、研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、教育研修指導医、

日本内科学会認定内科医

(臨床検査技師)

日本臨床細胞学会認定細胞検査士 3名

日本検査同学院認定2級病理検査技師 2名

★ 勉強会、カンファレンス

- · 院内 CPC 年 2 回開催
- ・カンファレンス 週1回の外科カンファレンスに参加
- ・臨床検査科 科内勉強会 月1回 参加
- ・院内研修会 月1~2回 参加

院内 CPC の開催を年2回行い、臨床医、研修医の指導的役割を果たしています。

外科カンファレンスは週1回参加し、外科症例の病理診断解説や、臨床医との積極的なディスカッションを行っている。臨床検査科の勉強会、院内研修会にも積極的に参加しています。

★ 学会参加

日本病理学会、日本臨床細胞学会、長野県臨床検査技師会、長野県細胞検査士会主催の学会、研修会に積極的に参加し、研鑽しています。

★ 外部精度管理

日本臨床衛生検査技師会主催精度管理調査

長野県臨床検査技師会主催精度管理調査

特定非営利活動法人日本病理精度保証機構主催精度管理調查(2022年度~参加)

日本臨床衛生検査技師会主催、長野県臨床検査技師会主催の外部精度管理事業に毎年参加し、良好な結果を得ている。 さらに 2022 年度より特定非営利活動法人日本病理精度保証機構主催の精度評価にも参加を予定し、精度の向上に努めています。

麻酔科

★ 概要

安全な麻酔を心がけています

外科、整形外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、形成外科のすべての予定手術、 緊急手術に 24 時間 365 日対応しています

局所麻酔から全身麻酔のすべての手術において、患者さんの安全を第一に考慮しながら、担当医、麻酔科医、手術室看護師、パラメディカルと協力して、術後まで安定した状態を作るよう努力をしています。

★ スタッフ

麻酔科医 2名 (その他 数名)

総合診療科

★ 概要

総合的に患者さんを診療します

単一の臓器にとどまらない全身疾患や高齢者等複数の疾患が合併している患者さんにおいて専門の壁を取り払い、総合的に患者さんを診察いたします。原発不明癌、不明熱等、原因のわからない病態も担当して原因究明を行います。

研修医や若手医師とともに、救急外来・入院病棟においてチーム医療にあたります。

★ スタッフ

日本内科学会総合内科専門医 2名

★ 今年度の取り組みと成果

今年度より研修医を含めたチーム制とし、業務分担しつつ、多くの患者を診療しています。

救急医療部の理念

患者さんの生命を守るために最善を 尽くし、常に研鑚を積みます。

救急医療部

★ 概要

救急外来では、24 時間体制で救急車による搬送患者さんや重症度の高い患者さんを優先的に診察しております

各科の専門医による診察へ振り分けることにより、より質の高い医療を提供することをめざしています。救急外来に隣接している中央処置室では、5床のベッドを備えており、点滴治療、経過観察なども行えるようになっています。

なお、当院は医師臨床研修指定病院のため、研修医が各科診察において研修指導医とともに診療 に参加しております。

【救急外来・内視鏡・カテーテル室】

1日平均外来患者数 (810/852) 月平均休日小児急病センター (76/100)

1 日平均救急外来患者数 (44/28) 月平均救急車台数 (140/130)

救急車総台数 (1678/1550) CPA 総件数 (24/14) トリアージは全救急患者に実施 内視鏡総件数 (6846 /1012) 血管造影件総数 (221 (脳 30・循 185・外 6)) /67) 接触者外来・救急処置室接触者受診総数 (2713/723) 2020 年 4 月から開始

★ スタッフ

- 救急医療部長1名 救急部師長1名 主任1名 看護師16名
- ・勤務体制 変則 2 交代制 日勤 8:30~17:15 平日 2 名+応援体制、土曜日 3~4 名. 日曜日 4~5 名 (内 1 名休日小児急病センター担当) 夜勤 2 名 16:15~9:15 、10:15~19:00 1名 土曜日・日祭日遅番 1名17:00~21:00 (繁忙期によって変更あり) 外来スタッフと協働体制で業務を行っている

★今年度の取り組みと成果

救急医療部目標

- 1. 病院に寄せられたご意見の内容をもとに接遇向上に向けた取り組みを検討し実践する
 - 1) 病院に寄せられる様々なご意見の内容から評価する。
 - 2) 接遇向上に向けた取り組みを検討し、各フロアー最低1つは実践する。
 - 3) 4 ステップス事例検討シートを利用した倫理カンファレンスを、各部署年間 1 症例以上
- 2. 急性期疾患患者をうけいれるための組織体制の整備・構築を行い病院経営に参画する
 - 1) 急性期疾患患者を受け入れるための組織体制を整備・構築する。
 - 2) 看護協会の DiNQL 事業への参加によるデータ活用を行い、組織改善を図る。
 - 3) 看護ケアの向上を図り、加算への取り組みも継続していく
- 3. 応援機能を発揮し、コミュニケーションを意識的にとることにより、活気ある職場づく りを行う
 - 1) 自ら考え、行動できる人材となる取り組みを積極的に行う。
 - 2) 院内・外での教育のあり方を考え、実践方法を工夫していく。
 - 3) コミュニケーションを意識的にとることにより、各職員間・職場間の関係性の向上を図る。

2021年4月より外来の体制が変更となり、外来師長が救急部師長を兼務していたが、1名ずつ配属されることとなった。救急と内視鏡室スタッフが統合され新たな救急部として活動が開始された。病院理念である「患者さん中心の、患者さんのための、良質な医療の実践」をもとに看護ケアを行っている。今年度掲げた部署目標達成に向けた活動と成果を報告する。

1. 病院に寄せられたご意見の内容をもとに接遇向上に向けた取り組みを検討し実践する

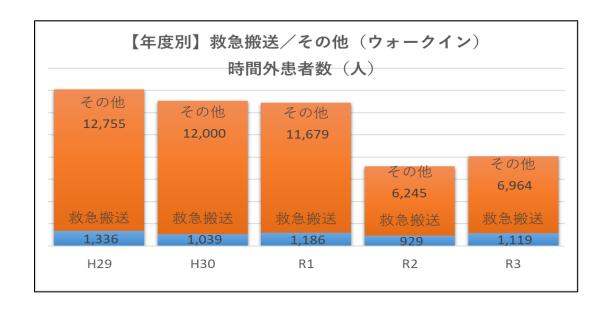
2020年度、患者家族からのお褒めの内容を2件頂いた。今年度も「忙しい中でも丁寧な対応をしてい頂いた。」と感謝の気持ちが寄せられた。以前は救急外来での待ち時間が長くクレームにつながるケースもあった。院内トリアージで緊急度判定を行うことで早期に介入ができていることや、救急搬送が重なると待ち時間が長くなりやすいが、患者、家族へ声がけをしているスタッフを多くみかけるようになった。今年度、医師より接遇に関する勉強会を行い、その中で、「患者、家族と接する時はまず自己紹介を行う。」とあった。緊急の場面では初対面が多く、緊迫した状況において忘れがちであるが、接遇の第一歩である自己紹介を忘れずに、患者家族の気持ちに寄り添った対応に努めていきたい。

2. 急性期疾患者を受け入れるための組織体制の整備・構築を行い病院経営に参画する

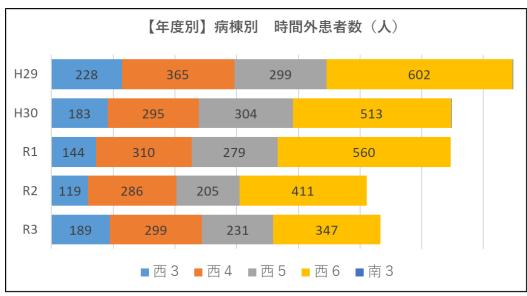
角田救急医療部長、師長1名、主任1名、スタッフ16名で構成された救急部の活動が開始された。担当する救急外来・内視鏡室・カテーテル治療室での看護は専門性が高く、質の高い看護実践が求められる。4月救急部のカンファレンスで体制つくりについてスタッフと意見交換を行った。3か所それぞれにリーダーを置き担当スタッフを決め、その中でスキルアップ、スタッフ育成を実践していくこととなった。日々の業務に追われてしまいがちであったが、現場に活かせる勉強会をスタッフと共に企画し実施してきた。今後も継続した学習プログラムを計画していく。2021年度の一部データより、(令和3/令和2年)1日平均救急外来患者数(44/22)救急車搬送総数(1678/1550台)、CPA総件数(24/14件)、内視鏡総件数(6846/1012件)血管造影総件数(221循環器・185件 脳外科30件 外科6件/67件)、発熱外来・救急処置室接触者受診総数 (2713/723)新型コロナ感染の影響を受けながらも件数は増加している。予定以外の検査、治療に対応できるように苦慮しながらスタッフ配置を行うことも少なくない。より安全で迅速な対応が求められていく中でスタッフの育成が課題となっている。

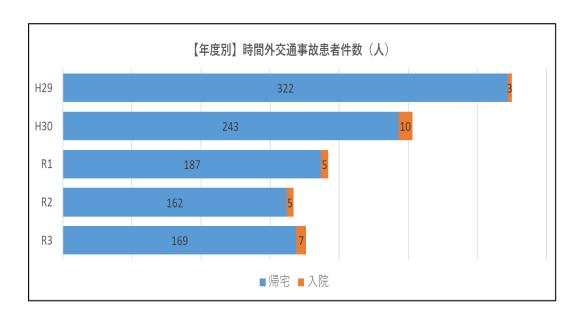
3. 応援機能を発揮しコミュニケーションを意識的にとることにより活気ある職場づくりを行う

救急部、外来の体制は変わったが外来間の応援機能は引き続き行っている。今年度も発熱外 来運営のために人員配置に苦慮している。救急外来受診者の中に新型コロナ陽性となったケー スもあったが、感染対策を意識しながら業務についていたことで、濃厚接触に該当するスタッ フはなく、感染管理に高い意識を持ち続けた結果でもある。終わりが見えない状況であるが、 診療部、看護部、多職種と共に協働していくことで運営が続けられている。



活動報告





手術部の理念

患者さんが安心して安全に手術 治療を受けることができる環境を 整えます。

手術部

★ 概要

外科、整形外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、形成外科のすべての予定手術、緊急手術に24時間 365日対応しています。局所麻酔から全身麻酔のすべての手術において、患者さんの安全を第一に考慮しながら、担当医、麻酔科医、手術室看護師、パラメディカルと協力して、術後まで安定した状態を作るよう努力をしています。

胚培養室も完備し、不妊治療への対応も行っています。

R3年1月~12月 (R2年1月~12月)

手術件数	2336/(2425)件	全麻	1170/(1269)件	
緊急	481/(518)件	全麻以外	1166/(1156)件	
外科	281/(302)件	耳鼻科	126/(105)件	使用手術室:7部屋
整形外科	734/(806)件	形成外科	17/(12)件	内容:手術介助 IVF/ET の準備と片付け
産婦人科	512/(480)件	泌尿器科	0/(1)件	及び血管造影室への出張 麻酔
脳外科	40/(15)件	歯科	108/(87)件	
眼科	513/(615)件	その他 内科	5/(2)件	

★ スタッフ

手術部長:1名 手術副部長:1名

麻酔科医師 2名(他 数名)

看護職員:看護師20名 看護事務:1名 介護士1名

勤務体制:日勤11~14名(8:30~17:15)

居残り3名(8:30~手術1件になるまで)

遅番3名(10:30~業務終了まで)

勤務時間外拘束体制

業務委託職員:6名 洗浄滅菌業務・清掃業務・メッセンジャー

★ 2021 年度 部署目標

目標

- 1. 倫理についての正しい知識と意識を持ち、患者ケアの質の向上を目指す
 - 1) 倫理カンファレンスを定期的に実施して部署間で情報共有を行い日々の患者ケアを充実させる。
 - 2) 術前・術中・術後訪問を充実させて『患者の心に寄り添う看護』につなげる。

2. スタッフ一人一人がコスト意識を高く持ち病院経営に参画する

- 1) 各科・術式別にデータ収集し、医事課・SPDと具体的なデータを可視化して関係部署全体で経費削減できるような取り組みを行う。
- 2) 部署全体に目を向け必要なところに積極的な応援体制を行うことで、相手を気遣えるスタッフの育成を目指す

3. 自己研鑽を行い周手術期看護ケアのスキルアップにつなげる

- 1) 部署内で学習強化する内容に対し、定期的に学習する計画をたてる。
- 2) コロナ禍においても安心安全な手術室運営が継続して行えるように感染対策の徹底を遵守する。

★ 今年度の取り組みと成果

大量出血等の危機的出血に対し、数年にわたりシミュレーションを行ってきた。多職種のスタッフ全員で状況を把握し、コマンダーの設置と担当医師による止血対応、コマンダー、麻酔科、手術室看護師を中心とした検査結果から基づいた輸血準備と処置を行い、救命しえた。

コロナウイルス感染症の感染予防にいち早く対応するため、2021 年 1 月から全身麻酔手術の全例にコロナ PCR 検査を導入し、挿管・抜管時の感染予防策を行っている。

栄養サポートチーム(NST)

★ 概要

栄養サポートチーム (Nutrition Support Team: NST) とは、患者様に最適な栄養療法を 提供することを目的とした、多職種により構成された医療チームのことです。 浅間総合病院 NST は、入院患者の栄養状態の評価を行い、疾患の治癒効果に悪影響を与える 栄養不良患者を抽出し、適切な栄養管理を実施します。

目標

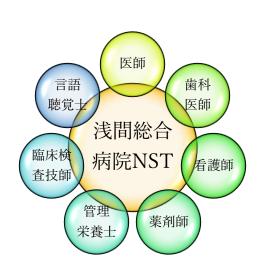
適切な栄養管理を実施する事により、疾患の治癒効果の向上、合併症の減少、在院日数の減少、 医療費の削減、医療の質の向上、QOLの向上等を図る。

★ スタッフ

医師:2名

歯科医師:2名 看護師:3名 薬剤師:1名

管理栄養士:5名 臨床検査技師:1名 言語聴覚士:1名



★ 今年度の取り組みと成果

NSTラウンド:毎週水曜日13:30~ 西3・4・6・南3・東3階

毎週金曜日 13:30~ 西 5 階

NST委員会:第2火曜日16:40~

NSTラウンド件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	合計
2021年	31	29	36	23	17	28	32	23	25	19	18	28	309
2020 年	28	36	40	36	33	35	34	36	42	43	38	35	436
2019 年	49	43	41	41	42	46	44	38	24	40	31	25	464

今年度は、2022年度導入予定の新しいNSTシステムを検討。ゼロからのシステム構築を、株式会社シー・エム・シー・シーと検討開発。NSTと入院患者に係る病院スタッフ全員が情報共有出来、低栄養の患者様を入院から退院まで、早期にトータル的にサポートすることを目的として導入します。今まで手作業で行っていたデータ分析を、電子カルテシステムと連携した新システムで分析・抽出可能となる予定。介入件数増加を目指す。

対外的には、長野県のNST (信州NST研究会)の代表世話人を奥山秀樹先生が4年間勤められ、同期間事務局を浅間総合病院に設置。COVID-19の影響により活動の制限はあったが、年3回の研究会開催と情報発信を行った。

★ 資格

TNT医師:5名(池田正視、西森栄太、今福裕司、松本涼子、小幡景太)

TNT歯科医師:1名(奥山秀樹)

NST専門療法士:5名(宮崎美幸、今井実、中澤明子、倉澤弘樹、高杉一恵)

NSTコーディネーター:1名(中澤明子)

NST40時間修練修了者:15名(市川雅美、菊池奈津美、宮崎美幸、小平優子、中澤明子、

今井実、倉澤弘樹、桜井ひろ子、小林ルミ、坂口歩惟、 小林輝美、儘田綾、高杉一恵、山上智恵子、小須田友美)

※TNT(Total Nutrition Therapy)とは、医師を対象とした臨床栄養療法を普及させるための教育プログラム。加算算定に必要な資格。

※氏名は資格取得順

★ 認定施設等

- 日本臨床栄養代謝学会 (旧·日本静脈経腸栄養学会) 認定 NST稼働施設 (2007年~)
- ·日本栄養療法推進協議会 認定 NST稼働施設 (2007年~)

糖尿病サポートチーム(Asama DST)

★ 概要

糖尿病および糖代謝異常のある患者に対し、入院中の血糖コントロールをはかる目的にて糖尿病サポートチーム(Asama DST)が発足されている。

- ① 周術期血糖管理においては毎週月曜日に DST でカンファレンスを行い、該当部署へのラウンド (DST ラウンド) を実施している。
- ② 【院内糖尿病サポートマニュアル】を作成し、院内で使用のインスリンマニュアル、薬物療法、 血糖管理方法、妊娠・出産時の血糖管理等ついて網羅し適宜改定、運用を行っている。
- ③ **糖尿病教室**の企画運営を行っている。2020年10月よりタブレットを用いた学習方法で行い、 あわせて集合研修では体験型の教室内容で開催している。
- ④ 糖尿病治療薬(内服・インスリン等)での注意喚起が必要な際は【DST ニュース】を発刊し周知を図る。
- ⑤ 各種勉強会 研修会企画 参加

★ スタッフ

糖尿病専門医:5名(常勤4名 非常勤1名)

糖尿病看護認定看護師 1名

日本糖尿病療養指導士、東北信糖尿病療養指導士の有資格のある 看護師・管理栄養士・臨床検査 技師・薬剤師・理学療法士で院内ラウンド実施

上記のほか助産師・感染管理者・医療安全管理者を含め院内糖尿病サポートマニュアル作成糖尿病教室では上記ほか、眼科・歯科・信濃病院の臨床心理士の協力を得ている。

★ 今年度の取り組みと成果

外来延べ患者数約 7200 人 (月平均約 600 人) 入院は 1600 人 インスリン使用は約 40%

管理栄養士による栄養指導は月約240件

医師・看護師・管理栄養士による糖尿病透析予防指導 (350 点) は月約 40-50 件 看護師による糖尿病療養指導 (170 点) 月約 100 件、糖尿病合併症予防指導 (フットケア) (170 点) 月 30 件

臨床検査技師による持続インスリンポンプ指導 (CSII。SAP) 指導 月 5 件前後 薬剤師による外来薬物指導 (経口 GLP1 製剤指導、グルカゴン製剤 (吸入) 指導) 月 10 件前後

① 院内ラウンド (DST ラウンド)

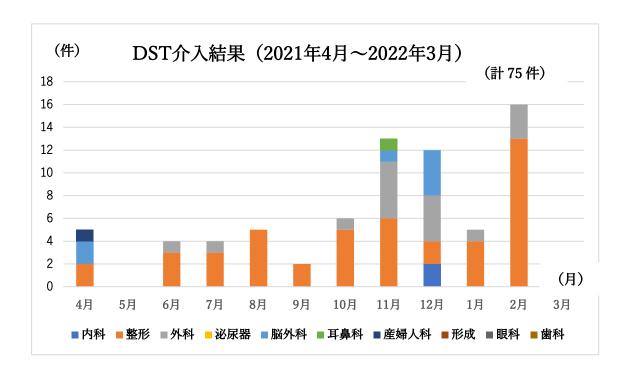
毎週月曜日 14 時からチームカンファレンスを実施 (30 分~40 分)

該当部署ヘラウンド実施

理学療法士がラウンドメンバーに入り、リハビリなどの活動量、今後の見通しなどカンファレンスで情報共有ができている。

また管理栄養士 薬剤師によるプレゼンもあり治療方針をチームで共通認識できている。

DST 介入結果は整形外科入院中の周術期血糖コントロールが多いが産婦人科、耳鼻科なども対象患者がいる際は介入できている。



② 「糖尿病サポートマニュアル」

院内使用インスリンマニュアル、手術当日の血糖管理及び手術直前インスリンを使用しないなどフローを作成、手術室との共有行った。2022年7月に改訂予定として小集団活動開始。

③ 「糖尿病教室」

糖尿病及び糖代謝障害のある入院中の患者に対しタブレット学習を実施している。月1回開催の対面式糖尿病教室はCOVID-19感染状況をみながら開催を検討したが2021年は1回のみ開催できた。参加型教室になるよう各部署との連携を行った。

④ DST ニュース

「ビグアナイド系糖尿病薬の休薬について」

「周術期におけるビグアナイド系糖尿病薬および SGLT2 阻害薬の休薬について」

「院内のインスリンバイアル製剤が変更になります (インスリンアスパルトバイアル)」

★ 学会·研究発表

〈学会発表〉

1. 仲元司:

インクレチン関連薬登場前後10年間の糖尿病治療の変遷

2. 西森栄太:

肥満2型糖尿病の食事療法中心の減量プログラムによる糖尿病寛解への試み

3. 大澤瑞穂:

2型糖尿病患者における COVID-19 緊急事態宣言前後の生活の変化と臨床指標の関連

4. 高杉一恵:

2型糖尿病患者における COVID-19 緊急事態宣言前後の飲酒行動の変化

5. 井出美子:

劇場型糖尿病教室トーシンズとモトジーズの活動

6. 尾下雄紀:

当院における動画学習プログラムを用いた糖尿病教室についての検討

7. 天津 怜:

インスリンデクルデク/リナグルチド配合注射薬の有効性・安全性について〜当院における 投与経験を踏まえて〜

8. 丸山友子:

療養行動が困難になった高齢 1 型糖尿病患者の Advance Care Planning (ACP) を踏まえた支援

9. 市川雅美:

COVID-19 禍の行動変容によって血糖コントロールが改善した 2 例

10. 依田淳:

当院心療内科受診患者における生活習慣病のスクリーニング

11. 坂口和樹:

通院患者の FGM から得られた Time In Range を療養指導にどう活かすか

12. 佐藤誠泰:

病院薬剤師による外来服薬指導の取り組みと症例報告

◇ 1~12 演題 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会(完全 WEB 開催) 2021 年 5 月 20~22 日

呼吸サポートチーム(RST)

★ 概要

患者が、安全、快適に人工呼吸管理を含めた呼吸ケアを受けられ、早期離脱できるよう、病棟スタッフが不安なく、適切なケアができるように情報を共有・手技の標準化を行うため 2015 年より活動開始。チーム活動の目標は以下のとおりとし、呼吸ケアチーム加算対象者を中心に活動を行っている。

- 1. 人工呼吸器装着患者の安全管理、早期離脱支援のために多職種が協働し、それぞれの専門性を生かしたサポートを行う。
- 2. 呼吸ケアを必要とする患者に対して多職種で専門性を活かしたサポートを行う。
- 3. 呼吸ケアに関連する機器や物品の標準化を行う。
- 4. 呼吸ケアに関する質向上のための教育や助言を行う。 主な活動内容は週 1 回のラウンドや呼吸器に関連した内容のデバイスの調整や手技の統一の ための勉強会の開催、広報活動を行っている。

★ スタッフ

- 1. 人工呼吸器管理等について十分な経験のある専任の医師 2名
- 2. 慢性呼吸器疾患認定看護師 1名
- 3. 病棟主任 1名
- 4. リンクスタッフ(外来・西3階・西4階・西5階・西6階病棟より各1名)
- 5. 感染管理者 1名
- 6. 人工呼吸器等の保守点検の経験を3年以上有する専任の臨床工学技士 2名
- 7. 呼吸器リハビリテーション等の経験を5年以上有する専任の理学療法士 3名
- 8. 管理栄養士 1名

★ 今年度の取り組みと成果

【ラウンド実施状況】

2021年度(4月~3月)で延べ44名であった。

ラウンド実施者のうち、呼吸ケアチーム加算算定は 34 件であった。

【小集団活動】

今年度より小集団活動として新聞作成チーム・勉強会チーム発足、RST メンバーの多職種が 2 チームに分かれ活動を行った。

新聞作成チーム:4部作製

「COPD 患者の栄養管理(安定期)」(2021 年 4 月)

活動報告

「挿管&抜管時の感染曝露対策の為、救急カートに COVID-19 対応材料を設置!」(2021 年 5 月)「持続吸引器の取り扱いについて」

「挿管チューブの屈曲防止のための固定方法」(2021年10月)

勉強会チーム:

2021年6月「輸液の基本」講師:薬剤科天津

2021年12月「レジオネラ肺炎について実際の症例から学ぶ」講師:西森医師

2022年1月「レントゲンの見方」講師:西森医師

排尿ケアチーム

★ 概要

尿道カテーテルを一日でも早く抜去し、尿路感染を防止するとともに、排尿自立の方向へ導くための指導を実践する。また、ADLの維持・増進をもたらし、早期退院寝たきりの患者減少につながる指導をチームで実践していく。

★ スタッフ

- 医師 3 名
- ・看護師:5名 (下部尿路機能障害を有する患者の看護に従事した経験を3年以上有し、所定の 研修を修了した専任の常勤看護師3名、病棟看護師1名、担当師長1名)
- ・リンクナース6名
- ・作業療法士または理学療法士:1名

★ 今年度の取り組みと成果

●院内ラウンド 毎週月曜日 13 時~

各病棟より依頼のあった患者について、13 時より多目的室にてカンファレンスを行い、 病棟ラウンドへ出向く。

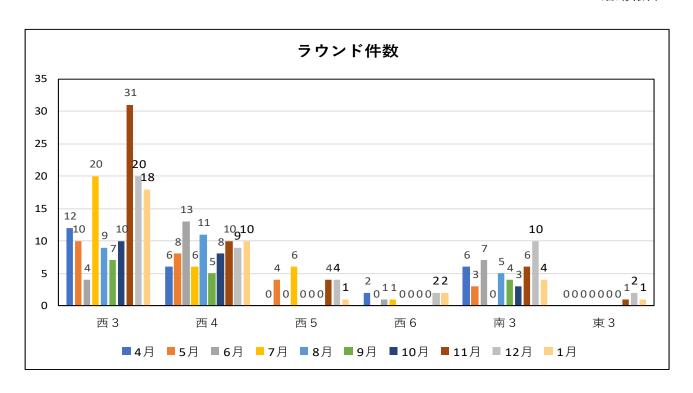
受け持ち看護師と、必要なケアを共有する。

計画書記入、ケア記録などを確認して加算取得する。

『排尿自立支援加算』 200点(週1回 12回まで)

ラウンド件数	R3	R4
<i></i>	110	1 1 1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
西3	12	10	4	20	9	7	10	31	20	18			141
西4	6	8	13	6	11	5	8	10	9	10			86
西5	0	4	0	6	0	0	0	4	4	1			19
西6	2	0	1	1	0	0	0	0	2	2			8
南3	6	3	7	0	5	4	3	6	10	4			48
東3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1			4
合計件数	26	25	25	33	25	16	21	52	47	36	33	50	389
算定対象者数	26	25	25	29	24	14	20	46	43	30			282
1回平均件数	6.5	6.25	6.25	8.25	6.25	5.33	5.25	10.40	11.75	7.20			7.34
ラウンド日数	4	4	4	4	4	3	4	5	4	5	4		



★ 研修参加

西4階 関里香

「第13回下部尿路症状の排尿ケア講習会」参加 2022年2月5日~6日

★ 研修会開催

- ・新採用者研修 :4月5日 院内チーム紹介
- ・「排尿自立に向けた取り組み」動画視聴研修 3月1日~17日

コードブルーチーム

★ 概要

『心肺停止またはそれに準ずる重篤な事象を振り返り、蘇生技術の向上に努め、患者及び職員の利益に繋げる、心肺停止等の情報を収集及び把握し、医療安全に寄与する』を目的に、2019年8月に 院内にコードブルーチームが発足しました。

講義及び演習は、毎月第3金曜日17:00~18:00に行っています。

★ スタッフ

隊長 副院長

副隊長 救急医療部長 看護師

メンバー 診療部 6名 看護部 7名

薬剤科 1名 救急医療部 3名

臨床工学科 2名 手術部 1名

事務局 医療安全

★ 今年度の取り組みと成果

今年度は、「感染対策を意識した蘇生処置を行うことの重要性を認識でき実践に活かせる」を目標にし、急変対応時・緊急挿管及び抜管時において、スタッフ自身を含め医療従事者の感染リスク軽減を第一としつつ、患者の救命に対応できるよう実践的なトレーニングを開催しました。新型コロナウイルス感染予防のため、3回開催を中止せざるを得ない状況ではありましたが、看護師・栄養科・MEの計 47名が参加し、チームメンバーと参加者で意見を出し一緒に考えながら学びを深めることができました。次年度は、演習テーマを「心血管系:VF 心筋梗塞等」「出血または低酸素」とし、5回開催を予定しています。



講義中・・・



「挿管チューブください」



「BVM 押してみて・・・」

医療技術部の理念

私たち医療技術部は、病院理念に 基づき、各医療技術職が診療部 及び看護部と協力し、患者さんに 良質な医療の提供をめざします。

薬剤科

★ スタッフ

薬剤師14名、 医療事務員1名

- 日病薬病院薬学認定薬剤師 14名
- 日病薬がん薬物療法認定薬剤師1名
- 日病薬感染制御認定薬剤師1名
- 日病薬妊婦授乳婦薬物療法認定薬剤師1名
- 緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師1名
- 日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師1名
- 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師2名
- 糖尿病薬物療法准認定薬剤師1名
- 日本糖尿病療養指導士3名
- 栄養サポートチーム専門療法士1名

★ 今年度の取り組みと成果

COVID-19 関連として、ワクチンと治療薬の手配管理が通年対応となった。国から支給を受けた「-80℃ディープフリーザ」が薬剤科に設置されただけで新聞取材を受けるなど社会的な関心事であった。2021年3月末に医療従事者、5月連休明けから高齢者へのワクチン接種が開始となり、これまで当院における使用本数3356バイアル(2022年3月末現在)となっている。治療薬も随時適応承認された。注射剤(ベクルリー注、ロナプリーブ注、セビュディ注)、年明けからは内服剤(ラゲブリオ、パキロビッドパック)の使用が本格化している。

経費削減を目的にキュービックスシステムを導入した。次々と新規承認される抗がん剤や各種分子標的薬等は高額であり個人選択性が高い冷所保存となっている。冷所保存医薬品について返品が出来なくなった状況下で、これらの限切れ薬剤費の大幅な増加が予想される。キュービックスシステムは薬品への専用タグ添付と卸業者によるリモート管理冷蔵庫を使用することによりトレーサビリティ管理が可能となった。医薬品の期限切れロス削減効果が期待される。

医薬品購入金額 3 億 6 千万円、購入医薬品値引き率 15.2%、薬剤減耗金額 88 万 6 千円、後発医薬品使用率 95.6%であった。病棟服薬管理指導料 1 (380 点) 前年度 1620 件→1939 件、病棟服薬管理指導料 2 (325 点) 前年度 5167 件→5565 件であった。病棟服薬管理指導料 1 (380 点) については算定増加目標のもと取り組みにより 2 割増の成果であった。また通院治療室(外来化学療法)業務については業務量、指導管理加算件数ともに例年増加傾向にあるなか、今年度も順調に増加した。

業務統計											
	点数		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度				
外来院外処方せん	68	枚	112,644	102,604	102,272	82,050	85,427				
外来院内処方せん		枚	6,491	6,493	6,217	4,717	5,418				
入院処方処方せん		枚	33,588	32,880	32,438	27,488	27,339				
注射剤処方せん枚数 定期		枚	17273	16617	16079	14844	15826				
注射剤処方せん枚数 臨時		枚	10110	9831	9333	8921	8765				
無菌製剤処理料1	45	件	535	553	655	655	547				
無菌製剤処理料2	40	件	1504	1493	951	951	884				
抗悪性腫瘍調製時閉鎖式使用	180	件	11	68	38	38	63				
抗悪性腫瘍剤調製外来/入院		件	641	672	771	748	810				
外来化学療法加算1	600	件	351	577	640	640	687				
薬剤管理指導件数1	380	件	294	328	938	1620	1939				
薬剤管理指導件数2	325	件	6010	6968	6187	5167	5565				
麻薬管理指導加算	50	件	69	132	136	175	225				
退院時服薬指導件数(90点)	90	件	1097	1409	1377	1247	1351				
薬剤総合評価調製加算	100	件	-	-	-	229	268				
薬剤調製加算	150	件	-	-	-	71	104				
退院時藥剤情報連携加算		件	-	-	-	209	312				
処方提案件数		件	744	976	981	1077	1214				
持参薬確認件数		件	2721	2655	2633	2406	2911				
院内製剤調製件数		件	662	671	425	754	564				
医薬品購入額		円	383,808,566	381,158,271	383,612,147	338,355,889	364,311,996				
購入医薬品値引き率		%	15.7	13.8	14.5	17.3	15.2				
薬剤減耗金額		円	372,645	876,791	385,896	896,706	886,616				
後発医薬品使用率		%	88.6	90.2	91.7	93.9	95.6				

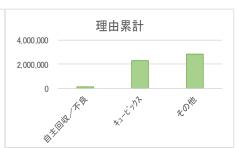
R3年度 返品実績

* 業者別推移										※価格訂正	E•遡及金額	は含まない	1
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
アルフレッサ	49,297	0	226,275	0	755	0	0	0	30,600	67,162	247,500	0	621,589
岡野薬品	0	72,940	10,650	0	0	12,043	0	8,990	57,717	401,625	7,525	363,080	934,570
スズケン	0	531	9,256	133,697	0	0	255,254	267,043	427,650	1,150,390	290,192	783,832	3,317,845
中部日本	1,055	7,670	0	0	0	0	0	945	106,900	14,801	0	500	131,871
東邦薬品	0	0	0	0	809	0	72,321	0	0	0	2,847	0	75,977
鍋林	772	2,427	0	0	0	7,700	0	0	0	12,005	0	0	22,904
メディセオ	88,000	0	0	8,578	2,343	62,181	0	0	3,438	0	0	14,554	179,094
合計	139 124	83 568	246 181	142 275	3 907	81 924	327 575	276 978	626 305	1 645 983	548 064	1 161 966	5 283 850

* 理由別推移	由別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	/11月	12月	1月	2月	3月	合計
自主回収/不良	0	8,201	0	0	0	62,905	0	0	61,155	0	2,847	0	135,108
キューピックス	-	-	-	-	-	-	0	0	62,948	1,150,390	290,192	783,832	2,287,362
その他	139,124	75,367	246,181	142,275	3,907	19,019	327,575	276,978	502,202	495,593	255,025	378,134	2,861,380
	139,124	83,568	246,181	142,275	3,907	81,924	327,575	276,978	626,305	1,645,983	548,064	1,161,966	5,283,850







R3(2021)年度 期限切れ薬品

金額推移												※月末算定価	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬品庫薬剤科	4,055	40,251	75,425	11,457	828	7,839	2,988	0	45,828	27,703	8,476	3,270	228,120
金額反映なし	41,232	4,978	35,899	251,785	35,111	6,121	23,007	20,455	6,708	101,156	11,616	120,389	658,457
合計	45,287	45,229	111,324	263,242	35,939	13,960	25,995	20,455	52,536	128,859	20,092	123,659	886,577
入庫金額	36,454,480	27,293,596	30,514,436	26,721,770	26,423,177	31,337,020	32,194,540	35,069,510	37,291,132	26,425,463	29,830,494	24,756,378	364,311,996
廃棄率	0.12%	0.17%	0.36%	0.99%	0.14%	0.04%	0.08%	0.06%	0.14%	0.49%	0.07%	0.50%	0.24%

理由内訳													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
期限切れ	45,287	44,654	111,103	233,676	25,529	13,800	25,995	11,955	52,536	87,219	20,092	123,063	794,909
施用に伴う廃棄	0	0	0	0	0	0	0	3,000	0	0	0	0	3,000
外来期限切れ	0	575	0	29,566	10,410	160	0	0	0	41,640	0	596	82,947
病棟期限切れ	0	0	221	0	0	0	0	5,500	0	0	0	0	5,721
破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	45,287	45,229	111,324	263,242	35,939	13,960	25,995	20,455	52,536	128,859	20,092	123,659	886,577

★ 学会·研究発表

年iv	月	発表演題名	学会名	形式 💌	演者名
2021	05	インスリンデグルデク/リラグルチド配合注射液の有効性・ 安全性について〜当院における投与経験を踏まえて	日本糖尿病学会年次学術 集会	口頭発表	天津怜
2021	05	病院薬剤師による外来服薬指導の取り組みと症例報告	日本糖尿病学会年次学術 集会	口頭発表	佐藤誠泰
2021	08	病院薬剤師による外来服薬指導の取り組みと症例報告	日本病院薬剤師会関東ブ ロック学術大会	ポスター発表	佐藤誠泰
2021	08	地域が求める退院時情報提供書のかたち	日本病院薬剤師会関東ブ ロック学術大会	ポスター発表	関口恭平
2021	08	カテーテル関連血流感染症(CRABSI)を疑い介入した1症例	日本病院薬剤師会関東ブ ロック学術大会	ポスター発表	関口裕基
2021	08	地方中小規模一般病院での連携充実加算算定への取り組み	日本病院薬剤師会関東ブ ロック学術大会	シンポジウム	畠山浩明
2021	09	病院薬剤師による糖尿病外来服薬指導の取り組み〜薬・薬 連携の強化にむけて経口セマグルチド導入指導の紹介	Diabetes Web Meeting in 東北信	講演	佐藤誠泰
2022	01	入退院時の情報共有事業の報告 情報共有事業の有用性の評価と課題について	長野県病院薬剤師会 病薬誌	投稿	関口恭平
2022	02	当院におけるトレーシングレポートの活用について	長野県病院薬剤師会東信 支部学術発表会	口頭発表	中嶋里奈

臨床検査科

★ 概要

■臨床検査科構成

臨床検査科は、①検体検査係(生化学、免疫検査、血液検査、輸血検査、採血、一般検査)②病理検査係(細菌検査、病理検査)③生理検査係(心電図、マスター心電図、トレッドミル検査、血圧脈波検査、ホルター心電図、脳波、PSG、呼吸機能検査、知覚痛覚検査、超音波検査、術中モニタリング)の3部門で構成されており、ほかに生殖補助業務、耳鼻科の聴力検査などの業務を行っています。

■臨床検査科の基本理念

私たちは、『患者さん中心の、患者さんのための、良質な医療の実践』という当院の理念を基に、行動目標を以下のように掲げ、日々検査業務に従事しています。

- ①正確な検査データをタイムリーに報告します。
- ②専門性を高め、患者への医療に寄与することを目指します。
- ③資質向上のため、研修、学会に積極的に参加します。
- ④チームワークを重視し、全体のレベルアップを目指します。

★ スタッフ

臨床検査医1名、臨床検査技師25名(正規職員技師19名、臨時職員技師4名、パート技師2名)、 パート看護師1名で業務を行っています。

★ 今年度の取り組みと成果

■検査科取得資格

細胞検査士3名、超音波検査士(消化器4名・循環器1名・表在3名)、認定輸血検査技師3名、緊急検査士2名、認定血液検査技師1名、睡眠医療認定検査士1名、2級臨床検査士(血液1名、循環生理1名、病理2名、細菌1名)、糖尿病療養指導士2名、医療情報技師1名、登録抗酸菌症エキスパート1名、体外受精コーディネーター1名、消化器内視鏡技師1名

■業務実績

検査数及び対前年比

活動報告

総件数	生化学	血液	血清	細菌	生理	組織	細胞診	一般	外注	その他	輸血	外来採血	計
2020年	722,304	113,022	65,078	7,102	24,280	1,613	4,925	49,428	15,013	15,597	547	33,442	1,052,351
2021年	796,520	127,226	71,023	5,865	26,149	1,917	5,291	53,465	16,922	18,632	330	36,214	1,159,554
前年比	110%	112%	109%	82%	107%	118%	107%	108%	112%	119%	60%	108%	110%

■主要設備

■土安议佣						
生化学・免疫	自動生化学分析装置	日立ラボスペクト 006				
	自動免疫測定分析装置	Alinity, Accuraseed				
	自動血球分析装置	XN-2000				
血液検査	全自動血液凝固分析装置	CN-3000				
	血液ガス分析装置	RADIOMETER ABL 90 FLEX PLUS				
	全自動輸血検査装置	ORTHOVision				
一般検査	全自動尿分析装置	US-3500				
	便潜血全自動免疫化学分析装置	OC センサー PLEDIA				
	全自動同定感受性検査装置	バイテックブルー2				
細菌検査	血液培養装置	BACT/ALERT3D				
	遺伝子検査装置	Loopamp EXIA				
	自動免疫染色装置	ニチレイバイオサイエンス HistoSTAINER36				
病理検査	術中迅速凍結切片作成装置	サクラファインテックジャパン ティシューテック PolarD				
	自動染色封入装置	サクラファインテックジャパン Prisma Plus、Glas G				
	病理検査システム	ユニオンソフト				
	心電計	フクダ電子 FCP8900,FCP9800,Cardimax7				
	超音波検査装置	Aplio500,Aplioi800,Arietta850SE,Logiq S8				
	ホルター心電図解析装置	フクダ電子 SCM-8000				
生理検査	肺機能検査測定装置	チェスト CHESTAC — 8900DN 型				
	脳波計	日本光電 NeuroFaxEEG1218				
	血圧脈波検査装置	フクダ電子 VS-2000				
	トレッドミル	フクダ電子 MLX-I000				
	生理検査システム	フクダ電子 EFS-8800				

■精度管理調査参加と成績

①2021年度 日臨技臨床検査精度管理調査

部門	臨床化学	免疫血清	微生物	血液	細胞	一般	生理	輸血	病理	遺伝子
A • B	62/62	28/28	18/18	32/32	15/15	20/20	24/24	33/33	20/20	3/3
評価	255/255					100.0%				

②2021年度 県医師会(長臨技)精度管理調査

部門	臨床化学	免疫血清	微生物	血液	細胞	一般	生理	輸血	病理
A • B	192/192	30/30	43/46	60/60	30/30	39/45	11/11	40/40	49/50
評価									

③令和3年度 第55回 日本医師会臨床検査精度管理調査

소타	評価項目数	評価項目	評価項目	評価項目	参加項目数	参加項目	参加項目	全項目	総合評価	評価 Dの数	評価せず	「その他」
		点数	満点数	修正点		満点数	修正点	満点数			の数	の数
	50	651	655	99.4	50	655	99.4	655	99.4	0	0	0

■学生臨地実習受け入れ

臨地実習性: 杏林大学 1名、新潟医療福祉大学 1名、新潟医療技術専門学校 1名

★ 学会・研究発表

■発表

1. 大井さおり:

心電図判断の基礎

第1回長野県生理研究班研修会

2. 森本光俊:

虚血性心疾患の心電図を読む

第1回長野県生理研究班研修会

3. 坂口和樹:

通院患者の FGM から得られた Time in Range を療養指導にどう活かすか 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会 (完全 WEB 開催) 2021 年 5 月 20~22 日

■座長など

• 林和樹

サタデースライドカンファレンス 指定回答者 令和3年度長野県臨床細胞学会

■参加

坂口和樹	第 64 回日本糖尿病学会
森本光俊	第 46 回日本睡眠学会

活動報告

村上絵美、井上愛	第 140 回医用超音波講義講習会
大井さおり、坂口和樹、岡部日菜子、佐藤華純	長野県臨床検査学会
林和樹	第 30 回首都圈支部関甲信支部病理細胞研修会
井出景子、林和樹	第 35 回長野県臨床細胞学会
林和樹	第 81 回細胞検査士教育セミナー
林和樹	第 152 回日本輸血細胞治療学会関甲信支部例会
林和樹	第77回日本輸血細胞治療学会東海支部例会
井出景子	第 36 回長野県臨床細胞学会スライドカンファレンス
井出景子	令和3年度長野県細胞研究班初心者講習会
飯塚洋之	2021 年度長野県一般検査研修会
井出景子	第 63 回病理組織研修会
飯塚洋之	2021 年度細胞診初心者講習会
井出景子、林和樹	第 64 回病理組織研修会
大井さおり	第 69 回日本輸血細胞治療学会学術総会

臨床工学科

★ 概要

臨床工学科は、血液浄化業務、循環器業務、手術室業務、医療機器管理業務を行っています。 血液浄化業務においては、慢性維持透析をはじめ、CHDF、PMX-DHP、PE、など急性血液浄化や 腹水濾過濃縮再静注法。

循環器業務においては、CAG/PCI、IVUS 操作、FFR/RFR 測定、ロータブレーター、IABP、PCPS などの操作、ペースメーカー関連においては植込み、外来/遠隔フォローアップ。

手術室業務においては、麻酔器や内視鏡システムなど手術医療機器の管理、脊椎外科におけるナビゲーションシステムの操作、自己血回収装置の操作。

医療機器管理業務においては、人工呼吸器の管理、輸液・シリンジポンプなどの中央管理。 以上の業務を、安全で良質な医療の提供を目指し行っております。

★ スタッフ

奥山秀樹 (医療技術部長兼臨床工学科長)

臨床工学技士:8名

★ 2021 年度の取り組みと成果

		件数
血液浄化関連(透析室以外)		26
OPE 関連	立ち合い	323
	その他	43
カテ関連		184
植込みデバイス		223
	定期 FU	19
	遠隔 FU	20
	緊急 FU	4
シャントエコー		99

★ 学会·研究発表

1. 高橋 修司:

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における透析室の対応について 第69回長野県透析研究会学術集会 2021.9.12

★ 取得資格

不整脈治療専門臨床工学技士:1名 認定集中治療関連臨床工学技士:1名

透析技術認定士:5名 呼吸療法認定士:5名

ITE:1名

救急医学会認定 ICLS インストラクター: 3名

医療情報技師:1名

診療放射線科

★ 概要

当科は当院の基本理念に則り、患者様にとって安全で質の高い放射線検査の提供に努めています。「一般放射線係」「特殊放射線係」の体制に分かれて業務を行っています。係内また係間において担当ローテーションを行いながら、広く放射線部門全般の知見を有した上に、専門性の高い検査を安全に提供することを目標として日々業務に取り組んでいます。

放射線検査においては放射線被ばくを伴いますが、当院では医療被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) が設定した診断参考レベルに従って、適切な放射線量の設定を心掛けています。 当院の診療放射線技師は質の高い画像情報を提供するため、学会で認定された資格の取得をはじめ、講習会や研修会に参加し、知識、技術の向上に日々努力しております。

★ スタッフ

常勤診療放射線技師12名、受付業務員1名

【主要設備】

全身用マルチスライス CT 装置(1式)Aquilion Prime(80列)、MRI(1式)Vantage Titan、血管撮影装置(1式)INFINIX Celeve DP、一般撮影装置(3式)UDI50L-40、X線 TV 装置(3式)SONIALVISION G4・FLEXAVISION F3・Raffine DREX-RF50、ポータブル撮影装置(3式)MobileArt Evolution・MobileArt Evolution MX7 Version・MobileArt II、骨密度測定装置(1式)PRODIGY FUGA Advance-C、マンモグラフィ撮影装置(1式)MAMMOMAT Inspiration、核医学装置(1式)Symbia E、デジタル X線撮影装置(FPD)(9式)CXDI-40IC Wireless・CXDI-70IG Wireless・CXDI-80IC Wireless、CR 読み取り装置(1式)Kodak DirectView Elite CR、Film イメージャ(1式)DV5700

★今年度の取り組みと成果

今年度はマンモグラフィ検診施設画像認定期間満了に伴い 2021 年 10 月に認定更新を行い

ました。「日本乳がん検診精度管理中央機構(以下、精中機構)」が実施している病院ごとの評価認定で、撮影装置や実際に撮影した写真、撮影に要した X 線線量等が細部にわたり厳格に評価され、全ての審査をクリアすることで得られ、適切で質の高い検査を実施していることの証となります。

また新たに検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師1名が2021年11月に認定取得致しました。精中機構が開催する講習会を受講し、読影試験とマンモグラフィの基礎・撮影技術・品質管理・撮影機器についての筆記



試験に合格することで得られ、高度な撮影技術と読影力を持ち合わせ質の高いマンモグラフィ検査

を提供できる技師の証となります。

次に画像診断機器更新として骨密度測定装置を 2022 年 1 月に導入しました。鋭角ファンビーム 方式により腰椎と大腿骨をポジション変更すること無く測定することが可能となり、受診者の拘束 時間低減と検査スループットの向上を実現しました。





【実績】

	CT	MRI	単純撮影	造影検査	血管撮影	骨密度	乳房撮影	核医学	総件数
2020年度	9423	2525	36885	1863	200	1014	1947	214	54071
2021年度	11383	3066	38031	1607	216	1064	2140	214	57721
前年度比	121%	121%	103%	86%	108%	105%	110%	100%	107%

★ 学会·研究発表

• 座長

<2022年>令和3年度長野県診療放射線技師会検診従事者研修会 3月5日

•参加

<2021年>

第7回 CV-NET 信州 6月5日

第22回 NTRT 全国 X 線撮影技術読影研究会 in 兵庫 6月5日~6日

2021 年度第1回消化管造影セミナー 6月24日

日本放射線公衆安全学会 第34回講習会 8月28日

CCT2021 10月28日~30日

第7回最新のエビデンスと経験に基づいた血管内治療研究会 11月12日

第 42 回マンモグラフィ技術講習会 11 月 13~14 日

第50回浜松やらま胃会記念大会 Hybrid 11月27日

第8回 CV-NET 信州 12月11日

第7回 J-RESCUE 12月17日

活動報告

<2022年>

GE 骨密度測定装置 Webinar 1月25日 第59回心臓核医学談話会 1月29日 第72回デジタルマンモグラフィ品質管理講習会 3月1日~3日 第10回胃 X 線読影勉強会 3月19日

歯科口腔衛生技工科

★ 概要

歯科口腔衛生技工科では歯科医師とともに、患者さまの口腔疾患の治療及び予防、さらに口腔機能向上・回復を図り、健康で快適な社会生活を営むためのチーム医療を行い、良質な医療が提供できるよう努力しています。

★ スタッフ

○歯科衛生士 6名 ・小林 輝美(係長) ・坂本 ななえ ・越野 侑里奈

・土屋 美智子 ・大澤 松美 ・菊池 明美

○歯科技工士 3名 ・依田 肇(科長) ・市川 絢加 ・片桐 聡士

★ 今年度の取り組みと成果

○歯科衛生士

- 1. 一般業務として
 - ◆ 口腔衛生指導
 - ◆ 診療補助
 - ◆ 予防処置
- 2. 病院歯科業務として
 - ◆ 歯周病治療
 - ◆ 入院患者様の口腔ケア
 - ◆ 要介護者・障害を有する方等への指導等

○歯科技工士

- 1. 一般歯科技工業務として
 - ◆ 保険適用補綴物 (義歯・金属冠・硬質前装冠等) の製作
 - ◆ 保険適用外補綴物(金属床義歯・各種セラミック冠・ハイブリッド冠等)の製作
 - ◆ 義歯修理を外来・入院患者さん共に即日対応
 - ◆ 義歯洗浄・名入れを即日対応
- 2. 特殊歯科技工業務として
 - ◆ 全身麻酔時の口腔内保護装置(プロテクター)の製作
 - ◆ 睡眠時無呼吸症候群の患者さま用口腔内装置(OA)の製作
 - ◆ 顎関節症の患者さま用口腔内装置 (BP) の製作
 - □腔外科手術の際の保護シーネ・止血シーネ等の製作



等

◇主な実績

	障害者が	拖 設 検 診	
春		秋	
小諸学舎	49 名	小諸学舎	51 名
こまば学園	51 名	こまば学園	53 名
千曲園	46 名	千曲園	47 名
たてしなホーム	44 名	たてしなホーム	43 名
臼田学園	45 名	臼田学園	39 名
浅間学園	49 名	浅間学園	48 名
緑の牧場学園	59 名	治育園	48 名
コスモスワークス	59 名	緑の牧場学園	58 名

佐久市在宅要介護者訪問歯科検診	2 回	歯周病(義歯)検診	3 回
乳幼児歯科健康診査	2 回	保育園検診	2 回

	訪	問	歯	科	診	療			
シルバーランドきしの	157名	シル	バー	ラン	ドみ~	つい	245 名	在宅	41名

		口腔ケ	ア		
周術期口腔管理	164名	病棟口腔ケア	11名	経口維持加算	60名

全身麻酔	95 名	障がい者全身麻酔	6名
静脈鎮静法	104 件	小児全身麻酔集中治療	3名

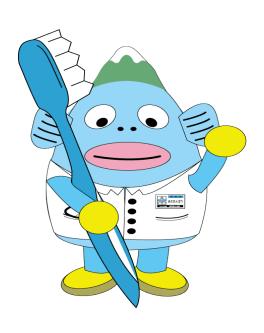
◇主な製作物 (一部外注含む)

_	般歯科技工物	特殊歯科技工物			
In,Core,FMC,HR 等	保険適用	823 本	プロテクター	49 件	
	保険適用外	16 本	止血シーネ等	22 件	
FD,PD	保険適用	336 床	OA	10 件	
等	保険適用外	12 床	BP	16 件	
義歯修理		261 件			
義歯名入れ		66 床			

★ 学会·研究発表

〈学会等〉

2021	05 月	日本老年歯科医学会埼玉支部セミナー	Web 参加
	10 月	厚労省日技公益事業研修会	Web 参加
	11月	長野県国保直診歯科研修会	Web 参加
2022	02 月	長野県歯科技工士学術大会	Web 参加
	02 月	長野摂食嚥下リハビリテーション研究会	Web 参加



リハビリテーション科

★ 概要

令和3年度の科の目標として

- 1. 体調管理・感染防止を徹底し、安心・安全な医療を提供する。
- 2. 最新の医療知識・技術を身に着けるように、科内勉強会を開催し参加する。院内外の研修会にも積極的に参加する。
- 3. 科内職種はもとより、院内他部門との連携を強めて、チーム医療を実践し、医療の質を高めるを上げ、実践してきました。

★ スタッフ

理学療法士:22名 作業療法士:11名 言語聴覚士:4名 視能訓練士:6名 事務員2名

★ 今年度の取り組み

感染対策として各病棟専門の職員を配置し移動を制限しています。また職員の体調管理に対して も徹底しており少しでも風邪症状があれば、自宅待機の対応をしています。

科内勉強会として病棟別勉強会:24回 科内全体勉強会:5回 病棟からの依頼勉強会:2回 職員の資格取得は現在、呼吸認定療法士:1名・脳卒中認定療法士:2名・運動器認定療法士:4名・徒手理学療法士1名・発達障害認定療法士:1名・運動器専門療法士:1名・三学会合同呼吸療法認定士:6名・リンパ浮腫療法士:1名・ICLSコース:8名・住環境コーディネーター2級:6名・ゴルフフィジオトレーナー:1名・東北信糖尿病運動指導士:1名・障害者自動車運転リハビリテーションセミナー:1名・介護支援専門員1名・ゆうきプログラム指導員:1名・弾性ストッキング、圧迫療法コンダクター:1名・理学療法博士:1名・児童発達支援管理責任者:1名・障害者相談支援従事者:1名です。

★ 業務実績

院内の業務実績については下記の表を参照。

院外業務に関しては、

療育センター:年29回

塩名田苑:年11回

元気っ子クラブ:年4回

お達者応援団:年1回

就学支援委員会:年5回等に職員を派遣しています。

院内業務実績表

リハビリ	リテーショ	ョン科実	績(件数	=単位数	()							
全体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年	8302	8361	9282	9282	8358	7805	8231	8835	9070	8582	8329	9735
昨年	8400	8499	9264	9089	8019	8407	9012	8155	7743	6278	7626	9044
理学療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年	5654	5655	6175	6063	5664	5384	5459	5885	5868	5644	5459	6453
昨年	5297	5525	6099	6188	5410	5548	6040	5398	5197	4296	5171	6238
作業療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年	1999	2095	2391	2054	1950	1716	2036	2231	2388	2225	2148	2438
昨年	2391	2272	2369	2183	2038	2183	2200	2127	1987	1566	1841	2053
言語療法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年	496	475	548	622	580	542	564	541	644	562	608	665
昨年	536	541	593	543	421	507	580	491	435	329	492	575
訪問リハ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年	153	136	168	172	164	163	172	178	170	151	114	179
昨年	176	161	203	175	150	169	192	139	124	87	122	178
外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年	1427	1440	1645	1662	1628	1761	1872	1767	1810	1670	1583	1877
昨年	1288	1278	1617	1819	1570	1684	1798	1609	1249	780	1349	1714

栄養科

★ 概要

栄養科は、栄養係と給食係(給食委託)の二つに業務分担しています。

栄養係は、入院・外来患者様の栄養管理(栄養食事相談、栄養アセスメント、チーム医療等)を行い、迅速できめ細かな対応が出来る様、管理栄養士の病棟担当制をとっています。また、各々が専門知識の向上を目指し、積極的に学会・研修会に参加し、様々な資格を取得しています。

給食係は、入院患者様の食事を株式会社グリーンヘルスケアサービスに業務委託しています。県内でも数少ない、新調理システムのニュークックチル方式を導入し、衛生管理の充実・患者満足度向上を図っています。季節に合わせた月2回以上の行事食を提供し、患者様から好評を頂いています。

令和3年度 栄養科の目標

- ① チーム医療に積極的に取り組み、多職種と連携を深める
- ② 個々患者様の栄養管理の実践に努める
- ③ 各自がスキルを上げ、科内で統一を図り、院内に栄養科を確立していく

★ スタッフ

管理栄養士:8名 給食委託職員:37名

★ 今年度の取り組みと成果

令和3年度 栄養食事相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3 月	合計
入院	39	32	45	30	41	27	32	36	50	25	29	42	428
外来	298	240	251	296	253	262	259	247	222	244	224	282	3078
合計	337	272	296	326	294	289	291	283	272	269	253	324	3506

令和3年度 食事提供数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3 月	合計
一般	9027	8924	8241	8204	9096	8155	9166	10624	10696	10299	9634	10209	112275
特別	6409	6226	6451	6577	6209	5051	5099	5216	5452	6218	6244	6169	71321
合計	15436	15150	14692	14781	15305	13206	14265	15840	16148	16517	15878	16378	183596

令和3年度 行事食及び嗜好調査等

	行事食	嗜好調査等		行事食	嗜好調査等
4月	花見膳、パン献立		10 月	月見膳、ハロウィン	病棟訪問
5月	こどもの日、パン献立	病棟訪問	11月	収穫祭、パン献立	
6月	開院記念日、パン献立		12月	冬至、年越し、クリスマス	
7月	七夕、土用丑の日	嗜好調査	1月	おせち料理、七草粥	嗜好調査
8月	お盆、佐久の郷土食		2月	節分、バレンタイン	
9月	敬老の日、お彼岸、小鮒		3月	雛祭り、お彼岸、佐久の日	

★ 学会·研究発表

〈学会発表〉

- 1. 大澤瑞穂:
 - 2 型糖尿病患者における COVID-19 緊急事態宣言後の生活の変化と臨床指標の関連 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会 2021 年 5 月 20 日~22 日 WEB 形式
- 2. 高杉一恵:
 - 2 型糖尿病患者における COVID-19 緊急事態宣言後の飲酒行動の変化 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会 2021 年 5 月 20 日~22 日 WEB 形式
- 3. 山上智恵子:

PGSAS アプリを用いた胃切除後障害外来での継続指導により術後の QOL 改善を認めた他施設での胃切除後症例 2 例

第 51 回胃外科・術後障害研究会 2021 年 11 月 11 日~12 日 WEB 形式

- 4. 高杉一恵:
 - 2 型糖尿病患者における COVID-19 緊急事態宣言後の飲酒行動の変化 第 24・25 回日本病態栄養学会年次学術集会 2022 年 1 月 28 日~30 日 WEB 形式

★ 病院管理栄養士の取得資格

日本糖尿病療養指導士:4名

東北信地域糖尿病療養指導士:6名

病態栄養専門管理栄養士:3名

栄養サポートチーム専門療法士:2名

NSTコーディネーター:1名

調理師:1名

フードスペシャリスト:1名

看護部の理念

看護を必要とする人の意志を尊重し、 専門的知識、技術に、やさしさと 思いやりの心が調和する質の高い 看護を目指します。

看護部

★ 概要

≪看護部の理念≫

私たちは病院の理念に基づき、看護を必要とする人の意思を尊重し、専門的知識・技術に優しさ と思いやりの心が調和する質の高い看護を目指します。

≪看護部の方針≫

- I. その人に寄り添い安全·安楽な看護を提供します。
- Ⅱ. 専門職として自立し自己研鑽に努め、責務を果たします。
- Ⅲ. 誇りと責任ある職場風土をつくります。
- Ⅳ. 看護をとおして、地域社会に貢献します。

≪2021 年度 看護部目標≫

- I. 相手の立場を尊重し心のこもった接遇から信頼関係を築き、倫理観を大切にした丁寧な看護を 提供する。
- Ⅱ. 自部署の管理(病床・患者)を適切に行い、病院経営に参画する。
- Ⅲ. コロナ禍であっても、自己研鑽に努め、個人の力を発揮した、活気ある職場づくりを行う。

★ スタッフ

2021 年度現在

看護部門職員総数 345 名≪正規職員 233 名 会計年度任用職員 112 名≫

認定看護師5名(5分野)

平均年齢(全体)45.8歳

離職率 (全体) 7.74%

★ 今年度の取り組みと成果

・2018 年度より、JNA ラダーを標準指標とし、継続教育、人材育成に取り組んでいる。今年度も、病院の役割・理念・看護部の理念を遂行するため、レベル別自己評価・他者評価の結果を基に、レベルに応じて弱みを強みに強化していくための研修内容を検討してきた。昨年度、集合研修の中止が余儀なくされたため、それらの課題を含め今年度は各部署での研修の充実を図ることを目的に研修を開催した。オンラインを活用し、レベル別の集合研修を実施しまた、e-ラーニングも昨年以上に活用できた。実績評価に関して、各部署の研修開催回数上位やe-ラーニング視聴上位者などへの表彰を行い、モチベーションの維持、向上も図れた。

活動報告

- ・認知症看護認定看護師取得に向け看護スタッフ1名が研修への参加を行った。今後資格取得予定。
- ・年間を通して佐久大学・小諸看護専門学校の臨地実習を受け入れている
- ・高体連・高野連など各種大会への看護師派遣
- ・ 高校生・中学生職業体験・ボランティア受け入れ (コロナ禍のため今年度実施せず)
- ・健康教室・出前講座・思春期性教育(中・高校生)
- ・固定チームナーシング院内成果発表会(今年度実施せず)冊子のみ作成
- ・看護部全体集会(今年度実施せず)冊子のみ作成
- ・新型コロナワクチンの接種が開始され、医師・看護師はじめ開業医職員や消防署職員などへの接種を行った。また、佐久市・立科町モデルケースの対象として、65歳以上の方 180名への接種を実施した。その後週3回(月・水・金)で年間を通して2回目、3回目の接種を行った。また、7月~は一般企業へのコロナワクチン接種協力を行った。11月からは、5歳~11歳の小児へのワクチン接種を行った。

西3階病棟

★ 概要

西3階病棟では、主に整形外科・脳神経外科の患者さんの受け入れを行っています。

整形外科は、加齢による疾患(骨粗鬆症・変形性関節症・脊椎症)と、外傷治療(骨折・脱臼など)に力を入れています。積極的に受け入れを行い、休日・夜間であっても患者さんの状態を優先して緊急手術や治療が行われています。脳神経外科は、脳卒中をはじめあらゆる疾患に対応しています。急性期の血管内治療や手術での治療を行い、少しでも早く回復できるように取り組んでいます。整形外科外来(一元化)、脳外科外来、救急医療部と連携をとり、予定入院・緊急入院の受け入れを行っています。入院後は、多職種(医師・看護師・リハビリ・医療相談員・薬剤師・管理栄養士)と連携し、安心・安全な看護を提供した退院支援を行うとともに、退院から外来まで繋げています。

★ スタッフ

整形外科医師…8名 脳神経外科医師…1名

看護師…34名 病棟師長 1名・ 主任 2名

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 1名

整形外科外来担当看護師 4名

介護福祉士…6名 看護補助者…1名 看護助手…1名 医療事務…1名

★ 今年度の取り組みと成果

≪ 病棟目標 ≫

- 1 患者さん・患者さん家族を尊重し心のこもった丁寧な看護を提供する
 - 1)倫理的な視点を大切に、やさしく・丁寧な接遇を行う
 - 2) 入院中の様子を知っていただくことで、スムーズな退院支援を行う
- 2 専門性の高い看護を提供しスタッフ全員で病院経営に参画する
 - 1) 各種の加算を正しく理解し、漏れなく算定につなげる
 - 2) 入院をスムーズに受け入れ、ベッド稼働率85%以上を目指す
- 3 働きやすく活気ある職場づくりを目指す
 - 1) 脳外科、整形外科の患者さんが安全に入院生活を行えるように学習を深める
 - 2) 朝残業、申し送り時間を短縮することで、超過勤務を7時間以内/月にする
 - 3) e-ラーニング3科目以上を視聴し活用することを目標に自分の生活パターンに合った 学習方法を取り入れながら、自己研鑽に取り組む

≪2021年1月~2021年12月 [2020年] のデータ≫ 【病床数】 47床							
病床平均稼働率	80.5% [80.1%]	診療科別入院比(整: 脳)	77.0% [90.0] : 20.9%[7.7]				
平均在院日数(整形)	8.43 日 [15.4 日]	平均在院日数(脳外)	16.86 日 [13.7 日]				
予定手術件数(整形)	428件 [351件]	予定手術件数(脳外)	14 件[0 件]				
緊急手術件数(整形)	306件 [454件]	緊急手術件数(脳外)	26 件[14 件]				
緊急入院数(整形)	643件 [496件]	緊急入院数(脳外)	147 件[25 件]				
整形外来一日平均患者数	116.3 人 [137.1 人]	脳外外来一日平均患者数	15.7 人[4.3 人]				

目標1

○ スタッフ全体で取り組んだ接遇

病棟スタッフに接遇に関するアンケートを行った結果、「接遇やコミュニケーション力を高め、 患者さんやそのご家族が満足してくれる対応ができる看護者になりたい」と感じている。「正直なところ、自分では接遇ができていると思う」の回答は 42%と自己評価は低かった。この結果を 基に、「相手に伝わるよう言葉を選び配慮する」「患者さんから見える位置に名札を付ける」「自分から患者さんに声をかける」など、7項目を取り上げ取り組んだ。3 か月後のアンケート結果は すべての項目も自己評価は上がっている。また、取り組み後半年間で、良い評価の投書を 3 件頂いた。

○ コロナ禍の面会

面会が制限される中、入院中の患者さんの 様子がご家族に伝わりにくく、患者さんのご 家族は退院後の生活が想像できない状況であった。タブレットによるリモート面会を応用 して、リハビリの様子などをご家族に見ていただいた。同居のご家族だけではなく、遠方 のご家族もタブレットを通しての面会ができた。



目標2

○ ベッド稼働率 85%を目指す

脳神経外科は緊急入院が多く、入院後から急性期の治療が始まるため、重症患者用ベッドの確保が必要となる。また、整形外科の緊急入院は緊急手術となることが多いため、夜間の緊急入院に備え準夜帯に入る前にベッドコントロールを行っている。稼働率は目標を超えなかったが、患者さんをお断りすることがないように受け入れ態勢を整えた。

目標3

○ 残業(朝残業を含む)の短縮にむけて

深夜勤務から日勤勤務への申し送り開始時間を 15 分間遅らせた。遅らせた時間を、情報収集 や指示確認、記録の時間に当てた。また、時間外に行っていたリーダー会、病棟会を時間内に実 施するよう試みた。平均超過勤務は 5.58 時間/月であり目標達成と業務の改善に繋がった。

西 4 階病棟

★ 概要

糖尿病の治療・教育を中心に心疾患から肺炎、神経内科疾患まで、幅広く看ている一般内科の病棟です。2020年4月から心臓・血管カテーテル治療も開始しています。

「この病棟に入院して良かった」と思っていただけるケアをモットーにスタッフ一同がんばっています。診療科を問わず、気持ちよく入院を受け入れています。

診療科目:一般内科·循環器内科·糖尿病内科

★ スタッフ

看護師:37名(師長1名・主任3名〈病棟2名・糖尿センター1名〉)

認定看護師:糖尿病看護 丸山友子

日本糖尿病療養指導士:1名 東北信地域糖尿病療養指導士:5名

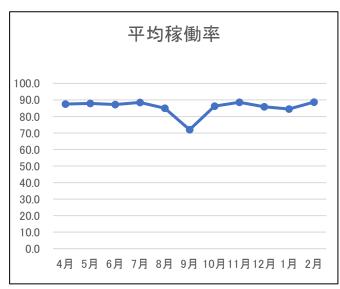
看護補助者:7名 業務職員:1名

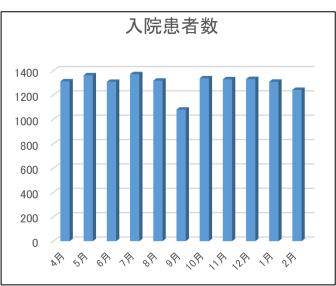
★ 今年度の取り組みと成果

≪病棟目標≫

- 1 患者・家族と良好な関係がきづけるような接遇を心がけ、思いに添った看護や支援に つなげることができる。
- 2病院経営の意識を持ち、スタッフ間で情報共有を行い、できる限り入院を断らない。
- 3各チームで勉強会を行い、伝達することで豊富な情報を持ち職場を活性化する。
- * 糖尿病センターとの一元化を図り、病棟看護師が外来を担当し療養指導、フットケアなどを 毎日行い、外来と病棟との連携を深めることで、患者との信頼関係を築くことができた。
- * 医師・リハビリスタッフ・ケースワーカー等と連携をとり、患者・家族の意向に沿えるような 退院支援/調整・退院指導などを行うことができた。
- * 認知症看護認定看護師養成研修をスタッフ1名が受講し、認定資格を取得する予定となった。
- * 年間を通して病棟稼働率は80%以上を保ち、延べ患者数は1300人/月程度を受け入れた。
- * 部署内研修を積極的に行い、職場の活性化に努めることができた。

* 各チームで業務改善を計画し、メンバー同士協力して業務の改善を積極的に行い、超過勤務時間を昨年度より短縮することができた。





★ 学会参加·研究発表

1. 丸山友子:

療養行動が困難になった高齢 1 型糖尿病患者の Advance Care Planning (ACP) を踏まえた 支援

第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会(完全 WEB 開催) 2021 年 5 月 20~22 日

★ 院外講師·研修受講等

・丸山友子: 糖尿病看護認定看護師として、佐久大学講師・看護協会研修講師などに派遣

・篠原綾子: 認知症看護認定看護師研修受講 R4年10月に認定試験予定

西 5 階病棟

★ 概要

西 5 階病棟は、外科・耳鼻科・歯科等と手術目的で入院される患者が、多くを占めています。そのほかに症状緩和・保存的治療・終末期治療目的の患者様が入院されています。

外科:癌・大腸癌・乳癌・肺癌・肝臓癌・膵臓癌・胆のう癌・総胆管/胆嚢結石・腸閉塞・消化管出血・便失禁治療の仙骨刺激療法

耳鼻科:鼻中隔湾曲症・急性扁桃腺・鼻出血・眩暈・突発難聴

歯科:・外来での抜歯が困難な方

ベッド数:50床

看護体制:固定チームナーシング

勤務体制:2交代勤務

★ スタッフ

病棟師長1名 主任2名 看護師28名 (臨時職員含む) 看護補助者1名 介護福祉士5名 病棟クラーク1名 業務職員2名

★ 今年度の取り組みと成果

≪病棟目標≫

- 1 患者及び患者家族に対し入院から退院まで安全で安楽な看護を提供する
 - 1) 患者及び家族からのクレームが昨年度の50%以下となる
 - 2) 院内発生の褥瘡が昨年度の50%以下となる
 - 3) 注射のインシデントが昨年度の50%以下となる
 - 4) 退院前訪問と他院後訪問を2例/以上実施する
- 2 チームで協力し合いお互いを思いやれる職場をつくる
 - 1) チームで協力し効果的なベッドコントロールを行う
 - 2) 新人ナースは病棟全体で育成する。

目標1

- ・コロナ禍によって面会制限や病室のカーテン隔離など入院生活に加えて患者の大きなストレスを 抱えることが予測された。誤嚥性肺炎で入院された 98 歳の患者がせん妄状態になった。医師か らも説明はされたが、患者自身がつらい思いをしたという意見が寄せられた。面会できないこと による家族の不安、患者の抱える不安が環境の変化によってせん妄を引き起こす要因となった事 例であった。面会制限や家族との連携などコロナ禍が私たちの大きな壁となっている。そのよう な中でも丁寧な説明を行い、患者家族に理解を求めながら患者さんが入院してよかったと思える ケアを継続していきたい。
- ・褥瘡については、2020 年度→11 件 2021 年度→3 件 と前年度の 30%以下に減少した。末期癌 の患者などのリスクの高い患者が多いことも褥瘡発生の要因となっている。
- ・退院前後訪問では、コロナ禍であるため、訪問が困難な時期が長く続いた。その中でも、3件の 退院後訪問が実現した。自宅での生活を確認することで薬の管理ができていなかったことがわか り再度説明し正しい服薬ができた。

目標2

- ・緊急入院のためのベッドを常に確保し、入院の受け入れを行った。1日の入院が10人を超えることもあり、ベッドの入れ替えや患者の状態に合わせた選択など看護補助者と連携しながら実施できた。
- ・新人看護師は、コロナ病棟の稼働によってプリセプターが不在になる時期もあったが病棟全体チーム全体で育成を行った。本人の努力はもちろん、病棟スタッフの育成に対する姿勢も好影響を与えたといえる。

★ 学会・研究発表

1. 井出美子:

「ちょっぴり楽に動ける酸素療法のコツ」 パネルデスカッションパネラー 第23回長野県呼吸ケアセミナー [2021. 2. 13] zoom

★ 院外講師

講師:井出美子

成人看護 II 慢性呼吸不全看護 佐久大学 3 年 呼吸機能障害を持つ患者とその家族への対応

講師:井出美子

長野県看護協会研修 呼吸器ケア 治療の基本と看護を学ぼう 長野県看護協会研修 呼吸器ケア ステップアップ編

西 6 階病棟

★ 概要

主に産科・婦人科・小児科(未熟児を含む)の混合病棟であるが、整形外科・耳鼻咽喉科・内科・歯科などのレディース病棟としても機能している。産科・婦人科・コウノトリ外来も病棟スタッフで運営している。その為、科の特殊性から休日・夜間も病棟で救急患者さんの対応を行っている。分娩時には、小児科との連携がとりやすく、ハイリスク分娩にも迅速な対応ができている。

佐久市の事業として、2017年10月より重症心身障がい児等を病棟でお預かりする「レスパイト」 事業を請け負っている。さらに、2021年8月より産後ケア事業が開始となり、授乳や育児の支援が 必要な方、ご家族の支援が十分に受けられない方などに産後ショートステイとして利用してもらっ ている。

★ スタッフ

助産師 25 名 (正規職員 22 名 会計年度任用職員 3 名) 看護師 4 名 (正規職員 2 名 会計年度任用職員 2 名) 准看護師 1 名 (会計年度任用職員 1 名) 看護補助者 3 名 (会計年度任用職員 3 名)

★ 今年度の取り組みと成果

≪病棟目標≫

- 1「またここに入院したい」と思ってもらえるような思いやりのある温かい 看護を提供する
- 2 専門職として自己研**鑽・**自己啓発を忘れず、高い知識と技術を持った集団と してお互いを育成し合える職場環境をつくる

2021年1月~12月までの分娩件数は474件となり、2020年は506件であったため、減少はしたが、ハイリスク分娩が増加傾向にあった。コロナ禍による面会禁止、夫の立ち合い分娩中止の中、人生の一大イベントである出産に対し産婦に寄り添い思いやりのある看護を提供してきた。

退院1週間後や1か月健診では、産後うつ病質問票・育児支援チェックリスト・赤ちゃんへの気持ち質問票を用い点数をつけ、個別面談を行ってきた。産後は、マタニティブルー様の症状を呈する方が多く面談時間が2時間にわたる方もいた。市町村と連携を図り1か月以降は、市町村の新生児訪問にてフォローしてもらっている。1か月を過ぎると大分気持ちが落ち着き市町村からの返書

も問題ない事が多い。

自己研鑽・自己啓発については、各個人でオンデマンドやライブ研修、学研 e ラーニングの視聴等で学習していた。そして、部署の学習会では、毎月1回以上、症例検討、実践に即したシミュレーション、伝達講習、医師を講師に招き研修開催など例年以上の盛り上がりがあった。同じ内容で数回開催したことで、スタッフ皆が参加できたことも大きな成果であった。

また、2022 年 4 月より不妊治療が保険適用になったことにより、不妊治療を受ける患者、体外受精・人工授精などの処置が増えている。カウンセラーを配置し、きめ細かい対応をしている状況である。

東3階病棟

★ 概要

介護療養型医療施設。科を問わず介護保険で要介護 1~5 と判定された方を受け入れている。一般病棟で検査・治療を終了したが ADL 低下などの理由により在宅介護が困難となり、リハビリを行いながら施設入所目的の患者、また終末期と診断された方で在宅での看取りが困難となった患者を受け入れている。終末期患者に対しては医療用麻薬を使用するなど緩和ケアも行いながら、家族との繋がりも大切にしながらお見送りしている。ここ 2 年間では退院される患者の約 40%~50%看取りのケアを行っている。

★ スタッフ

医師:1名(嘱託医) 看護師:14名(正規職員6名・再雇用4名・会計年度職員4名) 介護福祉士7名(正規職員5名・会計年度職員2名) 業務職員1名(契約業者) ケアマネージャー:5名

★ 今年度の取り組みと成果

≪病棟目標≫

- 1 患者家族の意思決定を尊重し、ケアチームで連携を取り、最善のケアを実践していく。
 - 1) 患者の生きてきたプロセスを丁寧に聞き取り、患者・家族の望むケアを提供する。
 - 2) 実践したケアを倫理・デスカンファレンスを通して振り返る。
 - 3) 高齢者の脆弱な皮膚を考え丁寧なケアを行う。
 - 4) 感染予防対策を実施しながら、リモート面会・直接面会を適切に行い、家族との関わりを維持していく。
- 2 介護報酬改定に沿ったケア・加算の見直しを行いながら、同時に介護医療院への準備を進めていく。
 - 1) 災害発生の対応が迅速に行えるよう、アクションカードを作成し避難訓練を実施していく。
 - 2) 加算の見直しと新設された加算の取り組みを行う。
- 3 研修・e-ラーニングを活用し、自己目標を80%達成させる。
 - 1) e-ラーニングを視聴し伝達講習を行う。
 - 2) 学習を現場実践に活かせるような取り組みを行う。

目標1

長引くコロナ禍で患者には様々な我慢を強いており、患者家族との面会・屋外での活動、レクリエーションの内容等にかなり制限を掛けてきた。そのような状況下において認知症状の低下防止・患者のストレスを除去の為、固定チーム活動を通して病棟内に季節の飾りつけ・患者が作成した作品の展覧会などの取り組みを行い、患者自身が自分の作品を他患者に鑑賞してもらえているという喜びを感じてもらえた。面会制限に対しては出来るだけ多くの家族にリモート面会を行ってもらうため、入院セットを提供している業者の協力を得てタブレットを借り、連日のようにリモート面会してもらうことができた。終末期の患者に対しては、院内の規定に沿って面会を許可しているが、終末期患者が増える中、家族の患者に対する想いは様々でコロナ禍の中で患者と家族の別れにどのように関わっていくべきか考えながらケアを行っていく事はこれからの課題でもある。

目標2

3年に1度の介護報酬改定によるケア・加算の取り組みを行ってきたが、今回の介護報酬改定は厳しい内容であり基本報酬の値下げに加え、算定できていた加算が当たり前のケアとして算定できなくなった。また実施しないことにより減算となる改定もあり、その減算を抑えるため主任が代表で指定された研修を受講し伝達を行う事により1つの加算を取ることができた。一方、多職種に協力を得て新たに取れる加算の取り漏れがないよう努力してもらった。しかし基本報酬が8.8%減になった痛手は大きく、入院数は2020年と同等数にも関わらず、収益は多額の減収となった。

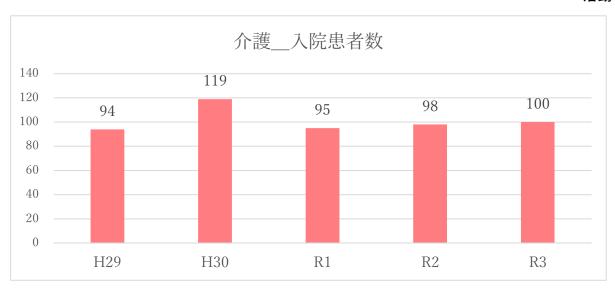
(例) 介護度 1~5 の患者が 1 名ずつ 30 日入院したとして収益は約 14 万円の減)

令和6年4月から介護医療院転換にあたり、病棟だけでなく院内で介護医療院の学習に会を開催してもらい、また病棟でも独自に医療院の内容について知識を深めてきた。当初の予算の中でスタッフ・総務課施設係と話し合いを持ってきたが、年度後半になって佐久市から予算の修正がかかり話し合いが中断となってしまった。2022年度改めて介護医療院のワーキングを立ち上げ話し合いを持つことになる。

目標3

スタッフ個々の自己研鑽として、e-ラーニング視聴 1 人 10 講義を目標とした。多数視聴したスタッフに影響を受け約 8 割のスタッフが 10 講義の視聴をすることができた。しかし自己目標を意識して研修・e-ラーニング活用が出来たと答えたスタッフは 20%程度であった。ただ視聴するという意識ではなく自分の知識を深め、ケアに活かす活用を進めていきたい。

活動報告







南 3 階病棟

★ 概要

地域包括ケア病棟は、急性期治療が終了した患者様に対して、在宅復帰に向けた医療や支援を行っており、医師・看護師・リハビリスタッフ・薬剤師・栄養士・退院支援者とともに退院後のケアについて連携をとりながら支援している。また、在宅での介護負担軽減のためのレスパイト入院や、在宅、施設などで療養中の方が具合が悪くなった時に緊急に入院できるような体制も整えていくよう努力している。

退院調整の他に、短期滞在の手術対応(白内障・鼠経ヘルニア・下肢静脈瘤・橈骨骨折・抜釘・麻酔下での歯科等)をしている。

★ スタッフ

- ·外科医師 1名 ·各科主治医
- ・看護師 22 名 (会計年度職員 5 名、パート1 名含む) 眼科外来一元化 2 名/日 外来業務
- ・看護補助者 8名(会計年度職員7名、パート1名)
- 業務職員 1名

★ 今年度の取り組みと成果

≪病棟目標≫

- 1. 倫理的感受性を高め、患者・家族を尊重した看護を提供する。
 - 1) 看護者の倫理綱領に沿った事例を考える
 - 2) 倫理的問題と思われる事例をまとめ年間5事例の検討を行う
- 2. サブアキュートの受け入れを行い、安心して在宅復帰できるよう退院支援を行う。
 - 1) サブアキュートの受け入れ体制を整え、月1名の患者を受け入れる
 - 2) 病床月平均稼働率80%維持を目指す
- 3. 病棟の強み弱みを知り教育計画を立て、病棟全体で教育に取り組む職場作りをする。
 - 1) 教育委員、学習係中心に学習計画を立てる
 - 2) 急変時に対応できるスキルを身につける

★ 活動内容と今後の課題

目標 1. 倫理的感受性を高め、患者・家族を尊重した看護を提供する

看護実践の中から倫理的に問題であると感じられた事例を5事例分析することを目標に行ってきた。4ステップスワークシートで分析し発表を行い、他者の看護観を共有でき自分の看護の振り返りにもなるという評価が得られた。活発な意見交換とまではいかなかったが、倫理的問題と思われる事例の抽出、その分析する能力が高まっていると思われる。今まで実際の事例を基にケーススタディとしての事例検討を行ってきたが、終盤では2事例の倫理カンファレンスを行うことができた。今後はタイムリーに倫理カンファレンスが行えるような体制を作っていきたいと考える。

目標 2. サブアキュートの受け入れを行い、安心して在宅復帰できるよう退院支援を行う

サブアキュートの受け入れは 14 名で昨年の倍以上の受け入れができた。レスパイト入院や今年度は橈骨骨折の手術患者の受け入れも行ってきた。サブアキュートの必要性について病棟内で学習会を行ったことでスタッフの認識も高まり、受け入れに対して積極的になっている。しかし、サブアキュートで受け入れても転院となったり一般病棟へ転棟となったりと、患者の状態の予測が困難なこともあり、どのような疾患を受け入れるのがよいのか、サブアキュートの定義の検討をする必要もあると考えているが、まだまだ調整は必要である。診療報酬の改定により今後月3名以上のサブアキュートの受け入れが必須となることが予測される。医事課、外来との連携、居宅・訪問看護等との協力体制をとって今後も積極的な受け入れを行っていきたい。

目標 3. 病棟の強み弱みを知り教育計画を立て、病棟全体で教育に取り組む職場作りをする

ラダー評価で当病棟の弱みは救急対応、災害時対応であるということから、BLS 勉強会、急変時対応のシミュレーションを数回に分けて実施、災害に対してはeラーニングの視聴を行い目標に沿った学習会を学習係が中心となり行ってきた。今年はラダー研修が開催されないので各職場に任されたこともあり教育委員と学習係で計画的に学習が進められた。他には地域包括ケア病棟でのサブアキュートの必要性、退院支援の診療報酬、など病棟目標に沿った内容や、排便コントロールのための薬剤・栄養面の学習会も行い、チーム目標、病棟目標達成に向けて実施した。コロナ禍ではあるが、工夫しながら個々のスキルアップも図っていかれるような職場風土としていきたい。

来年度は診療報酬改定の年であり機能評価受審の年でもある。地域包括ケア病棟にとって厳しい 診療報酬改定であり、在宅からの緊急受け入れの検討、看護必要度を考慮した患者の受け入れ、在 宅介護しいている家族の負担軽減になるような役割をもちながら病棟運営を行い、また、倫理カン ファレンスを定期的に行い看護の質が高められるよう取り組んでいきたい。

★ 学会・研究発表

1. 三田美和:

地域包括ケア病棟から自宅退院する患者と家族への看護介入 国保学会発表

2. 市川慶子:

地域基幹病院の看護師が体験した倫理的課題の特徴 倫理学会発表

外来

★ 概要

【診療科】13 科(歯科口腔外科を除く) 患者数 前年比1月1日~12月31日 (R3/R2) 【月平均外来患者数】(○は一元化外来)

内科 (2052/2261) 循環器内科 (121/77) 小児科 (956/903) 外科 (1208/1170) 耳鼻科 (767/811) 泌尿器科 (952/895) 形成外科 (145/138) 皮膚科 (260/274) 心療内科 (200/206) 脳外科 (189/36) R2 年8月から再開 ○整形外科 (2355/2233) ○眼科 (1446/1466) ○糖尿病科 (1276/1246) ○産婦人科 (1654/1737) ○歯科 (1144/) 【救急外来・内視鏡・カテーテル室】

1日平均外来患者数 (810/852) 月平均休日小児急病センター (76/100)

1 日平均救急外来患者数 (44/28) 月平均救急車台数 (140/130)

救急車総台数 (1678/1550) CPA 総件数 (24/14) トリアージは全救急患者に実施 内視鏡総件数 (6846 /1012) 血管造影件総数 (221 (脳 30・循 185・外 6)) /67) 接触者外来・救急処置室接触者受診総数 (2713/723) 2020 年 4 月から開始

★ スタッフ

【看護職員数】

総数 45名 正職看護師 20名 臨時職員・パート 25名 看護補助者 3名 外来助手 1名

【勤務体制】

変則 2 交代制 日勤 8:30~17:15 平日 2 名+応接体制、土曜日 3~4 名. 日曜日 4~5 名 (内 1 名休日小児急病センター担当)

夜勤2名 16:15~9:15 、10:15~19:00 1名

土曜日・日祭日遅番 1名17:00~21:00

往診(14件/月)担当看護師3名

外来目標

- 1. 病院に寄せられたご意見の内容をもとに接遇向上に向けた取り組みを検討し実践する
 - 1)病院に寄せられる様々なご意見の内容から評価する。
 - 2) 接遇向上に向けた取り組みを検討し、各フロアー最低1つは実践する。
 - 3) 4 ステップス事例検討シートを利用した倫理カンファレンスを、各部署年間 1 症例以上
- 2. 年次有給休暇5日/年以上の取得の継続を図るとともに、勤怠システムの活用により超過 勤務の内容を分析し業務改善することで、削減を行い、病院経営に参画する
 - 1) 年次有給休暇5日/年以上の取得の継続を図るとともに、勤怠システムの活用により超過勤務の内容を分析し削減を図る
- 3. 応援機能を発揮し、コミュニケーションを意識的にとることにより、活気ある職場づく りを行う
 - 1) 自ら考え、行動できる人材となる取り組みを積極的に行う。
 - 2) 院内・外での教育のあり方を考え、実践方法を工夫していく。
 - 3) コミュニケーションを意識的にとることにより、各職員間・職場間の関係性の向上を図る。

★ 今年度の取り組みと成果

2021年度・外来の活動と成果報告

外来師長 矢野 知子

I. はじめに

部署目標に掲げた 3 つの中で、『応援機能を発揮し、コミュニケーションを意識的にとることにより、活気ある職場づくりを行う』について、今年度重点的に取り組んだ活動と成果について報告する。

Ⅱ.活動内容と成果

2021 年度から、救急部として外来体制が変わり、師長 2 人となり、どんな体制で外来運用していけばいいのか手探り状態で始まった。現実問題として、完全に部署を分けて活動することは出来ず、救急部と一般外来で流動的に協力して行われている。そのうえ、2 年に渡る新型コロナウイルス感染症についての対応、『外来でのコロナ問診・発熱外来対応・新型コロナウイルスワクチン接種・入院前の PCR・保健所依頼の検査実施、陽性者の振り分け診療・佐久医師会の PCR センターへの出向』と数々の業務量の増加、長期化し出口が見えないだけに、スタッフの疲労感は増しモチベーション維持も難しい。限られたスタッフで、通常の外来業務とコロナ業務を行わなければならない。行う為には応援体制が必須であり、科を超えて隔たりをなくして外来全体で、自分の事として意識して

活動報告

協力して行っていく必要があった。応援機能については、各科ごとになってしまう傾向がみられ、 外来で以前から課題とされ固定チーム活動でも行うことになった。フロアーカンファレンスや面談 を行い、必要性を伝えながら始めた。最初は、慣れないところへの業務については抵抗があり、疲 弊的な意見も多く聞かれ、心無い言葉を聞かされた事も事実でした。私の外来スタッフへの印象は、 責任感が強く、受け持った仕事は完璧にこなす・前向きな姿勢・各部署内生じたことや困難事例に ついての報告もしっかりしている。患者さんへの気遣い・配慮に、半端ない精神で対応している事 をすごく感じていた。だからこそ、新しい事の取り組みには、抵抗も強いのも当然だと思う。 そこで、リーダーを中心に、スタッフへ意識調査アンケートを行い、不安に思っている事やどうし たら実行できるか聞き取りを行った。抵抗を感じてしまう背景には、知識や経験がない、各科の業 務が見えてこない、物品の場所が分からない。などの意見がありました。透明性やその外来をよく 知るために、計画的に各科への訪問を行い、具体的に必要性が感じられたり、各科の大変さを知っ た事により明確化されてきている。そして、実際に業務が行えるようにマニュアル作成も行った。 その後、再度アンケート実施を行い、スタッフの、前向きな声が聞かれ意識変化がみられてきた。 そして、円滑に他部署への応援に行かれるようになってきている。外来全体を意識して、互いを思 いやれるスタッフが増えている事を認識している。固定チーム活動と同時にリンクして行えたとこ ろでも、成果が大きかったと考える。

Ⅲ. おわりに

今後も、新型コロナウイルスに対する感染対策を行う上での対応を継続していく必要性と救急外来の新体制により、今年度の取り組みの応援機能が重要になる。限られた中で対応していく為にも、スタッフ配置や補強が円滑に行えるように活動していく。常に現状を具体的に、そして活動を行う必要性を明確に伝え、部署全体のスタッフ意識を高め活気ある職場づくりを目指します。どんなに忙しくても、患者さんへの対応は、思いやりをもって、優しく丁寧に寄り添い対応していくように、毎日スタッフへ声掛けしていきます。

透析室

★ 概要

透析導入から維持透析の患者さんの治療をしています。

糖尿病から透析に至るケースが多くなってきており、糖尿病の治療は専門医と連携して行っています。受け持ち看護師が患者さん・ご家族の思いに寄り添い看護の提供、支援を行っています。

★ スタッフ

嘱託医5名 看護師9名 臨床工学技士8名 業務職員1名

★ 診療体制

- 透析監視装置 20 台
- · 患者数 56 名
- ・透析入室時間~帰室時間午前 8時15分~13時 ・ 午後 14時~18時30分
- 透析日

	月	火	水	木	金	土	日
午前	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	\circ	休み
午後	0	0	0	0	0	\circ	休み

★ 今年度の取り組みと成果

≪部署目標≫

- 1知識・技術の向上を図り、患者が安全・安心した透析治療が受けられるように援助する
- 1) 臨床工学技士と連携をとり、急変時のシミュレーションを行いスムーズな対応 ができる
- 2透析独自の加算を看護ケアにつなげ病院経営に参画する
- 1) 足観察・フットケアを行い糖尿病合併症管理料につなげる。又異常の早期発見に努める

目標

- 1. 昨年度ダイアライザーが合わないことによるアナフィラキシーショックがあったため、月 1 回 アナフィラキシーショックの患者を想定し人形を使ってシミュレーションを実践した。 シミュレーションごとに振り返りを行い、透析室独自のアナフィラキシーショック時のフローチャートを作成し後半はそれを基にシミュレーションを実践した。アンケートの結果何回も回数を重ねていくことで各々の自信につながった。透析治療中はいつ急変が起こるかわからない状況なので今後も繰り返し実践していく。
- 2. 年間で末梢動脈疾患指導加算 (PAD) 65.000 点 糖尿病合併症管理加算 14.110 点 78 歳女性の左足指に 1 cm×1 cm程度の壊死を発見し循環器内科紹介となり 1 泊 2 日のカテーテル 治療となった。その後 24 回、透析治療後 2 時間レオカーナ治療(血液浄化療法)を行った。その 結果壊死していた部分は治癒となり早期発見・治療により感知することが出来た。 次年度も引き続き早期発見に努めていく。

★ 学会·研究発表

1. 菊地裕美子:

新型コロナウィルス感染症 (COVIDI9) の院内クラスターを経験して 第 69 回長野県透析研究会学術集会 2021.9.12

東2階病棟

★ 概要

医療療養型病棟であった東2階病棟は2018年3月1日に廃止となっていた。

2020年4月9日 院内の COVID - 19 対策チームが発足し、廃棄待ちの器材庫となっていた東2 階病棟は院長の方針により感染病棟に変化し、得体のわからない感染症7床を対応する病棟となった。スタッフは一般病棟から手上げした6名の看護師から始まった。

《COVID - 19 診療の手引き》を参考に「PPE の着脱訓練」「「患者対応マニュアルの作成」「患者対応のシミュレーション」「ゾーニング」・・・等々学びながら実働に入った。「自分がコロナにならないか・・・??」「コロナってどんなウイルス・・?」「一緒に住んでいる家族は大丈夫・・?」「ナース服の洗濯はどうしたらいいの・・?」「靴からは感染しないの・・・?」等々発足当初のスタッフの想いは不安しかなかった。

意思統一を図るため

- ① 病棟目標の立案
- ② 軌道にのるまでは病棟会議を1回/月開催
- ③ 業務や一般スタッフとの関わりの中での不安に対するフォロー

★ スタッフ

《新規対応スタッフの教育を行いスタッフ数が増加した》

2020年4月9日

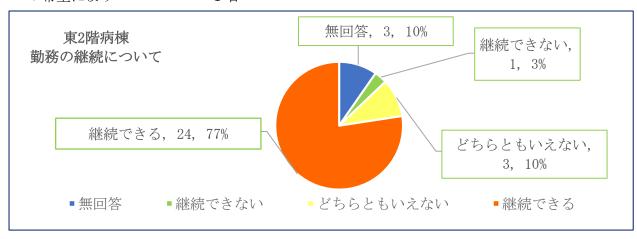
~2021年3月31日 スタッフ人数 23名

2021年4月1日

~2022年3月31日 スタッフ人数 37名

《勤務から外れたスタッフの理由》

*退職 1名 *出産のため 2名 *希望により 1名



★ 今年度の取り組みと成果

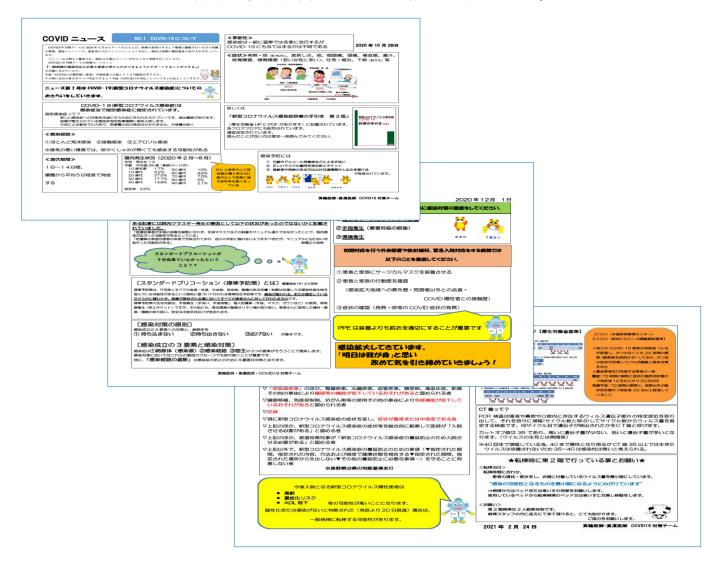
≪病棟目標≫

- 1 感染対策を徹底し COVID19 陽性患者の入院中の管理・看護などに対応することができる
 - 1) 病棟看護手順の作成と適宜改定
 - 2) 東2階所属スタッフの看護手順の手技の統一
 - 3) 新規対応スタッフの教育
- 2 一般病棟が感染対応の必要な患者の受け入れができるようにサポートすることができる
 - 1) 各病棟所属スタッフが中心となり感染対策を実施
 - 2) 所属部署の感染対策のサポートの相談窓口の役割を発揮する
- 3 院内全スタッフに向けた東2階病棟独自の広報活動を行い感染対策に対する意識向上に努め る
 - 1) コロナツアーの適宜開催の企画運営
 - 2) コロナニュースの適宜発信を行う

■ 受け入れた患者情況

■ 支け入れた思有情况				
	患者数	重症度分類		転帰
		軽症	2名	٦
		中等症 I	4名	- 退院(死亡退院 2名)
2020年4月9日	05 夕	中等症Ⅱ	18名	
~2021年3月31日	25名			
		中等症Ⅱ		
		⇒重症	1名	入院2日目、佐久医療センターへ転院
		軽症	13 名]
		中等症 I	20 名	退院 (死亡退院 2名)
9001年4日1日		中等症Ⅱ	41 名	・ベッド調整のための転院 4名
2021年4月1日	75 名			(入院を受け入れる為)
~2022年3月31日				・宿泊施設へ9名
		中等症Ⅱ		
		⇒重症	1名	入院3日目、佐久医療センターへ転院

- 1. 患者受け入れ前には、患者対応シミュレーション, PPE 着脱訓練を行いました。
- 2. COVID-19 患者対応マニュアル、看護手順を作成し随時修正しながら完成させていきました。
- 3. クリニカルパスの作成を行い、統一したケアができるようにしました、
- 4. 新メンバー加入の事前にオリエンテーション、患者対応シミュレーション, PPE の着脱訓練を行い不安の軽減、自信をもってケアができるように皆でサポートしました。。
- 5. 患者が東2階病棟に入院していない時に、『コロナツアー』と称し病棟スタッフへ感染対策の実際、ゾーニングについて、PPEの着脱の練習を行い、患者対応を学んでもらいました。4回行い37名の参加でした。
- 6. コロナニュースを 3 部発行し、感染対策についての広報活動も行いました。



★ 学会・研究発表

1. 西 3 階病棟 看護師 花里夏輝:

感染病棟立ち上げにおける学びと振り返り

第32回信州呼吸ケア研究会 [2021. 10. 2] WEB

事務部の理念

良質な医療の実践を目指すなかで、 院内各部署との連携を強化し、人・ 施設・設備・資材の合理的な配慮を 推進します。加えて、常に関連情報 の収集や分析により組織を支え、チ ーム医療の推進に貢献します。 また、基盤となる健全な病院運営を 図るため、収益の確保・経費の削減 に努め、常に費用対効果を自覚し追 及していきます。

総務課

★ 概要

総務課には、総務係・施設係・経理係・用度係があり、それぞれに係長を置き、各係において以下の業務を業務分掌に従い行ってきました。

- ・収支計画の立案・決算に関する事項
- ・諸会議に関する事項
- ・公文書等の管理に関する事項
- ・経理に関する事項
- ・資産管理に関する事項
- ・公用車及び職員の車両に関する事項
- ・監査等に関する事項
- ・庶務全般に関する事項 等

★ スタッフ

- ・総務課長
- 総務係 5名
- · 経 理 係 2名
- ・施 設 係 4名(臨時職員1名含む)
- ・用度係 4名(臨時職員2名含む)
- 臨時職員 2名

★ 今年度の取り組み

6月28日 南棟2階健康管理科オープン

6月28日 心管造影室建設工事着手

【病院機能評価】

7月28日 病院運営会議にて病院機能評価受審決定

9月15日 病院機能評価委員会発足

9月28日 第1回委員会開催

10月26日 第2回委員会開催

11月30日 第3回委員会開催

12月14日 病院機能評価だより Vol.01 発行

第4回委員会開催 1月25日

病院機能評価だより Vol.02 発行 1月31日

2月22日 第5回委員会開催

3月22日 第6回委員会開催

病院機能評価だより Vol.03 発行 3月22日

【研修等】

10月20日 医療ガス研修

10月29日 防災訓練

11 月 19 日 防災訓練

7月8日~7月21日安全衛生委員会 テーマ「地方公共団体におけるパワーハラスメント対策」



職員の皆様に病院機能評価に関する情報(概要やスケジュールなど)を発信していきます!

ポイント

PK-1

簡潔にま

るかと思

その根拠

明するな

ポイント

課題事項

明記を

ポイント

例えば、

て処理し

アピール

これまでの取り組み(進捗状況)

- ・前回(2017年)も、機能評価に向けて委員会を1年前から立ち上げ、当該事業を進 めてきました。
- ・今回も7月の運営会議で方針が決定してから委員会(委員会名簿は裏面のとおり)を 組織し、協議をスタートしてきました。
- ·第1回委員会 2021.9.28



浅間総合病院基本理念 のさらなる向上を目指し

ので、当院全職員が一丸 して、はじめの一歩を踏み

2021年12日1日

佐久市立国保浅間総合病院 0 病院機能評価《3rdG:Ver. 2.0》委員会 2022. 1.31 発行

職員の皆様に病院機能評価に関する情報(概要やスケジュールなど)を発信していきます!

これまでの取り組み(進捗状況)

自己評価調査票(受審準備用)の作成

4つの評価対象領域、全89項目ごとに、主担当(部署)や関連する副担当で、現段階における 評価ランク(「S」「A」「B」「C」の4段階)、アピールしたい点(250字以内)、課題と感じ ている点(250字以内)をまとめていただきました。

1月25日の第4回委員会においては、現時点でまとめあがった調査票を確認し、不十分な点や 修正点などの意見を出し合いました。

※2021年7月28日病院 準備が整い、本格的な作業な

Qそもそも病院核

A 医療の質改善

病院の機能を第三者「則 より評価(ランク付け) (総合入院体制加算1:2 ・直近では2017年11

Q 受審時期は?

年にあたります。

A 最終ゴールは

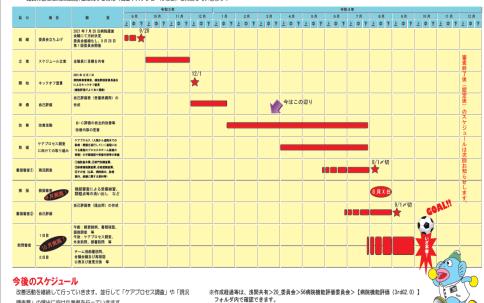
本番前(3か月前頃)



全職員の皆様の協力が必要です。 よりよい病院づくりをめざし、 共に頑張りましょう!

今回は、全体の流れ(スケジュール)を詳しく掲載します。

現在までの進捗状況の確認や、今後の動きなどの目安としてご利用ください。 それぞれの項目(〆切等)に向けた準備を早め早めに進めてまいりましょう! ※模擬審査、本番審査の日程は未確定です。決まり次第お知らせします。



調査票」の提出に向けた準備を行っていきます。

なお、4月は人事異動等により委員会組織の一部に変更が生じる場合があります。 各部署において、必要により委員メンバーの入れ替えをお願いします。

発行元:病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)委員会事務局 (事務部総務課 内線2424)

医事政策課

★ 概要

医事政策課には、医事係・診療録管理係・情報管理係があり、それぞれに係長を置き、各係において以下の業務を業務分掌に従い行ってきました。

- ・医療費に関すること。
- ・診療費返戻・査定に関すること。
- ・診療報酬改定に関すること。
- ・施設基準に関すること。
- ・DPC コーディングに関すること。
- ・診療情報の管理・分析に関すること。
- ・医療情報システムに関すること。
- ・医療情報の分析に関すること。
- ・病院経営の企画立案に関すること。
- ・その他医療情報の管理に関すること。

★ スタッフ

• 医事政策課長

•医 事 係 正職 6名 会計年度任用職員 7名 派遣職員 1名 医事業務委託職員約

45名

· 診療録管理係 正職 4 名 会計年度任用職員 2 名

·情報管理係 正職3名 会計年度任用職員6名 派遣職員2名

★ 今年度の取り組みと成果

- ・オンライン資格確認システム導入
- ・電子マネー決済導入
- ・病院臨床指標の作成
- ・ 医療機関別係数の分析
- ・胎児集中監視システムの導入
- ・(新) 血管造影室へのシステム導入
- 介護医療院設立準備
- ・BDHQ(簡易型自記式食事歴法質問票)健康診断立ち上げ準備
- ・病院 WEB 作成・編集業務

【院内研修開催】

- ・診療報酬改定フォローアップ研修
- サイバーセキュリティ対策セミナー

地域医療部の理念

地域住民に良質な医療・保険・

福祉・介護を提供します。

地域医療室

★ 概要

地域医療室は、①地域と病院を結ぶ開かれた窓口として、医療・健康に関する外部の要望を受け 入れるとともに情報の発信源となる。②住民の健康を守るため保健健診事業に力を入れる。を主 な理念としている。

健康管理係の業務は、住民の健康管理の啓発及び推進に関することであり、主に各種健康診断や 人間ドック、予防接種等を行っている。

医療相談係の業務は、医療相談に関することで、主に入退院時の支援や調整、医療・保健・福祉・ 介護の連携を図り、在宅医療を支援している。

医療連携係は地域医療の連携に関することで、各病院や医院との連携を図り、患者の紹介並びに 逆紹介等を行っている。

★ スタッフ

健康管理係:看護師8名・助産師1名・保健師2名・管理栄養士1名・歯科衛生士1名・事務5名

臨床検査技師1名

医療相談係:看護師5名(うち入院支援2名)・社会福祉士5名

医療連携係:看護師1名·事務3名

★ 今年度の取り組みと成果

健康管理係では、通常の業務に加え、新型コロナワクチン接種業務について、医師・看護師・その他職員間の調整をし、病院において通年実施をした。

医療相談係では、入院支援担当を配置し、患者及びその家族に対する、よりきめ細かな支援体制 を構築することができた。

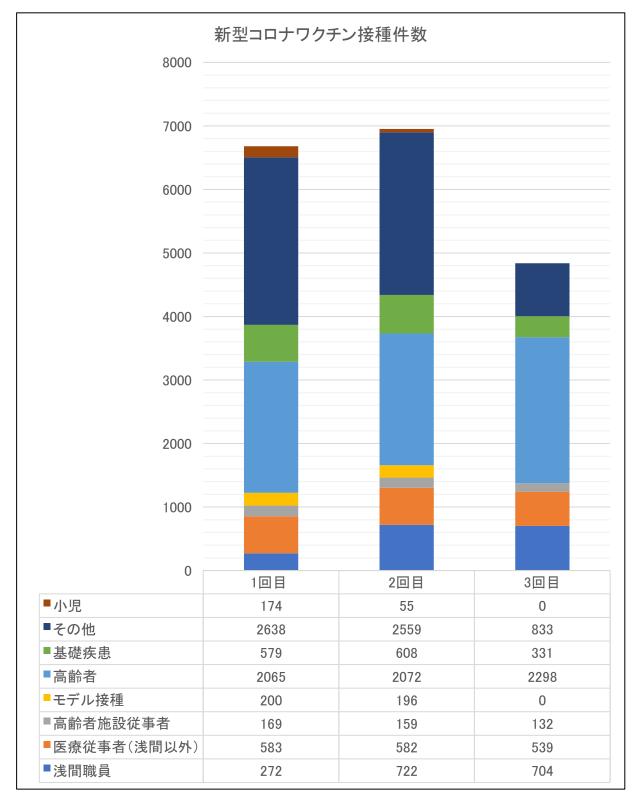
医療連携係では、コロナ禍においても地域の医療機関と連携し、前年度を上回る件数の紹介・逆紹介を行い、患者が安心して治療ができるよう業務を実施した。

★ 学会·研究発表

入院支援の看護師が、「がん性疼痛看護認定看護師」でもあるため、研究発表の詳細については看 護部にて掲載。

【ワクチン接種の実績】

新型コロナワクチン接種を、のべ18472件実施した。詳細は以下のとおり。 (浅間職員1回目は、前年度3月に455件実施済み)



在宅支援室

★ 概要

高齢者、病気や障害のある方が、在宅で安心してその人らしい生活が送れるよう支援しています。 居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、野沢地域包括支援センター(野沢・大沢・岸野・ 桜井・前山地区)を設置しています。

★ スタッフ

室長:加藤 一枝

★ 目標

在宅支援室の方針

- 1. 療養や介護が必要な状態になった場合においても、利用者が可能な限り住み慣れた地域において、その能力に応じ自立した日常生活が営むことができるように、看護や介護についての相談や制度の利用、また、関係機関と連携をとり、人生の最後まで自分らしい生活を送れるように支援していきます。
- 2. 専門職として資質の向上に努め、職業倫理をもって業務を遂行し、利用者に満足して頂けるように支援していきます。
- 3. 健康の維持・増進及び介護予防のために積極的に地域に出向き、地域住民を支援していきます。

【居宅介護支援事業所】

★ 概要

介護支援専門員(ケアマネジャー)が要介護者(介護度 $1\sim5$ の認定を受けた方)の心身の 状況を見ながら、自宅において日常生活を営むために必要な介護保険のサービスを紹介し、要介 護者やご家族の意向に応じた居宅サービス計画(ケアプラン)を作成する。

★ スタッフ

所長:田村はるみ(主任介護支援専門員)

主任介護支援専門員:高橋明美・箕輪英俊・赤羽根あや子・鷹野明美・市村幸子・磯貝昌子

★ 目標(2021年度の目標)

- 1. 利用者の尊厳を保持し、利用者本位の立場から支援する。
- 2. 専門的知識・技術の向上に努め、質の高いケアマネジメントを提供する。 ※地域からより信頼される事業所になるべき努力をする。

★ 今年度の取り組みと成果

〈令和元年度~3年度の実績〉

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減
ケアプラン作成件数	2,137 件	2,144 件	2,443 件	299
職員数(4月1日)	7.0 人	7.0 人	7.0 人	±0
1 人月平均	25.4 人	25.5 人	29.0 人	3.5

<研修>

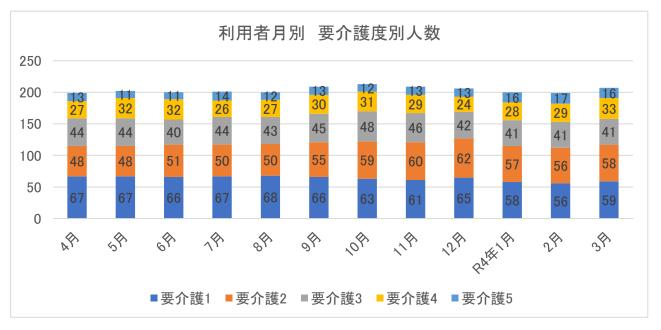
- ・他法人との研修会
 - 6月1日 佐久市と4事業所 『訪問介護サービス(生活援助)利用について』
 - 11月1日 4事業所 『福祉用具の利用について』
- · 岩村田 · 東地域包括連絡会研修会
 - 4月28日『社会資源と生活支援コーディネーターについて』
 - 5月26日 事例検討会 6月30日『特殊詐欺予防啓発講和』 7月29日 事例検討会
 - 10月28日 事例検討会 11月25日『認知症講和』 12月23日 事例検討会
- · 佐久平浅間地域包括連絡会研修会
 - 4月20日『社会資源と生活支援コーディネーターについて』
 - 5月18日『特殊詐欺予防啓発講和』 6月15日『地域資源について』
 - 7月13日『脳トレと昔ばなし「かたり」について』

10月26日『人生 終着駅に着く前に』 11月16日『認知症推進員の業務』について 12月21日『成年後見制度』について

- 佐久市居宅介護支援事業所連絡協議会研修会
 - 7月12日『生活援助について』
 - 11月15日 介護給付適正化講演会『ケアプランを見つめ直すⅡ』
- 事業所內事例検討会 9回
 - 4月14日·5月12日·5月26日·6月30日·7月28日·8月11日·9月8日·10月20日 10月27日
- ·主任介護支援専門員更新研修会 1名 ·主任介護支援専門員研修会 1名

<利用者満足度調査>

利用者様へ配布 (183件)、回収 (162件)、回収率 89%、令和4年度に結果報告



<令和3年度 プラン作成件数及び加算算定状況>

	4 月	5月	6 月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	R4年1月	2 月	3 月
要支援プラン件数	6	6	6	7	8	8	6	6	7	7	7	7
要介護プラン件数	199	202	200	201	200	209	213	209	206	200	199	207
要介護 3~5 人数	84	87	83	84	82	88	91	88	79	85	87	90
要介護 3~5(%)	42.2	43	41.5	41.8	41	42.1	42.7	42.1	38.3	42.5	43.7	43.5
特定事業所加算算定	П	П	П	Ι	I	I	I	I	П	П	П	П
初回加算件数	9	8	5	6	9	6	5	9	3	7	6	1
入院時連携件数	11	9	9	7	8	5	12	11	10	8	6	13
退院時連携件数	12	13	5	7	1	7	7	9	6	6	7	11
通院時連携件数	1	1	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0
ターミナルケア連携	1	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1
看取り期相談調整	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

上記表の主な加算の説明

- ・特定事業所加算 II の算定要件:常勤の主任介護支援専門員の配置1名以上、常勤の介護支援専門員の配置3名以上、利用者に関する情報又はサービス提供に係る伝達等の会議を定期的に開催、24時間連絡体制の確保、計画的な研修、困難事例への居宅介護支援、地域包括支援センター等が実施する事例検討会への参加、運営基準減算又は特定事業所集中減算の適用を受けていない、利用者数が介護支援専門員1人当たり40人未満、介護支援専門員実務研修実習への協力体制の確保、他法人と共同で事例検討会や研修会の実施、必要に応じてインフォーマルサービスが提供される居宅サービス計画書作成
- ・特定事業所加算 I の算定要件:上記 II の算定要件に加えて、全利用者のうち要介護 3~5 の方が占める割合が 100 分の 40 以上である
- ・初回加算:新規に居宅サービス計画書を作成
- ・入院時情報連携加算:利用者が入院するにあたって、入院先の職員へ必要な情報を提供
- ・退院退所加算:職員と面談し情報提供を受け、居宅サービス計画書を作成しサービス利用に関する調整を行う

【訪問看護ステーションあさま】

★ 概要

医療保険や介護保険を利用して、看護師、理学療法士が利用者の居宅を訪問して、病気や負傷のために支援を必要とする方の看護・リハビリテーションを行う。

安心して在宅療養が続けられるように、主治医の治療方針や居宅サービス計画に基づきほかのサービス事業所と連携を図り、ひとりひとりの状況に合わせてサポートする。入院中から自宅での生活を見据えて介護方法や環境について相談に応じる。

★ スタッフ

所長 · 石井 万貴 (看護師)

- ・荻原 早苗(看護師) ・森井泉 小百合(看護師) ・岩下 きよみ(看護師)
- ・竹花 多喜子 (看護師) ・南雲 千夏 (看護師) ・勝又 泰貴 (理学療法士)
- ・小平 陽子 (事務)

★ 目標(2021年度の目標)

- 1. 市民病院併設の訪問看護ステーションとして幅広く、終末期・難病等医療依存度が高い利用者様・介護者様にも安心して在宅で過ごせるよう、24 時間の看護システムで訪問看護の提供を行います。
- 2. 日々の報告・連絡・相談やサービス担当者会議等を通して、地域や主治医等との連携を円滑に行い、入院中も病院と連携し早期から退院支援を行います。
- 3. より良いサービスを提供するために、自己研鑽に努め月 1 回事業所内研修会で知識・技術を共有し、常に心のこもった接遇を心掛け「利用者満足度調査」を実施します。

★ 今年度の取り組みと成果

・営業時間:平日8時30分から17時15分、夜間、休日、祝祭日は拘束当番にて対応

・実績

				1			
	2019	年度	2020	年度	2021 年度		
	介護保険	医療保険	介護保険	医療保険	介護保険	医療保険	
年間延べ利用者数	593	218	679	175	798	204	
(月平均)	49. 4	18. 2	56. 6	14. 6	66. 5	17. 0	
年間延べ訪問件数	3342	1651	3624	1189	3834	1071	
(月平均)	278.5	137.6	302.0	99. 1	319.5	89. 3	
PT 訪問件数	970	209	1082	213	1192	248	
緊急訪問件数	21	14	20)3	1'	72	
新規利用者数	33	17	47	11	37	15	
終了者数	29	16	27	12	34	16	
退院時共同指導加算算定件数	23		48		37		
ターミナルケア加算算定件数	9		6		18		
			(算定な)	し+2件)			

・訪問看護指示書:浅間総合病院内の25名の医師、院外の25名の医師より交付

·介護認定状況(2021年3月介護保険利用者 67名)

介護度	要支援1	要支援 2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護 5
人数	1	7	15	12	7	13	12

- ・ケアマネージャー:浅間総合病院居宅7名、その他居宅・包括支援センター42名と連携
- 定期巡回随時対応型訪問介護看護: 4名利用(1事業所)
- 特別管理加算:介護保険40.4%、医療保険52.5%の利用者で算定
- ・緊急時加算:介護保険97%、医療保険100%の利用者で算定
- ・新規利用者の療養場所: 2021 年度 自宅及び子供の家 44 名、有料老人ホーム 10 名2020 年度 自宅及び子供の家 46 名、有料老人ホーム 7 名
- ・終了者の内訳:2021年度 永眠20名、施設入所・入院6名、軽快3名、その他4名2020年度 永眠22名、施設入所・入院15名、軽快0名、その他0名
- ・在宅看取り:自宅及び子供の家での看取りの主な介護者は、娘9名 妻3名 嫁・夫・息子2 名ずつだった。R3 年度は前年度比3 倍の増加あり、コロナ禍で医療機関の面会制限による影響が見られた。

・活動内容

- ①マニュアルの整備:拘束当番マニュアル、BCP(感染症、災害)
- ②会議及び委員会:事業所定例会議 月1回、在宅支援室会議 (毎週水曜日9時)、地域医療部会 (第2水曜日15時)、褥瘡委員会 (第2木曜日16時)(荻原)、訪問看護ステーション連絡協議会東信ブロック管理者会議・従事者研修、岩村田・東包括支援会議 (第2水曜日13時)
- ③研修会参加:訪問看護 e ラーニング、実習終了(森井泉)、事業所内研修月1回
- ④地域連携・ICT:タブレット6台利用開始、ICT研修会12月、Net4u(9名登録)
- ⑤研修受け入れ:佐久大学(森井泉) 2クール受け入れ
- ⑥ J I C A (石井): オンライン研修、広報撮影、糖尿病研修資料作成(DM センターと協同)
- ⑦満足度調査:調査期間:令和3年9月13日から令和3年11月30日 利用者82名中、利用者本 人か介護者が回答できる利用者62名へ配布、57名より回収。(アンケート回収率91.9%)
- ・当事業所は、医療的なケア、ターミナルケア、体調変化時の医療との連携等を目的に利用される利用者が多い。各医療機関や利用者・介護者双方からの期待に応えられるよう、ケアネージャー等多職種との連携も密にとり、利用者・介護者が安心して在宅療養できるように活動していきたい。





【地域包括支援センター(野沢地域包括支援センター)】

★ 概要

高齢者が住み慣れた地域で生活していく上で必要な介護・保健・医療・福祉などに関する様々な総合相談窓口として佐久市から委託された機関である。

幅広い相談に応じることができるように保健師または看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員の3職種それぞれの専門性を活かしながら、総合相談業務・権利擁護業務・包括的継続的ケアマネジメント業務介護予防給付のプラン作成・介護予防ケアマネジメント業務を行っている。

日常生活体制整備事業も受託しており、生活支援コーディネーターを配置し、高齢者の生活支援・介護予防支援の体制整備を推進し地域におけるネットワークづくりの構築を図っている。

対象地域:大沢、野沢、桜井、岸野、前山 人口 17, 251 人 65 歳以上人口 5, 566 人 高齢化率 32, 3%

★ スタッフ

所長・仁科 隆子(主任介護支援専門員)

- · 曾我 栄子 (保健師) · 十屋 雅子 (看護師)
- ・池田 貴哉(主任介護支援専門員、生活支援コーディネーター)・柳澤 和貴(社会福祉士)

★ 目標(2021年度の目標)

- ・高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止、地域共生社会の実現を図るとともに、介護保険制度の持続可能性を確保することに配慮し、サービスを必要とする方に必要なサービスを提供する。
- ・「豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり」を中心として、「生涯にわたる健康づくりの推進」・「地域で支えあう社会福祉の充実」の実現に向け総合的に支援する。

★ 今年度の取り組みと成果

【取組】

- ・地域住民や高齢者の方に野沢地域包括支援センターを周知し活用して頂くための啓発活動を 地域に出て行い、保険・医療・福祉関係機関等との連携体制を構築。
- ・認知症の普及啓発に取り組むために、地区サロン等に参加した際に認知症講座開催の紹介を 行う。
- ・地域包括ケアシステム実現のために、地域ケア会議を開催し、個別事例を通して職種協働に よるケアマネジメントを行い、地域課題の抽出や地域づくりを推進する。

【成果】

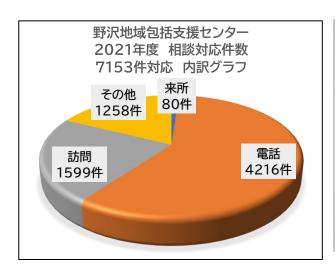
住民が利用する医療機関・金融機関・店舗に包括支援センターのポスター掲示を依頼。ケース対応を通して各機関との連携を取った。

コロナ禍、感染警戒レベルが下がった時期に開催された7地区の地区サロンに参加した。 家族介護者交流会は5月と11月に2回開催、他に出前講座や関係機関への講義を行った。 認知症高齢者等情報提供票共有事業の連絡網作成や、独居の方の生活支援など地域ケア個別会 議を13回開催した。

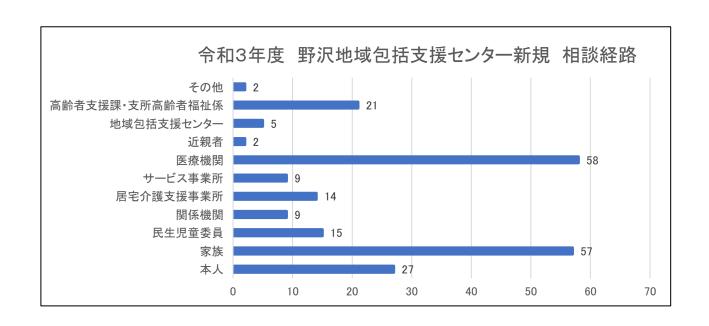
高齢者の支援が途切れることがないように居宅介護支援事業所など関係機関との連携を密に 行っている。

「まちの縁側講座」を長野県長寿社会開発センターと共同で開催し、その後継続的に関係者で振り返りの会を開催し、集いの場を開催する予定になっていたが、コロナ感染拡大で中止となった。

「多世代」をキーワードに小学生ボランティアの集いにも参画した。







介護予防支援年間実績

		介護	養予防ケアマ	マネジメント作	井数
	プラン数				
		新規	継続	委託(再	[掲)
		491796	ሳተደሳይር	新規	継続
介護予防サービス計画(介護予防給 付)	要支援1・2	47	1259	16	489
介護予防ケアマネジメント	介護予防ケアマネジメント(総合事業)			5	93
	住民主体サービス (再掲)	4			
サービス担当者会議	予防給 付	123	総合事業	45	

医療安全管理室の 理念

病院の理念である「患者さん中心の、 患者さんのための、良質な医療の 実践」を基に、「人は誰でも間違える」 を前提とし医療従事者への教育と、 病院全体の組織的な事故防止対策 を推し進めます。

医療安全管理室

★ 概要

2006年10月に医療安全管理室として設置されました。病院長直轄の部門として当院医療安全管理指針に基づいて安全管理体制の確立と安全な医療の提供ができるよう組織横断的な活動をしています。安心・安全な医療を提供するために、マニュアルの整備、インシデント・アクシデント事例の分析、医療安全推進委員会を通じての情報発信、各部署へのフィードバック等を行い、医療安全に対する職員の意識の向上を図り、医療安全管理の充実を図っています。

昨年度より、日本医療機能評価機構のヒヤリ・ハット報告事例収集事業に参加しています。

方針

- ◇ 患者が安心して安全な医療を受けられる体制を構築する
- ◇ 職員が医療事故の第二の被害者とならないよう、医療安全を推進する

2021 年度目標

- ◇ "静脈血栓塞栓症 (VTE)"における、スクリーニング手順・運用の評価・マニュアルを完成させる
- ◇ 年間を通し、医療安全ラウンドにて各部署での5Sの実施状況の確認と他部署への情報提供を 行い、働きやすい職場環境を作る
- ◇ 今年度より医療安全地域連携加算が、1-1連携3施設・1-2連携3施設となるため、得られた情報を当院の医療安全対策に活かす

★ スタッフ

 室長(歯科医師)
 奥山 秀樹

 専従 医療安全管理者(看護師)
 矢嶋 ちか江

 専従 医療安全管理係(MSW)
 樋沢 省吾

 専任 診療部・医療機器安全管理者(副院長)
 箕輪 隆

 専任 看護部 (看護師長)
 島田 美和子

 専任 事務部
 宇羽野 学

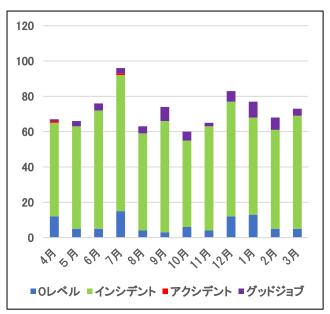
 医薬品安全管理者(薬剤科長)
 市川 輝幸

★今年度の取り組みと成果

◇ インシデント・アクシデント報告件数

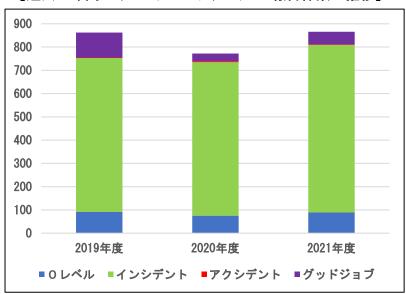
【2021 年度 報告件数 レベル 3-1 までをインシデント レベル 3-2 以上をアクシデントとする】

活動報告



- ※報告されたレポートは、事象の聞き取りを行い、 医療安全管理委員会及び医療安全推進委員会で 報告を行っています。
- ※ミス・エラーを発見し防げた、またはしそうになったが防げた、異変に早く気づけた場合は、"グッドジョブ"レポートとして報告します。
 - 薬剤師による配薬後の監査でミス・エラーを発見し 防げた事象が報告されています。
- ※レベル 3-2 のアクシデント事例は、2 件 (転倒転落 1 件 チューブ管理 1 件)あり、 チューブ管理については、各病棟にてチューブ 固定方法の勉強会を実施し、情報の共有と再発 防止策を検討しました。

【過去3年間のインシデント・アクシデント報告件数の推移】



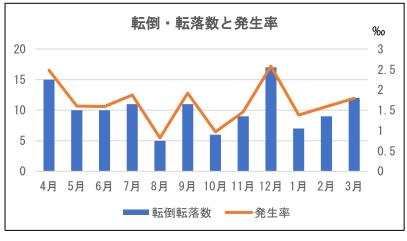
アクシデントレポート内容

2019 年度:転倒1件 2020 年度:転倒3件

合併症1件

2021 年度:チューブ管理 1 件

転倒1件



事後の対応として現場スタッフと 医療安全にて患者さんのベッド周囲 等の環境を中心に検証を行い、再発 防止策を検討しています。

◇ 全職員対象研修開催

開催月日	テーマ	受講率
9月1日~9月30日 DVD 研修	チーム医療とは何ですか?何ができるとよいですか?	100%
	事例から考える臨床倫理	1000/
11月1日~11月30日 DVD 研修	~がん末期の患者、最期の場面をどこで迎えるか~	100%

◇ 医療安全ラウンド報告

今年度は、5S「整理・整頓・清掃・清潔・躾(習慣)」活動を通して5Sを実践する風土と文化を 作り上げ、安全で働きやすい職場環境を作ることを目的に、"良いところ探し・医療安全ラウンド" を行いました。全12回(24部署)を院長・事務長・看護部長・医療安全管理室スタッフにてラウ ンドを行い、現場スタッフより工夫点等をプレゼンしてもらいました。この結果を基にラウンドメ ンバーで投票を行い、TOP3 を決定し、院長より表彰状とご褒美の記念品を贈呈しました。

たスペースでスタッフが働きや

いよう医療材料等を一手に管

を図っていること。また、

え記念品を贈り表彰します。 佐久市立国保浅間総合病院 よってここにその功績をたた 令和四年

部署の見本となる活動を行って

整理・

整頓を行うなど、

いることについて、高い評価を得

院長

各収納ケー あなたは、 戻す場所と所在確認の効率化 スに器材の写真を貼 5 S活動において、 殿



中央手術室



地域包括ケア病棟



整形外科外来

★ 学会·研究発表

〈学会発表〉

1. 医療安全管理室主任 樋沢省吾・医療安全管理専門幹 矢嶋ちか江: 当院の医療安全管理部門における医療ソーシャルワーカーの役割 第 16 回医療の質・安全学会 学術集会 (オンライン開催) 2022.11.27~11.28

★ 院外講師

講師:矢嶋ちか江

佐久大学大学院看護学研究科 プライマリーケア看護コース

感染制御室

★ 概要

感染制御室は浅間病院の院内感染対策を制御する中央部門として 2013 年 4 月に医療安全室から独立部門化されました。現在は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師と多職種で構成されたメンバーで活動しており、それぞれの職種の専門性を活かしながら感染対策チーム (Infection Control Team; ICT)の核として院内感染防止に努めています。また院内感染対策の実行部隊であるリンクスタッフ会を主導し院内感染対策の徹底を図っています。

感染防止加算1病院として地域の病院に指導的役割を果たしながら、東信地区・長野県・全国の院内感染対策会議にも積極的に参加しています。

2018 年 4 月より抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team; AST)の活動を開始し、 院内において抗菌薬が適正に使用できるよう支援を行っています。

★ スタッフ

今福 裕司 感染制御室長

須田 美穂 感染制御室専門員

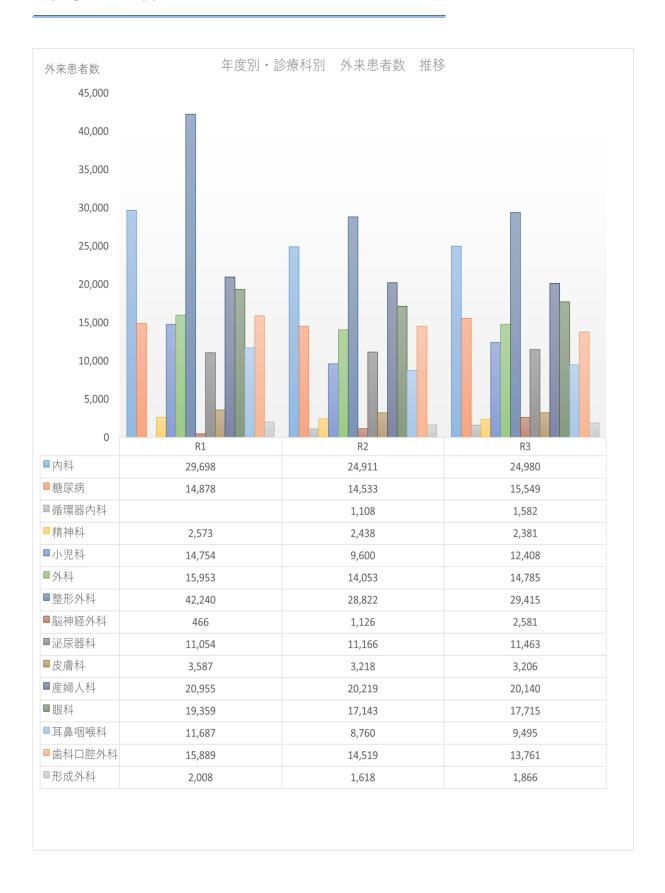
齊藤晴美看護師長岡村さと子看護師長畠山浩明薬剤師

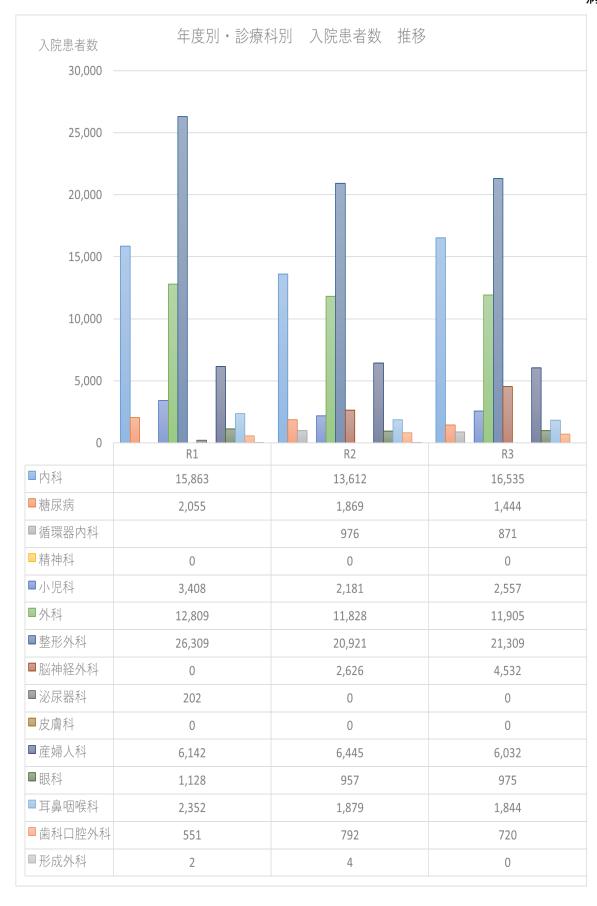
小林 訓 臨床檢查技師

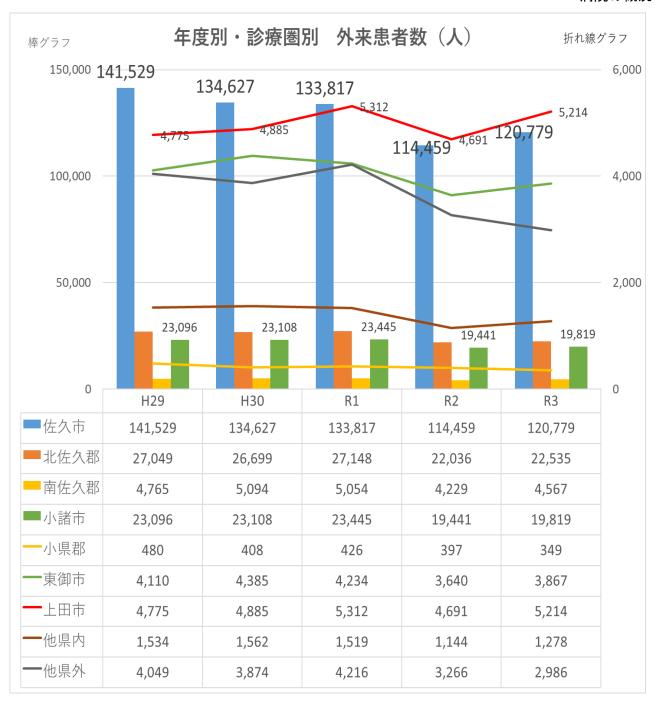
★ 今年度の取り組みと成果

全職員対象感染防止対策研修

開催日時	テーマ	講師	参加人数
用惟口时)—4		(受講率)
R3.12.1	「COVID-19 が教えてくれたこと	兵庫医科大学病院 感染制御部	470 名
∼ 12.28	~PPE や手指衛生の重要性~」	感染管理認定看護師一木薫さん	(78.2%)
R4 2 1	「スタンダードプリコーション	東京医療保健大学/大学院	460 名
~2.28	~スタッフみんなでもう一度見直そう~」	感染管理認定看護師	(75.9%)
2.20	・・ ヘテップが心はでも) 反兄直で)	吉田理香さん	(73.9%)

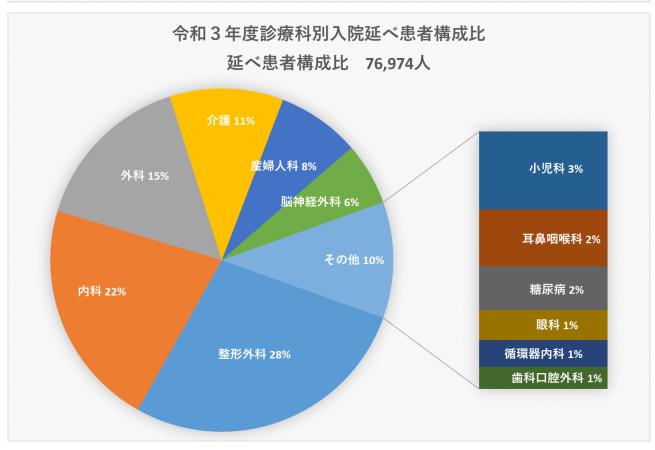












1. 沿革

昭和 32 年	2 月	北佐久郡町村議会議員大会において公立総合病院建設議案を決議される
昭和 33 年	5 月	旧浅間町外3町7ヶ村の一部事務組合 (北佐久郡国民健康保険浅間病院組合)設立許可される
	10 月	浅間病院新築工事に着手、本館(管理、診療、病室) 1棟 927.3 ㎡、給食棟その他付属施設2棟 214.5 ㎡、計 1,141.8 ㎡、34 年4月完成
昭和 34 年	4 月	院長 吉澤國雄 東京大学医学部沖中内科より就任
	6 月	開院、診療科目(内科、外科、小児科、産婦人科、眼科) 入院施設、一般病床 20 床。
	7月	入院業務開始
	12 月	整形外科専門医の派遣を得て診療開始 併設伝染病棟新築工事に着手 455.4 ㎡、収容人員 23 人、35 年4月完成。
昭和 35 年	4 月	糖尿病専門外来開設。
	6 月	長野県公的医療機関設備審議会において一般病床 45 床増床が決定、一般病床 65 床となる
	11 月	新病棟鉄筋コンクリート2階建1棟 1,158.3 ㎡の建築工事に着手、36 年4月完成
昭和 36 年	4 月	町村合併により佐久市発足、病院名称の改称認可(佐久市北佐久郡国民健康保険 浅間病院)される
***************************************	5 月	全館暖房ボイラー施設完了
	8月	耳鼻咽喉科新設
	12 月	薬局室及び給食棟増改築工事落成
昭和 37 年	4 月	開頭手術の成功 労災保険指定医療機関に指定される
	6 月	基準給食承認される
昭和 38 年	4 月	西ドイツ・ビュルツブルグ大学ボルハイム教授来院
	6 月	佐久市鳴瀬診療所の診療委託を受託
***************************************	8月	長野県下初の心臓手術に成功する
昭和 39 年	4 月	佐久市東診療所の診療委託を受託
***************************************		指導棟鉄筋コンクリート2階建 320 m ³ 建築工事に着手、40 年3月完成
昭和 40 年	3 月	会員 5 周年記念式典。沖中、木本教授以下大学より 23 名出席
	7月	一般病床 35 床増床認可により、一般病床 100 床となる
昭和 41 年	1月	総合病院として認可される 救急病院に指定
	7月	看護師宿舎鉄筋コンクリート2階建建築工事に着工、42年1月完成
	8月	神経内科、老人科、循環器科専門医師の派遣を得て診療開始
昭和 42 年	3 月	一部事務組合の解散決議
	4 月	佐久市立国保浅間総合病院発足

		病院の概况
		依田勇雄 佐久市長が開設者として就任
	5 月	佐久市平尾診療所の診療委託を受託
	10 月	歯科診療棟、鉄筋コンクリート2階建 330 m 完成
	11 月	歯科診療開始
昭和 43 年	2 月	泌尿器科設置
	4 月	公営企業法一部(会計)適用
昭和 44 年	6 月	院長 吉澤國雄 院長を辞任し顧問に就任
	7月	副院長 福内匡 院長に就任
昭和 45 年	10 月	一般病床 50 床、結核病床 25 床増床認可により、一般病床 150 床となる
昭和 46 年	3 月	全面新築工事に着手、鉄筋コンクリート 5 階建 7,357.93 ㎡、47 年 7 月完成
	10 月	研究テーマ「国保と地域医療」(吉澤顧問)に対し、厚生科学研究費下附
昭和 48 年	5 月	顧問 吉澤國雄 地域医療実践活動功労者として知事表彰を受ける
	6 月	開院 14 周年記念パネルデイスカッション「浅間病院いかにあるべきか」を開催
	10 月	講堂、図書室 502 ㎡完成
昭和 49 年	3 月	自治体病院の現況と問題点について NHK テレビ放送(当病院をモデルに取材)
	4 月	病院乳幼児保育所開設
	6 月	開院 15 周年記念行事対話集会「患者・市民の皆さんは浅間病院に何を求めるか」 開催
	7月	健康管理科設置
昭和 50 年	1月	顧問 吉澤國雄 名誉院長に就任 基準看護特2類変更承認される
	5 月	姉妹都市フランス・アヴァロン市長一行来院
昭和 51 年	9 月	第 28 回「保健文化賞」受賞
	11 月	東棟増築工事に着手、鉄筋コンクリート3階建 3,317 ㎡、昭和 52 年 7 月完成
	12 月	整形外科、常勤医長決定
昭和 52 年	4 月	神津武士 佐久市長が開設者として就任
	7月	麻酔科設置
	12 月	一般病床 100 床増床認可により一般病床 250 床となる
昭和 53 年	2 月	東病棟開院
	4 月	誕生月簡易ドック受入業務開始
	9 月	喫煙規制実施(外来者、入院患者、職員)
昭和 54 年	2 月	小児科開設(週3日)
昭和 56 年	4 月	へき地中核病院に指定
	6 月	へき地診療所(香坂東地、協西地区、蓼科地区)3診療所開設
	11月	院外処方箋開始

昭和 57 年	10 月	重度心身障害者歯科診療開始
昭和 58 年	3 月	在宅訪問看護開始
	6 月	寝たきり老人歯科巡回診療開始
	11 月	正面玄関及び医事課事務室増築工事に着手、59年2月完成
	12 月	院長 福内匡 死亡により退職
昭和 59 年	4 月	副院長 倉沢隆平 院長に就任
	6 月	南病棟増築工事に着手、鉄筋コンクリート3階建て 6,300 ㎡、60 年 3 月完成 (1階外来診察室・検査室・2階手術室・3階病棟)
昭和 60 年	5 月	南病棟開院。神経科・形成外科・脳神経外科・皮膚科・理学診療科・放射線科の6科を新設、一般病床 60 床の増床認可により一般病床 310 床となる(結核病床 25 床合わせて計 335 床)
	10 月	西棟・東棟の改築工事が完成、増改築事業の竣工式挙行
	11 月	院内総合案内所開設
	12 月	在宅酸素療法施設として承認 第一回院内学会開催(演題 18)
昭和 61 年	3 月	心疾患基幹病院として県知事より要請される
	6 月	院内食堂開設
昭和 62 年	1月	ストーマ外来開始(月1回)
	5 月	エネルギー供給設備改善工事に着手、63年2月完成
平成1年	4 月	三浦大助 佐久市長が開設者として就任
	5 月	基準看護特3類変更承認される(6病棟 262 床)
	7 月	開院 30 周年記念式典及び病院祭開催
	10 月	人工透析室新設工事に着手、2年3月完成
	11 月	老人保健施設建築工事に着手、入所 50 床、通所5床、1,712.68 ㎡、2年4月完成
平成2年	4 月	人工透析室稼働
	5 月	南棟4階に老人保健施設「みすず苑」開所
平成3年	5 月	全国自治体病院開設者協議会・同自治体病院協議会表彰
平成4年	6 月	一般病床 310 床、基準看護特3類に承認
	9 月	看護師寮改築建設工事に着手、鉄筋コンクリート2階建14室 668 ㎡、5年3月完成
平成5年	1月	南棟ピロティ部分事務室造設(223 ㎡)
	5 月	週 40 時間勤務制実施
	10 月	自動再来受付機開始
平成6年	3 月	MRI 室建設(159 m ²) MRI 稼働
	4 月	毎月第4土曜日休診開始 機構改革一臨床検査科、栄養科、医事課に係を増設
	7 月	開院 35 周年記念病院祭開催
	10 月	入院時食事療養費一部負担の導入

		病院の概況
		一般病床 310 床 新看護2:1(A)承認
平成7年	2 月	阪神淡路大震災被災地に看護職員(4名)を派遣
	5 月	自治体立優良病院として「自治大臣表彰」受賞
平成8年	4 月	夜間勤務等看護加算承認 (1)a5病棟、(1)b2病棟
平成9年	3 月	歯科口腔外科新設 理学診療科をリハビリテーション科に改称
	4 月	土曜日を完全休診日とする 地域医療室を設置
	6 月	へき地診療所(望月町協西地区)廃止
	7 月	全面院外処方の実施
	10 月	インターネット・ホームページを開設
	11月	財団法人日本医療機能評価基準機構から一般病院種別Bの認定を受ける
平成 10 年	5 月	院長 倉澤隆平 院長職を辞任
	6 月	副院長 宮崎雅之 院長に就任 前院長 倉澤隆平 名誉院長に就任
	7 月	病床数の変更 一般病床 323 床 結核病床 12 床(計 335 床)
	10 月	療養型病床群 33 床設置(一般病床 290 床、療養病床 33 床、結核病床 12 床)
	12 月	療養型病床群使用開始 新看護2:1(A)承認(結核病床 12 床含) 夜間勤務等看護加算承認 I a5病棟、I b2病棟 療養型病床群療養環境(I)、療養二群入院管理(I)承認 院内感染防止対策承認、重症皮膚潰瘍管理加算承認
平成 11 年	3 月	指定老人訪問看護事業者の指定申請許可
		地域医療部設置、訪問看護ステーションあさま開所
	7 月	開院 40 周年記念病院祭開催
平成 12 年	4 月	指定居宅介護支援事業所設置、介護療養病床 8 床設置 (一般病床 290 床、療養病床 33 床、結核病床 12 床、介護療養病床8床 計 343 床)
	8月	医療連携室を設置
平成 13 年	3 月	東診療所廃止
平成 14 年	4 月	病院建築係の設置 言語聴覚療法(II)承認、人工関節置換術承認、肺切除術及び気管支形成を伴う肺 切除術承認、歯周疾患継続治療診断料承認
	10 月	医療安全管理体制承認、褥瘡対策承認 遠隔医療推進事業開始
平成 15 年	3 月	人工透析室增設 病院整備事業基本構想策定
	4 月	病床数の変更 結核病床 12 床廃止(一般 290 床、療養 33 床、介護 8 床 計 331 床) 病院建築室の設置、会計課を総務課に統合
	5 月	財団法人日本医療機能評価機構の再審査で Ver4 を認定(認定GB12−2 号)

### 19			押収が扱い
8月 診療情報の提供に関する指針策定 9月 ケアミックス型の病院として一般病床 250 床、医療療養型病床 33 床、介護療養型病床 40 床とする(計 323 床) 10月 病院内全部禁煙とする 10月 病院内全部禁煙とする 1日病棟、旧特別養護老人ホーム「相生荘」解体。病院整備事業実施設計策定 4月 放射線料、臨床検査料の当直体制開始新医師臨床研修制度開始に伴い、東大付属病院より研修医 2 名受け入れ 6月 頭痛・物忘れ外来設置 7月 開院 45 周年記念病院祭開催 12月 新西棟建築起工式学行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建業工事に着手、18 年8月完成 平成 17年 4月 市町村合併に伴い新佐久市の「市立国保浅間総合病院」として設置禁煙外来・健康支援外来設置歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ東大付属病院研修医 3 名を受け入れ東大付属病院研修医 3 名を受け入れ東大付属病院が修医 3 名を受け入れ東大付属病院が修医 3 名を受け入れ東大付属病院が修医 3 名を受け入れ東大付属病院が修医 3 各受け入れ東大付属病院が服务を3 を設置 間放病床 5 床を設置 10月 開放馬床 5 床を設置 10月 開発 中井淳 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電か力ルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働教急医療部教急医療科を設置し、教急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置 脳卒中ホットラインを整備市の子育で支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院準理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 温保法科診療所に医師派遣開始病床放り変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床			病院モニター会議を設置
9月 ケアミックス型の病院として一般病床 250 床、医療療養型病床 33 床、介護療養型 病床 40 床とする(計 323 床) 10月 病院内全館禁煙とする 10月 病院内全館禁煙とする 4月 協療に目特別養護を人术一厶「相生荘」解体。 病院整備事業実施設計策定 4月 放射線料、臨床検査科の当直体制開始 新医師臨床研修制度開始に伴い、東大付属病院より研修医 2 名受け入れ 6月 頭痛・物忘れ外来設置 7月 開院 45 周年記念病院祭開催 12月 新西棟建築起工式挙行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建 第工事に看手、18 年8月完成 12月 新西棟建築起工式挙行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建 第工事に看手、18 年8月完成 12月 新西棟建築起工式挙行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建 第工事に看手、18 年8月完成 15月 御牧原地保全、中の「市立国保浅間総合病院」として設置 禁煙外来、健康支援外来設置 歯科医師臨床研修服 3 名を受け入れ 地域医療部に存む支援全診置 開放型病院として開放病床 5 床を設置 10月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 10月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 10月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 10月 新西棟完成 10月 新大学院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任 佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新株開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始 電子カルテ、オーダルングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 教息医療部教息医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室設置、脳卒中センターを設置し、脳中ホットラインを整備市の子育、支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 国保浅料診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床 とする 5月 旧西棟解体工事着手病院敷地内全面禁煙		6月	更年期外来を設置
病床 40 床とする(計 323 床) 10 月 病院内全館禁煙とする 平成 16 年 3月 旧病棟、旧特別養護を人木一ム「相生荘」解体。 病院整備事業実施設計策定 4 月 放射線科、臨床検査科の当直体制開始 新館輸店・物忘れ外来設置 7 月 開院 45 周年記念病院祭開催 12 月 新西棟建築起工式挙行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建築工事に着手、18 年8月完成 平成 17 年 4 月 市町村合併に伴い新佐入市の「市立国保法間総合病院」として設置禁例外来、健康支援外来、設置 歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ 東大付属病院研修医 3 名を受け入れ 地域医療部に存む支援室を設置 開放型病院として開放病床 5 床を設置 10 月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 平成 18 年 3 月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4 月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任 佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8 月 新西棟完成 10 月 新雄開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療を管理室を等できる医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療を管理を安全管理を変管理を変を管理をを管理を登を管理を発きしていた。 11 月 脳ドック開始 平成 19 年 1 月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4 月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 国保浅和診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床		8月	診療情報の提供に関する指針策定
平成 16 年 3月 旧病棟、旧特別養護老人ホーム「相生荘」解体。病院整備事業実施設計策定 4月 放射線科、臨床検査科の当直体制開始 新医師臨床研修制度開始に伴い、東大付属病院より研修医 2 名受け入れ 6月 頭痛・物忘れ外来設置 7月 開院 45 周年記念病院祭開催 12月 新西棟建築起工式業行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建築工事に着手、18 年8月完成 平成 17 年 4月 市町村合併に伴い新佐久市の「市立国保浅間総合病院」として設置禁煙外来・健康支援外来設置 歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ 地域医療部に在宅支援室を設置 開放型病院として開放病床 5 床を設置 10 月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 平成 18 年 3月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電プカルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部款急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成 19 年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 浅間総合病院管理型研修医 1 名受け入れ 国保浅料診療所に医館派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床		9 月	
病院整備事業実施設計策定 4月 放射線科、臨床検査科の当直体制開始 新医師臨床研修制度開始に伴い、東大付属病院より研修医 2 名受け入れ 6月 頭痛・物忘れ外来設置 7月 開院 45 周年記念病院祭開催 12月 新西棟建築起工式学行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建築工事に着手、18 年8月完成 中成 17年 4月 市町村合併に伴い新佐久市の「市立国保浅間総合病院」として設置紫煙外来・健康支援外来設置 歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ 東大付属病院研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ 地域医療部に在宅支援室を設置 開放型病院として開放病床 5 床を設置 10月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 平成 18年 3月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報ンステムを稼働救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置し、被急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置し、脳卒中ホットラインを整備市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成 19年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 遺間保護料診療所に医師派遣開始病味 2 名受け入れ 1 国保護料診療所に医師派遣開始病味 2 名受け入れ 1 国民連科診療所に医師派遣開始病味 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 1 国保護科診療所に医師派遣開始病味 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 1 国内棟解体工事着手病院敷地内全面禁煙		10 月	病院内全館禁煙とする
新医師臨床研修制度開始に伴い、東大付属病院より研修医 2 名受け入れ 6月 頭痛・物忘れ外来設置 7月 開院 45 周年記念病院祭開催 12月 新西棟建築起工式挙行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12.475 ㎡建 築工事に着手、18 年8月完成 平成 17 年 4月 市町村合併に伴い新佐久市の「市立国保浅間総合病院」として設置 禁煙外来・健康・支援外来設置 歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ 東大付属病院研修医 3 名を受け入れ 地域医療部に右宅支援室を設置 開放型病院として開放病床 5 床を設置 10 月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 3 月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任 佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8 月 新西棟完成 10 月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始 電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備 市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11 月 脳ドック開始 平成 19 年 1 月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4 月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 浅間総合病院管理型研修医 1 名受け入れ 国保法科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床とする	平成 16 年	3 月	
7月 開院 45 周年記念病院祭開催 12月 新西棟建築起工式学行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12,475 ㎡建築工事に着手、18 年8月完成 平成 17年 4月 市町村合併に伴い新佐久市の「市立国保浅間総合病院」として設置禁煙外来・健康支援外来設置歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医 1 名受け入れ東大付属病院研修医 3 名を受け入れ地域医療部に在宅支援室を設置開放型病院として開放病床 5 床を設置 10月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 平成 18年 3月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電子カルテ、オーダリングシステムを期間する医療情報システムを稼働教急医療部教急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成 19年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院単独型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ浅間総合病院単独型耐移医 1 名受け入れ 温保浅科診療所に医師派遣開始病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床とする。		4 月	
12 月 新西棟建築起工式挙行、新西棟鉄筋コンクリート地下1階地上6階建 12,475 ㎡建築工事に着手、18 年8月完成		6 月	頭痛・物忘れ外来設置
		7月	開院 45 周年記念病院祭開催
禁煙外来・健康支援外来設置 歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医1名受け入れ 東大付属病院研修医3名を受け入れ 地域医療部に在宅支援室を設置 開放型病院として開放病床5床を設置 10月 御牧原地区で遠隔医療事業開始 平成18年 3月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任 佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始 電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部教急医療科を設置し、救急処置室を24時間職員配置体制とする。 医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備 市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成19年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 2月 浅間総合病院管理型研修医2名 東大附属病院より研修医4名受け入れ 遠間総合病院単独型歯科研修医1名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床243床、医療型療養病床40床、介護型療養病床40床 とする		12 月	
平成 18 年 3月 院長 宮崎雅之 院長を辞任 4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任 佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始 電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。 医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備 市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成 19 年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2名 東大附属病院より研修医 4名受け入れ 実間総合病院単独型歯科研修医 1名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床 とする 5月 旧西棟解体工事着手 病院敷地内全面禁煙	平成 17 年	4月	禁煙外来・健康支援外来設置 歯科医師臨床研修制度開始に伴い、歯科研修医1名受け入れ 東大付属病院研修医3名を受け入れ 地域医療部に在宅支援室を設置
4月 副院長 仲井淳 院長職務執行者に就任 佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始 電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。 医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備 市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成19年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2名 東大附属病院より研修医 4名受け入れ 浅間総合病院単独型歯科研修医 1名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床とする 5月 旧西棟解体工事着手病院敷地内全面禁煙		10 月	御牧原地区で遠隔医療事業開始
佐久市中部地域包括支援センターを市より受託し設置 8月 新西棟完成 10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成19年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2名 東大附属病院より研修医 4名受け入れ浅間総合病院単独型歯科研修医 1名受け入れ国保浅科診療所に医師派遣開始病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床とする 5月 旧西棟解体工事着手病院敷地内全面禁煙	平成 18 年	3 月	院長 宮崎雅之 院長を辞任
10月 新棟開院式を挙行、新西棟での外来及び病棟での診療を開始電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を24時間職員配置体制とする。医療安全管理室を設置脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11月 脳ドック開始 平成19年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医2名東大附属病院より研修医4名受け入れ浅間総合病院単独型歯科研修医1名受け入れ国保浅科診療所に医師派遣開始病床数の変更一般病床243床、医療型療養病床40床、介護型療養病床40床とする 5月 旧西棟解体工事着手病院敷地内全面禁煙		4 月	
電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。 医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備 市の子育て支援事業である「病児保育」を受託し受け入れを開始する 11 月 脳ドック開始 平成 19 年 1 月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4 月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 浅間総合病院単独型歯科研修医 1 名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床 とする 5 月 旧西棟解体工事着手 病院敷地内全面禁煙		8月	新西棟完成
平成 19 年 1月 院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任 4月 浅間総合病院管理型研修医 2名 東大附属病院より研修医 4名受け入れ 浅間総合病院単独型歯科研修医 1名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床 とする 5月 旧西棟解体工事着手 病院敷地内全面禁煙		10 月	電子カルテ、オーダリングシステムを期間とする医療情報システムを稼働 救急医療部救急医療科を設置し、救急処置室を 24 時間職員配置体制とする。 医療安全管理室を設置 脳卒中センターを設置し、脳卒中ホットラインを整備
4月 浅間総合病院管理型研修医 2 名 東大附属病院より研修医 4 名受け入れ 浅間総合病院単独型歯科研修医 1 名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床 とする 5月 旧西棟解体工事着手 病院敷地内全面禁煙		11 月	脳ドック開始
浅間総合病院単独型歯科研修医 1 名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床 とする 5 月 旧西棟解体工事着手 病院敷地内全面禁煙	平成 19 年	1月	院長 北原信三 東邦大学医学部(乳腺内分泌外科)より就任
病院敷地内全面禁煙		4月	浅間総合病院単独型歯科研修医 1 名受け入れ 国保浅科診療所に医師派遣開始 病床数の変更 一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床
9月 旧西病棟解体・撤去工事完了し、外構整備着手		5 月	
		9 月	旧西病棟解体・撤去工事完了し、外構整備着手

		病院の概况
	11 月	財団法人日本医療機能評価機構から院機能評価(Ver.5.0)認定(第 G12-3 号)
平成 20 年	3 月	建築付帯建物建設工事完了、外構整備工事完了 医療情報システム構築業務完了 平成 14 年より進めてきた浅間総合病院整備事業の竣工式典が挙行される
	4 月	布施出張診療所に医師派遣開始
	7 月	入院医療費に DPC を導入 佐久大学看護学科実習生受入れ(実習)開始
	11 月	初代院長 吉澤國雄先生 死去 世界糖尿病デーに病院ライトアップで参加をはじめる
	12 月	新型インフルエンザの世界的流行に備え、「新型インフルエンザ対策検討チーム」設立
平成 21 年	1月	「吉澤國雄先生を偲ぶ会」及び「吉澤國雄先生を語る会」を執り行う
	3 月	「佐久市立国保浅間総合病院病院改革プラン」を策定
	4 月	柳田清二 佐久市長が開設者として就任
	6 月	開院 50 周年記念連続講演会を開催(全 11 回)
	7月	開院 50 周年記念病院祭開催
	10 月	「佐久地域休日小児急病診療センター」が当院内科外来診察室に開設される 院長 北原信三 院長を辞任
	11 月	診療部長 村島隆太郎 院長に就任 副院長 2人体制となる
	12 月	禁煙外来を設置
平成 22 年	1月	小諸厚生総合病院 医師臨床研修プログラムの協力病院となる(産婦人科)
	4 月	地方公営企業法全部適用へ移行 院長 村島隆太郎 佐久市病院事業管理者に就任 大規模な診療報酬改定(10 年ぶりの 0.19%ネットプラスの点数改定となる)
	7 月	佐久総合病院再構築にむけた三者協定書を締結(佐久医師会・浅間総合病院・佐 久総合病院)
	8月	睡眠時無呼吸外来(SAS)を開設
	10 月	病院職員定数条例を 340 から 370 に改正 「平日夜間急病診療センター」が当院内科外来診察室に開設される
	11 月	SCU(超急性期脳卒中病床 3 床)を整備 樫山高志・徹 様より訪問看護車両 2 台が寄付される
平成 23 年	2 月	医療費支払いにカード払いを導入
	3 月	遠隔医療推進事業が市の事業仕分けによる見直しにより廃止 3.11 東日本大震災の被災地大船渡市(銀河連邦友好都市)に、医療支援班 4 班 (述べ 20 人)を派遣(3/14~3/29) 病院第二次整備事業の基本設計を策定
	6 月	感染制御室を設置 当院看護師が、がん性疼痛認定看護師・緩和ケア認定看護師に認定される
	9 月	乳房再建外来を開設

		
	11 月	世界糖尿病デーに佐久平駅のライトアップを行う 弁護士法人病院医業未収金管理回収業務委託開始
平成 24 年	4 月	医事課を医事政策課に改称
	11 月	公益財団法人日本医療機能評価機構から病院機能評価(Ver6.0)認定(認定第 GB12-4 号) がん哲学外来浅間対話カフェ開始
	12 月	新院内保育所完成 内視鏡室を3室から4室に整備
平成 25 年	4 月	物品管理システム(SPD)稼働
	6 月	糖尿病認定看護師資格の取得
	7月	電子カルテ、オーダリングシステムを基幹とする医療情報システムの更新
	9 月	第二次整備事業先行工事着手
	10 月	未収金回収体制の強化とマニュアルの整備
平成 26 年	3 月	第二次整備事業先行解体工事着手
	4 月	院長 村島隆太郎 佐久市病院事業管理者に再任
	5 月	開院 55 周年記念連続講演会(全 11 回)
	6 月	慢性呼吸器疾患看護認定看護師資格の取得
	7月	第二次整備事業新中央棟建設工事着手 開院 55 周年記念病院祭開催
平成 27 年	9 月	医療型療養病床 40 床休床 3 者通話の救急ホットラインを導入
	10 月	第二次整備事業 1 期工事完了により、新給食システム(ニュークックチルシステム) 稼働
平成 28 年	3 月	「保健・医療のつばさ事業」覚書に調印
	4 月	手術部を創設、技術部を医療技術部に改称
平成 29 年	1月	第二次整備事業新中央棟建設工事竣工
	3 月	第二次整備事業新中央棟開院式典 佐久市立国保浅間総合病院改革プラン策定完了
	8月	地域包括ケア病棟開設 55 床 一般病床 238 床、医療型療養病床 40 床(休床)、介護療養型病床 40 床とする
	10 月	医療型短期入所サービス(レスパイト)開始
	11 月	公益財団法人日本医療機能評価機構から病院機能評価(3rdG:Ver1.1)認定(認 定第GB12-5号)
平成 30 年	3 月	介護老人保健施設「みすず苑」閉所
	4 月	院長 村島隆太郎 佐久市病院事業管理者に再々任
平成 31 年	4 月	病床数の変更 医療型療養病床 40 床廃止、一般病床 238 床、介護型療養病床 40 床とする
令和1年	7 月	開院 60 周年記念病院祭開催
令和2年	8 月	南棟改修工事着手
•		

令和3年	6 月	心臓血管造影室増築工事着手		
令和4年	٠,,	院長 村島隆太郎 佐久市病院事業管理者及び院長を退任 南棟改修工事竣工 心臓血管造影室増築工事竣工		

2. 土地の面積、建物の構造、面積

(1)敷地面積

35, 092.59m²

(2)建物の構造、面積

区分	名 称	構 造	面積	摘 要
	西棟	鉄筋コンクリート地下1階地上6階建	13,002	附属建屋含む
病院	東棟	鉄筋コンクリート3階建	3,215	附属建屋含む
7内 1元	南 棟	鉄骨・鉄筋コンクリート4階建	8,410	
	中央棟	鉄筋コンクリート4階建	6,981	附属建屋含む
		計	31,608	
	職員住宅	鉄筋コンクリート2階建	668	14 室
		木造平屋建	313	4戸
付属施設	医師住宅	木造2階建	298	3戸
刊為他改		鉄筋コンクリート2階建	234	4戸
	乳幼児保育所	木造平屋建	300	1戸
	病児保育所	木造平屋建	71	1戸

(3)建物の用途及び病床数

名称	区分	階	用途			
	管理診療棟	1	内科、眼科、整形外科、救急・時間外診察・処置室、放射 I室(CT)、核医学検査室、採血室、薬剤科、事務室(医型センター、ボイラー室、機械室			
			外科、小児科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、心療内科、産婦人科 科、歯科・歯科口腔外科、臨床検査科、食堂、売店、電話交換室、電			
			1床病室	5		
			1床病室(重症病床)	3		
	病棟	3	3床病室	1		
西	1四代	3	4床病室	9	計 47 床	
棟	西 棟 		病棟食堂・家族控室、デイルーム、面談室、浴室・介助浴室、洗濯室、リネン 庫、器材庫、スタッフステーション			
			1床病室	3		
		病棟 4	1床病室(重症病床)	2		
			2床病室	1		
	病棟		3床病室	1		
			4床病室	10	計 50 床	
			病棟食堂・家族控室、デイルーム、面談室、浴室・介助 室、リネン庫、器材庫、スタッフステーション	谷室、	シャワー室、洗濯	

					病院の概況	
			1床病室	5		
			1床病室(重症病床)	2		
	病棟	5	3床病室	1		
	7/4/1米		4床病室	10	計 50 床	
			病棟食堂・家族控室、デイルーム、面談室、浴室、シャ	フ一室	₹、洗濯室、リネン	
			庫、器材庫、スタッフステーション			
İ			1床病室	11		
			2床病室	1		
	全抽		3床病室(未熟児室)	1		
	病棟	6	4床病室	5	計 36 床	
			病棟食堂・家族控室、デイルーム、診察・処置室、面	談室	、浴室、シャワー	
			室、、洗濯室、リネン庫、器材庫、スタッフステーション			
	•	•			病床計:183 床	
	管理診療棟	1	会議室、研修医室			
		2	会議室、倉庫			
東			介護型療養病棟			
東 棟	病棟		2床病室	4		
		3	4床病室	8	計 40 床	
			病棟食堂、洗面所・洗濯室、介助浴室、リネン庫、スタッ	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚		
	•	ı			病床計:40 床	
		1	血液透析室、リハビリテーション科、健康管理係、地域	医療室	<u> </u>	
		2	在宅支援室、訪問看護ステーションあさま(在宅)、リハビリテーション(在宅)			
	管理診療棟	3	 看護部長室、看護師長室、読影室、面談室、理美容室、	多目	 的室	
		4	医療安全管理室、感染制御室			
杏			1床病室	2		
南 棟				2		
				1		
	病棟	3		12	計 55 床	
			│ │ 病棟食堂、デイルーム、浴室・介助浴室、洗面所・洗濯	室、リ	<u> </u>	
			スタッフステーション	_,,		
		<u> </u>	1		 病床計∶55 床	
			栄養科、調理室、糖尿病センター(通称)、外来通院治療	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
		1	連携係・医療相談係)			
中		2	中央手術室、中央材料室、臨床工学室			
中 央 棟	管理診療棟	3	医局、中央病歴管理室、医局会議室、MA室、用度倉庫	1、用頃	基本教室、図書室	
1111			講堂、院長室、応接室、副院長室、地域医療部長室、			
İ		4	部長室、医療技術部長室、手術部長室、参事室、総務語			
				-	 病床合計:278 床	
					/F3//N LI DI . 2/0 //	

3. 職員数

1-00 at 55					
部門	人数				
診療部門	医師	42			
	歯科医師	4			
	研修医	10			
薬剤部門	薬剤師	14			
看護部門	看護師	189			
	助産師	28			
	介護福祉士	15			
放射線部門	診療放射線技師	11			
検査部門	臨床検査技師	19			
リハビリ部門	理学療法士	21			
	作業療法士	11			
	言語聴覚士	3			
	視能訓練士	3			
栄養部門	管理栄養士	6			
歯科衛生士	3				
歯科技工士		2			
臨床工学技士		8			
診療情報管理士		7			
医療相談員(社会福	医療相談員(社会福祉士)				
主任介護支援専門	2				
事務部門	30				
医療安全管理室	2				
感染制御室		1			
	合計	436			

常勤医師各科別人数	人数
内科	8
循環器内科	1
小児科	3
外科	8
整形外科	8
脳神経外科	1
麻酔科	1
産婦人科	6
眼科	2
耳鼻咽喉科	2
歯科	4
健康管理科	1
病理診断科	1
研修医	10
計	56

4. 施設基準

基本診療料の施設基準等に関する届出

地域歯科診療支援病院歯科初診料

歯科外来診療環境体制加算 2

歯科診療特別対応連携加算

一般病棟入院基本料 1(急性期一般入院料 1)

救急医療管理加算

超急性期脳卒中加算

診療録管理体制加算 1

医師事務作業補助体制加算1(40対1補助体制加算)

急性期看護補助体制加算 1(25 対 1 急性期看護補助体制加算(看護補助者 5 割以上)夜間 50 対 1 急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算)

看護職員夜間配置加算(夜間 16 対 1 配置加算)

療養環境加算

重症者等療養環境特別加算

栄養サポートチーム加算

医療安全対策加算 1(医療安全対策地域連携加算 1)

感染対策向上加算 1(指導強化加算)

患者サポート体制充実加算

ハイリスク妊娠管理加算

ハイリスク分娩管理加算

呼吸ケアチーム加算

後発医薬品使用体制加算1

病棟薬剤業務実施加算 1

データ提出加算2

入退院支援加算 1(入院時支援加算、総合機能評価加算)

認知症ケア加算 2

せん妄ハイリスク患者ケア加算

排尿自立支援加算

地域医療体制確保加算

地域歯科診療支援病院入院加算

地域包括ケア病棟入院料2

特掲診療料の施設基準に関する届出

歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料

外来栄養食事指導料の注 2

心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算

糖尿病合併症管理料

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料イ

がん患者指導管理料口

がん患者指導管理料ハ

がん患者指導管理料ニ

糖尿病透析予防指導管理料

小児運動器疾患指導管理料

乳腺炎重症化予防・ケア指導料

婦人科特定疾患治療管理料

一般不妊治療管理料

生殖補助医療管理料1

- 二次性骨折予防継続管理料1
- 二次性骨折予防継続管理料2
- 二次性骨折予防継続管理料3

地域連携小児夜間・休日診療料 1

地域連携夜間 休日診療料

院内トリアージ実施料

夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算

外来腫瘍化学療法診療料1

連携充実加算

ニコチン依存症管理料

開放型病院共同指導料

ハイリスク妊産婦共同管理料(I)

外来排尿自立指導料

肝炎インターフェロン治療計画料

薬剤管理指導料

地域連携診療計画加算

検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料

医療機器安全管理料 1

歯科疾患在宅療養管理料の注 4 に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注 2

在宅療養後方支援病院

持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式 グルコース測定 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)

BRCA1/2 遺伝子検査

HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)

検体検査管理加算(I)

検体検査管理加算(IV)

時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

コンタクトレンズ検査料1

CT 撮影及び MRI 撮影

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算 1(連携充実加算)

無菌製剤処理料

脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

運動器リハビリテーション料(I)

呼吸器リハビリテーション料(I)

歯科口腔リハビリテーション料2

静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)

人工腎臓1

導入期加算1

透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算

下肢末梢動脈疾患指導管理加算

CAD/CAM 冠

歯科技工加算1及び2

緊急整復固定及び緊急挿入加算

骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))

後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)

椎間板内酵素注入療法

脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)

緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))

緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)

緑内障手術(濾過法再建術(needle 法))

乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)

経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

大動脈バルーンパンピング法(IAPB 法)

内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術

腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)

医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

輸血管理料Ⅱ

輸血適性使用加算

人工肛門·人工膀胱造設術前処置加算

胃瘻造設時嚥下機能評価加算

広範囲顎骨支持型装置埋入手術

麻酔管理料(I)

麻酔管理料(Ⅱ)

病理診断管理加算1

悪性腫瘍病理組織標本加算

口腔病理診断管理加算 1

クラウン・ブリッジ維持管理料

歯科矯正診断料

5. 指定医療機関

- 保険医療機関
- 生活保護法指定病院
- 身体障害者福祉法指定病院
- へき地中核病院
- 日本内科学会内科専門医教育病院
- 日本脳神経外科学会専門医訓練施設
- 日本整形外科学会認定研修施設
- 日本眼科学会認定研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本循環器学会指定循環器研修関連施設
- 臨床研修病院
- 労災保険指定医療機関
- 結核予防法指定医療機関
- 救急告示病院
- 心疾患基幹病院
- 障害者歯科基幹病院
- 日本病理学会登録施設
- 日本外科学会認定医修練施設
- 日本耳鼻咽喉科学会認可研修施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本形成外科学会教育関連施設
- 日本リウマチ学会教育施設
- 歯科臨床研修病院

6. 主要医療機器(取得価格 500 万円以上)

科 名	名 称	銘 柄	数量	購入年度
眼科	自動視野計	(株)リィツ・メディカル	1台	平 10
泌尿器科	ウロダイナミクス検査装置	マンスン		平 10
アンギオ	心臓カテーテル用ポリグラフ	日本光電工業(株)	1台	平 11
検査科	心臓超音波診断装置	アジレントテクノロジー(株)	1台	平 12
眼科	硝子体手術システム	ボシュロムジャパン(株)	1式	平 13
検査科	アロカ超音波診断装置	アロカ(株)	1台	平 14
透析室	多人数用透析液供給装置	日機装(株)	1式	平 14
透析室	人工透析用逆浸透精製システム	日機装(株)	1式	平 14
検査科	検査科コンピューターシステム	富士通(株)	1式	平 14
眼科	超音波白内障手術装置	(株)アルコン	1式	平 15
内視鏡	内視鏡システム	オリンパスメディカルシステムズ(株)	1式	平 15
泌尿器科	超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ(株)	1台	平 16
眼科	スリットランプ	ハーグストレイト社	1台	平 16
眼科	マルチカラーレーザー光凝固装置	(株)ニデック	1台	平 16
外科	腹腔鏡手術モニターシステム	オリンパスメディカルシステムズ(株)	1式	平 16
検査科	超音波診断装置	日本光電工業(株)	1式	平 17
内視鏡	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパスメディカルシステムズ(株)	2 台	平 17
形成外科	皮膚良性色素性治療用レーザー	米国ジャンデラ社	1式	平 18
病棟	メディカルハンガー・保育器	川重防災工業(株)・アトムメディカル(株)	1式	平 18
放射線科	MRI・アンギオ	(株)フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ	1式	平 18
歯科	歯科用X線装置	(株)モリタ製作所	1式	平 18
歯科	歯科用セントラルバキュームシステム	(株)東京技研	1式	平 18
検査科	尿コップラベラー	(株)テクノメディカ	1台	平 18
検査科	採血情報システム	(株)テクノメディカ	1式	平 18
検査科	採血準備装置	(株)テクノメディカ	1式	平 18
放射線科	一般撮影室一般撮影装置 I	(株)島津製作所	1式	平 18
放射線科	一般撮影室一般撮影装置Ⅱ	(株)島津製作所	1式	平 18
放射線科	一般撮影室一般撮影装置ⅢTV	(株)島津製作所	1式	平 18
放射線科	X 線 TV 装置	(株)島津製作所	1式	平 18
放射線科	デジタルラジオグラフィー装置	(株)島津製作所	1式	平 18
放射線科	回診用X線装置	(株)島津製作所	1式	平 18
放射線科	骨密度測定室 X 線骨密度測定装置	東洋メディック(株)	1式	平 18
病棟	医用テレメーター	日本光電工業(株)	5 台	平 18
耳鼻科	オリンパス耳鼻咽喉科内視鏡システム	オリンパスメディカルシステムズ(株)	2式	平 18
検査科	全自動血液凝固測定装置	シスメックス(株)	1式	平 18

科 名	名 称	銘 柄	数量	開入年度
検査科	「臓器保存室」切出台	白井松器械(株)	1式	平 18
検査科	臨床検査科実験台	白井松器械(株)		平 18
検査科	「解剖室Ⅱ」灯蛍光灯	白井松器械(株)	1式	平 18
検査科	「解剖室I」解剖台	白井松器械(株)	1式	平 18
検査科	「霊安室・遺体処置室」遺体冷蔵室等	白井松器械(株)	1式	平 18
検査科	プレパラート自動染色装置	白井松器械(株)	1式	平 18
検査科	自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン(株)	1式	平 18
婦人科	超音波診断装置	持田シーメンスメディカルシステム(株)	1式	平 18
耳鼻科	診療ユニットバリアント	永島医科器械(株)	1式	平 18
透析室	日機装透析システム	日機装(株)	1式	平 18
内視鏡	第三内視鏡室 NBI ビデオシステム	オリンパスメディカルシステムズ(株)	1式	平 19
内視鏡	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパスメディカルシステムズ(株)	1式	平 19
眼科	手術用顕微鏡一式	カールツアイス社	1式	平 19
中材室	ワッシャーディスインフェクター	ゲティンゲ社	2 基	平 19
検査科	オーソオートビュー(自動輸血検査システム)	オーソ・クリニカルダイアグノステックス(株)	1台	平 19
泌尿器科	ウロダイナミクスシステム「ソーラー」	Medical Measurement Systems	1台	平 19
全病棟	人工呼吸器「ベネットベンチレーター760」	タイコヘルスジャパン(株)	2 台	平 19
検査科	夜間緊急用自動血球分析装置	シスメックス(株)	1台	平 20
検査科	全自動尿中有形成分分析装置	シスメックス(株)	1台	平 20
検査科	全自動錠剤分包機	トーショー	1台	平 20
検査科	婦人科超音波診断装置	持田シーメンスメディカルシステム(株)	1台	平 20
検査科	血液ガス分析装置	ラジオメーター社(株)	1式	平 21
検査科	長時間心電図解析装置	フクダ電子(株)	1式	平 21
耳鼻科	耳鼻咽喉科用治療ユニット	永島医科器械(株)	1式	平 22
整形外科	アルファスター万能手術台	村中医療機器(株)	1式	平 22
臨床工学科	人工呼吸器	コヴィディエンジャパン(株)	2 台	平 22
外科	超音波内視鏡	オリンパスメディカルシステムズ(株)	1式	平 22
眼科	無散瞳・散瞳一体眼底カメラ	興和(株)	1式	平 22
臨床工学科	人工呼吸器	コヴィディエンジャパン(株)	1式	平 23
眼科	コンステレーションビジョンシステム	日本アルコン(株)	1式	平 23
看護部	ベッド	パラマウントベッド(株)	20 台	平 23
検査科	肺機能検査システム	チェスト(株)	1式	平 23
病棟	医用テレメーター	日本光電工業(株)	1式	平 23
臨床工学科	血液浄化装置	旭化成メディカル(株)	1式	平 24
産婦人科	超音波診断装置	持田シーメンスメディカルシステム(株)		平 24
脳外科	術中血管観察モジュール	カールツアイスメディック(株)		平 24
小児科	超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン(株)	1式	平 24

科 名	名 称	銘 柄	数量	購入年度
中央手術室	マイクロサージャリー手術台	瑞穂医科工業(株)	1台	平 24
救急医療	生体情報モニター	(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン		平 24
小児科	超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン(株)	1式	平 24
中央手術室	マイクロサージャリー手術台	瑞穂医科工業(株)	1台	平 24
救急医療	生体情報モニター	(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン	1式	平 24
産婦人科	超音波診断装置	シーメンス・ジャパン(株)	1式	平 25
眼科	ウェーブフロントアナライザー	(株)トプコン	1式	平 25
南 3 階	セントラルモニター(生体情報モニター)	日本光電工業(株)	2 式	平 25
検査科	脳波計	日本光電工業(株)	1式	平 26
検査科	グリコヘモグロビン/グルコース分析装置	アークレイ(株)	2 式	平 26
脳外科	筋電計	日本光電工業(株)	1式	平 26
眼科	眼科用レーザー光凝固装置	(株)リッツメディカル	1式	平 26
整形外科	整形外科手術機器	メドトロニックソファモアダネック 他	1式	平 26
検査科	多項目自動血球分析装置	シスメックス(株)	1式	平 27
透析室	多人数用透析液供給装置	日機装(株)	1式	平 27
検査科	汎用超音波画像診断装置	東芝メディカルシステムズ(株)	1式	平 27
中央手術室	手術台アクセサリー(アレンスパイナルシステム)	村中医療機器(株)	1式	平 27
整形外科	整形外科手術機器	メドトロニックソファモアダネック 他	1式	平 27
放射線科	全身用マルチスライス CT 装置	東芝メディカルシステムズ(株)	1式	平 27
放射線科	MRI アップグレード	東芝メディカルシステムズ(株)	1式	平 27
中央手術室	移動式デジタル式汎用一体型 X 線透視診断装置	ガデリウス・メディカル(株)	1式	平 27
耳鼻科	耳鼻咽喉用ビデオシステム	オリンパス(株)	1式	平 28
検査科	全自動輸血検査システム	オーソ・クリニカルダイアグノステックス(株)	1式	平 28
中央手術室	内視鏡カメラシステム	カールストルツ・エンドスコピー	2 式	平 28
中央手術室	ウォッシャーディスインフェクター	ゲッティング・グループ・ジャパン(株)	3 式	平 28
中央手術室	超音波手術器(ソノペット)	日本ストライカー(株)	1式	平 28
中央手術室	中央材料室機器システム2槽シンク	(株)アスカメディカル	1式	平 28
中央手術室	中央材料室機器システム乾燥機	三浦工業(株)	1式	平 28
中央手術室	中央材料室機器 RO 水製造装置	東洋紡エンジニアリング(株)	1式	平 28
中央手術室	中央材料室機器超音波レビテーション	(株)アスカメディカル	1式	平 28
中央手術室	中央材料室機器減圧沸騰洗浄器	三浦工業(株)	1式	平 28
中央手術室	中央材料室機器ウォッシャーディスインフェクター	ゲッティング・グループ・ジャパン(株)	3 式	平 28
中央手術室	中央材料室機器高圧蒸気滅菌器	三浦工業(株)	2 式	平 28
中央手術室	中央材料室機器ハイスピード滅菌器	三浦工業(株)	1式	平 28
中央手術室	手術室無影灯シーリングペンダント	山田医療、美和医療(株)	7式	平 28
中央手術室	整形外科用 OPE 台	ゲッティング・グループ・ジャパン(株)	1式	平 28
中央手術室	外科用 OPE 台	ミズホ(株)	1式	平 28

科名	名 称	銘 柄	数量	購入年度
中央手術室	産婦人科用 OPE 台	(株)竹内製作所		平 28
	手術室映像システム	(株)メディプラス	1式	平 28
外来通院治療室	安全キャビネット	(株)日立産機システム		平 28
中央手術室	麻酔器	GE ヘルスケア・ジャパン(株)	2 式	平 28
中央手術室	電気メス	(株)アムコ	2 式	平 28
中央手術室	生体情報モニター	日本光電工業(株)	2 式	平 28
外来通院治療室	化学療法室セントラルモニター	日本光電工業(株)	1式	平 28
臨床工学科	ME 機器管理システム	(株)メッツ	1式	平 29
検査科	腹部超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン(株)	1式	平 29
総務課	SPD 物品管理システム	(株)エーエヌディー	1式	平 29
透析室	多用途透析監視装置	日機装(株)	2 台	平 30
手術室	X 線透視診断装置	メドトロニック(株)、GE ヘルスケア・ジャパン(株)	1式	平 30
内視鏡	内視鏡カメラ	オリンパス(株)	1式	平 30
手術室	体外受精システム	オリンパス(株)、アステック(株)	1式	平 30
手術室	手術台	マッケ・ジャパン(株)	1台	平 30
放射線科	デジタル X 線 TV システム	(株)島津製作所	1台	平 30
検査科	超音波診断装置(心エコー)	キャノンメディカル(株)	1台	平 30
産婦人科	顕微授精システム	オリンパス(株)		令元
手術室	カメラシステム	日本ストライカー(株)	1台	令元
透析室	個人用多用途透析装置	日機装(株)	1台	令元
検査科	プレパラート自動染色封入システム	サクラファインテックジャパン(株)	1台	令元
放射線科	AZE バーチャルプレイス風神アップグレード		1式	令 2
放射線科	マンモサーバー・専用ビューア2セットリプレイス		1式	令 2
検査科	全自動血液凝固測定装置·全自動尿中有形分析器	シスメックス(株)	各1式	令 2
手術室	涙道内視鏡	ファイバーテック(株)	1式	令 2
各病棟	電動ベッド	パラマウントベッド(株)	10 台	令 2
各病棟	生体情報モニター	日本光電(株)	1式	令 2
循環器	循環器サーバーシステム	グットネット	1式	令 2
循環器	キャピオックス遠心ポンプコントローラー	テルモ(株)	1式	令 2
循環器	大動脈バルーンポンプ	ゲティンゲ・ジャパン	1式	令 2
検査科	ホルター測定器	フクダ電子(株)	1式	令 2
透析室	透析装置	日機装(株)	1式	令 2
臨床工学科	セントラルモニタ等	日本光電工業株式会社	1式	令 3
放射線科	全身用X線骨密度測定装置	GE ヘルスケア・ジャパン(株)	1台	令 3
泌尿器科	膀胱腎盂ビデオスコープ	オリンパス株式会社	1台	令 3
検査科	冷却組織切片作成装置	サクラファインテックジャパン(株)	1台	令 3
検査科	超音波診断装置	富士フイルムヘルスケアシステム(株)	1台	令 3

科 名	名 称	銘 柄		購入年度
耳鼻科	電気眼振計 NY-50 眼球刺激装置 OK-5	リオン株式会社	1 式	令 3
臨床工学科	セントラルモニター	日本光電工業株式会社	1 式	令 3
透析室	RO 装置人工透析用水処理装置	ダイセン・メンブレム・システムズ(株)	1台	令 3
循環器	血管造影装置等	(株)島津製作所	1 台	令 3
循環器	エキシマレーザー等	フィリップス・ジャパン		令 3
内視鏡	内視鏡被爆防止スコープ	オリンパス株式会社	1 式	令 3
循環器	循環器映像スイッチャー	(株)メディプラス		令 3
眼科	眼科顕微鏡	カールツァイス株式会社	1 式	令 3

佐久市立国保浅間総合病院 年報 2021 年度

2022年8月発行

発行者 箕輪 隆

佐久市立国保浅間総合病院 〒385-8558 長野県佐久市岩村田 1862-1

編集担当 西森 栄太

黒岩 美恵子

矢嶋 ちか江

樋沢 省吾